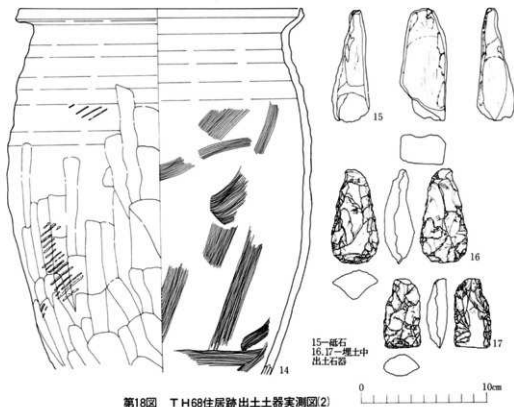


第17圖 T H68住居跡出土土器実測図1)



第18図 T H68住居跡出土土器実測図2)

て堅緻である。また胴部中央辺に数条の平行叩き目が残り下方はヘラナデの調整がタテまたは横方向に認められる。

石器 16～18、16は砥石で3面に使用痕が残されている。17・18は遺構に伴ったものとは思えないが一応共伴遺物として参考までに図示した。両者は不定形石器の類で横長の剥片を利用して刃部を作り出し両面からの剥離調整を行っている。材質は頁岩である。

(2) 遺構と遺物に関する問題点

遺構

検出された遺構は竪穴住居跡2棟であるが、これら両住居遺構の相互間にみられる異同及び住居跡の住居跡遺構との比較等をとおして若干の問題点を指摘したい。

両住居跡のプランは隅丸長方形を呈しているが長軸方向に差異がみられT H68住は東西、Y D 56住は南北に傾いている。柱穴はY D 56住は4本が想定されこのうち1本だけが対角線上にのり他はやゝずれる傾向をみせている。またT H68住では主柱穴と想定されるものは発見できない。

当地域における一般的住居構造では主柱穴のうち2本が方形プランの対再線上にのることを通例とすれば若干の問題を提起することになる。カマドは夫々の住居跡に付帯されるがTH68住では3基、YD56住では2基検出されこれらは時期差をもつものと推測される。TH68住における3基の新旧関係は、北カマド→南カマド→東カマドの順であろう。またYD56住は南カマド→東カマドへの移行と想定できる。以上からカマド付設の位置が、北または南が古く最終的には東カマドへの定着が普遍化されるものと思われる。さらにカマド位置が夫々の壁の中央に構築されず偏在する共通性をみせている。このような類例は県内に多く、土器製作にロクロ技術が定着した段階の住居構造といえる。次にTH68住の東カマドにみられる3個の小形ビットの性格は不明であるがこれについては今後の課題として問題提起だけにとどめる。

出土遺物

出土遺物は土器を主体とし他に数点の石器がある。これらの遺物は堆積土内及び床面、カマドからの出土である。

坏は土師器、須恵器、赤焼き土器の三類である。個体数、破片数とも多いのが赤焼き土器で土師器と須恵器はほぼ同数である。土師器は内面だけに調整があり内黒処理を施している。また器形は内彎気味に外傾し器高もやや高い、底部は回転糸切りで二次調整は認められない。この類例は相去遺跡の坏形土器A₂類に相当するものである。須恵器はやや軟質のものが目立ち色調に白黄色または灰白色のものがある。これらは全てロクロ成形により底部は回転糸切りの切り離しに終るものである。赤焼き土器は数的に最も多いものであるがいずれもロクロ成作で内外面の調整は認められずまた黒色処理もない。

甕は小形と中形のものでほとんど占められ、成形にロクロ未使用のものが割合多く巻き上げ技法によっている。小形甕には木葉底のもの1点が含まれている。しかし甕類の時期については年代間に幅があり即答はできない。ここでは出土事例を掲げ今後の土師器甕類の編年作業の進行の中で位置づけてほしい。各住居跡の所属時期は、TH68住が9世紀中葉、YD56住が10世紀中葉ごろと一応想定しておく。

土器破片数

T H 68 住 居 跡			Y D 56 住 居 跡		
種類	器 種	破 片 数	種類	器 種	破 片 数
土師器	坏	10	土師器	坏	8
	甕 (小形)	23		甕 (小形)	8
	甕 (大形)	268		甕 (大形)	85
須恵器	坏	7	須恵器	坏	4
	甕 (大形)	7		甕 (大形)	3
赤土焼器	坏	24	赤土焼器	坏	5

北 部 地 区

土層注記表

(I) 土色

混入土	基本土	黒褐色			暗褐色		褐色			黄褐色		
		10Y R 2.2	10Y R 2.3	10Y R 3.2	10Y R 3.3	10Y R 3.4	10Y R 4.3 10Y R 4.4	10Y R 4.6	10Y R 5.3 10Y R 5.4	10Y R 5.6	10Y R 5.8	10Y R 6.6 10Y R 6.8
黒褐色	極少 (1~4%)	1	14	27	40	51	66	79	92	105	118	131
	小 (5~10%)				41	54	67	80	93	106	119	132
	中 (11~25%)				42	55	68	82	94	107	120	133
	多 (26~49%)				43	56	69	82	95	108	121	134
暗褐色	極少	2	15	28	44	57	70	83	96	109	122	135
	小	3	16	29			71	84	97	110	123	136
	中	4	17	30			72	85	98	111	124	137
	多	5	18	31			73	86	99	112	125	138
褐色	極少	6	19	32	45	58	74	87	100	113	126	139
	小	7	20	33	46	59				114	127	140
	中	8	21	34	47	60				115	128	141
	多	9	22	35	48	61				116	129	142
黄褐色	極少	10	23	36	49	62	75	88	101	117	130	143
	小	11	24	37	50	63	76	89	102			
	中	12	25	38	51	64	77	90	103			
	多	13	26	39	52	65	78	91	104			

(II) 土性

シルト質壤土: SiL — a
 シルト質粘壤土: SiCL — b
 シルト質粘土: SiC — c
 砂 壤 土: SL — d
 砂 質 粘 壤 土: SCL — e
 砂 質 粘 土: SC — f
 砂 土: S — g
 重 粘 土: HC — h

(III) しまり

密(Tight) — T
 やや密 — T'
 中(Middle) — M
 やや疎 — C'
 疎(Coarse) — C

(IV) 堆積上の状況

粒状(極小粒状)堆積土 — P cowlary soil
 粒状(小・中・大粒状)堆積土 — G ranular soil
 塊状(ブロック状)堆積土 — A ngular soil

(V) 混入物

焼土(Baked soil) — B 微量 — 1
 木炭(Charcoal) — C 少量 — 2
 その他 普通 — 3
 無し 多量 — 4

(VI) 何の形成

自然堆積: Natural accumulation — N
 人為堆積: Artificial accumulation — A

注 第19回~第40回の注記は以下の種で表示してある。

種No・層位・(I)・(II)・(III)・(IV)・(V)・(VI)

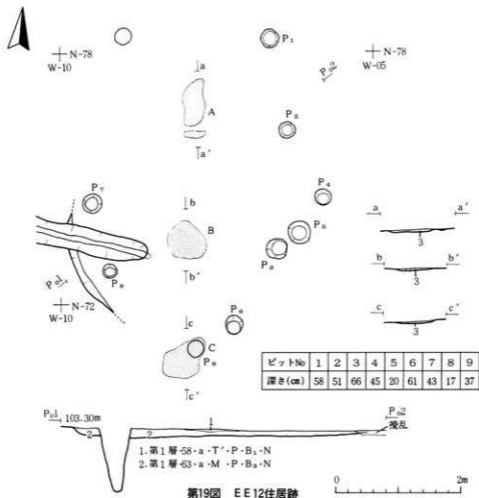
北部地区

〔I〕 縄文時代の遺構

1 竪穴住居跡

EE12住居跡 (第19図)

〔遺構の確認〕 E区の中央やや西寄りに位置しており、地山面上より焼面を検出して遺構の存



在を確認した。なお、住居の平面形・規模・柱穴等は不明である。

〔重複〕 EE 091・EE 092・EE 122・EE 095・EG 121の5個の貯蔵穴状ピットと重複し、それらのピットよりも新しい。また、EF 12陥し穴状土壌とも重複し、それよりは古い。

〔堆積土〕 最下層のみ確認されており、暗褐色シルトの自然堆積層である。

〔床〕 壁は南北辺の1部でしか確認されていない。現存値で約10cmの壁高をもち、床面からの立ち上がり角度はゆるい。

〔周溝〕 周溝は検出されていない。

〔柱穴〕 11個の柱穴状ピットが検出されているが、配置形からみて明確に柱穴とすることのできるピットはみあたらない。

〔炉〕 焼面が3箇所(A・B・C)で確認されている。大きさはAが34×91cm、Bが61×60cm、Cが57×72cmの広がりをもつ。

EE 21住居跡(第20図)

〔遺構の確認〕 調査区の北端、E区のほぼ中央部に位置し、住居跡の一部は、調査区西端外に延びる。第IIa層の上面より遺構の存在を確認している。

〔重複〕 FE 151フラスコ状ピットと重複関係にあり、住居跡はそれを切って構築されている。住居の増改築の痕跡は認められない。

〔平面形・規模〕 長軸長9.90m、短軸長7.54mの整った楕円形を呈する。長軸方向はN-41°-Wである。また、住居内面積は約57.6㎡である。

〔堆積土〕 竪穴内の堆積土は3層に細分されるが、基本的には2層に大別される。第1層を自然堆積層、第2層を人為的堆積層(生活層)として認定した。

〔床面〕 地山まで掘り込んで床面としている。床面は南側から北側にかけてやや傾斜しているが凸凹はみられずほぼ平坦である。比較的堅い。

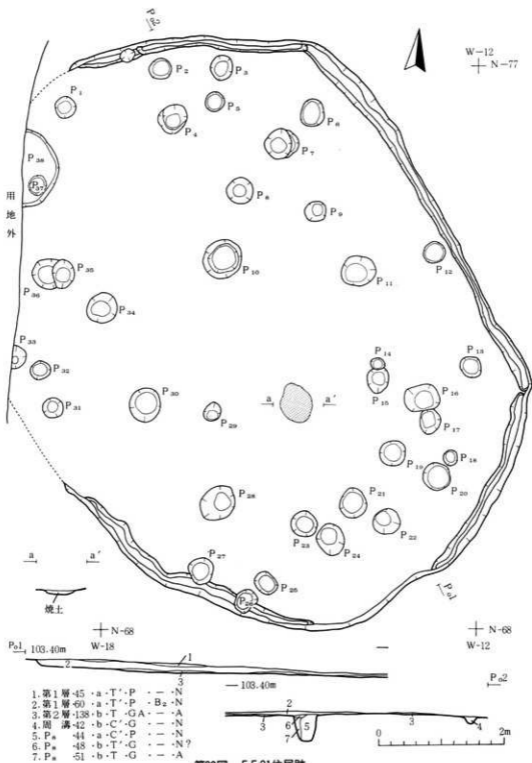
〔壁〕 地山と第Ic層を壁としている。壁は南壁のみ遺存し、その最大高は約15cmである。立ち上がり角度は比較的ゆるい。

〔周溝〕 南壁の一部を除いてほぼ全周している。幅12~28cm、深さ5~13cmを計り、断面は「U」字形を呈する。なお、周溝内からピットは検出されていない。

〔柱穴〕 床面上より合計37個のピットが検出されている。ピットの形状・規模・堆積土等から、

ピット一覧表

ピットNo	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
深さ(cm)	28	44	14	95	9	4	66	43	46	95	91	8	6	21	16	92	42	6	34
ピットNo	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38
深さ(cm)	14	31	89	31	103	18	12	30	102	32	97	23	13	37	35	98	56	15	12



第20圖 EE 21住居跡

P₄・P₇・P₁₁・P₁₆・P₂₄・P₂₈・P₃₀・P₃₅の8個が柱穴と考えられる。これらのピットは、長軸方向を対称軸として東側と西側に3個ずつ配置され、短辺中央の2個は短辺側柱より張り出して位置する。

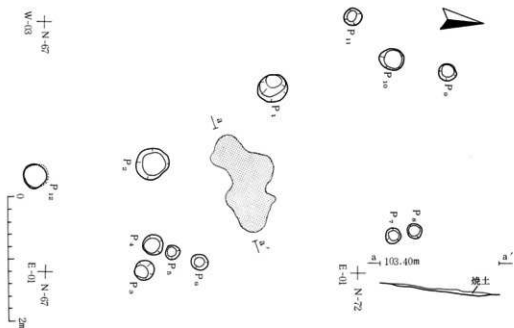
【炉】 床面の1ヶ所から焼面（地床炉）が検出されている。床面の中央部からは南にずれており、住居の長軸上に位置する。規模は約55×51cmである。

E F 03住居跡（第21図）

【遺構の確認】 E区の中央に位置し、地山面より焼面や柱穴状ピットを検出して遺構の存在を確認した。なお、住居跡の平面形・規模・堆積土・壁・周溝・柱穴等是不明である。

【重複】 E F 031・E F 032・E G 034・E G 035・E H 031などの貯蔵穴状ピットと重複関係にあり、当住居跡はそれらのピットよりも新しい。

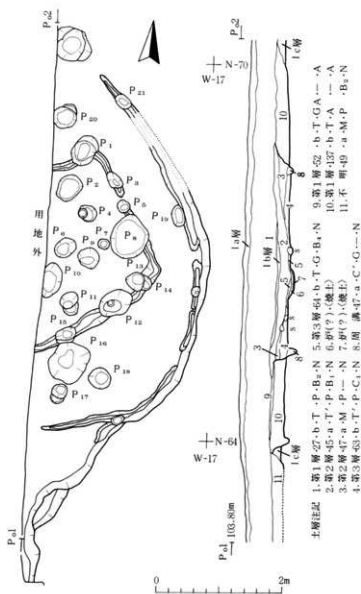
【床】 焼面が検出された周囲では床面がそのまま遺存しているものと思われる。床面の遺存部



ピット一覧表

ピットNo.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
深さ (cm)	76	?	94	55	38	16	20	23	68	42	?	?

第21図 E F 03住居跡



分(焼面周囲の狭範囲)の観察によれば、床面はかなり凹凸がみられ、比較的柔かい。

〔柱穴〕 かなりの柱穴状ピットが検出されているが、大きさ・深さ・堆積土・配置形などから検討したが明確に柱穴とすることのできるピットは確認されていない。

〔炉〕 焼面が1ヶ所検出されている。比較的堅く焼けており、162×71cmの広がりをもつ。

EG21住居跡(第22図)

〔遺構の確認〕 G区中央西端に位置し、第1c層中より遺構の存在を確認した。住居の大半が調査区外に延びるため平面形・規模・柱穴・炉などは不明である。

〔重複〕 EH21住居跡と重複関係にあり、中央部がそれによって切られている。

〔平面形・規模〕 とともに不明であるが、平面形は南北に長い楕円形を呈する可能性が強い。

ピット一覧表

ピットNo	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
深さ(cm)	72	21	9	75	51	12	64	73	16	11	38
ピットNo	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
深さ(cm)	64	58	49	43	16	70	90	17	50	7	32

第22図 EG21・EH21住居跡

〔堆積土〕 住居内堆積土は単層となり、人為的堆積層と思われる塊状混合土である。

〔床面〕 地山をそのまま床面としている。床面はほぼ平坦で比較的堅い。

〔壁〕 第1c層と地山を壁としている。住居の全体プランは地山面上で検出したため壁はほとんど残存しない。東辺の遺存部分、および埋土断面の観察によれば壁高は20cm弱になる。壁の立ち上がり角度は極端にゆるい。

〔周溝〕 調査区内に限ればほぼ全周している。幅約10～22cm、深さ約3～7cmとなり、断面形は「U」字形を呈する。周溝内からは4個のビットが検出されている。

〔柱穴〕 床面上には、EH21住居跡のそれと合わせて多数のビットが検出されているものの柱穴と断定できるものはみあたらない。配置形が不明のためいずれも柱穴と断定できない。

〔炉〕 調査区内には炉が検出されていない。

EH21住居跡（第22図）

〔遺構の確認〕 E区中央西端に位置し、第1c層中より遺構の存在を確認した。なお、住居の大半が調査区外に入るため、平面形・規模・炉・柱穴等は不明である。

〔重複〕 EG21住居跡と重複関係にあり、当住居跡はそれを切って構築されている。

〔平面形・規模〕 周溝の平面形が方形を呈することからみて、住居跡のプランは正方形を呈する可能性が高い。

〔堆積土〕 住居内堆積土は基本的に3層分けられる。いずれも自然堆積層として認定した。

〔床面〕 地山をそのまま床面としている。床面はかなり凹凸がみられ、比較的堅い。

〔壁〕 EG21住居跡の堆積土を壁としている。調査時に削平しており、ほとんど遺存しない。埋土断面の観察によれば、20cm内外の壁高をもち、壁の立ち上がり角度はゆるい。

〔周溝〕 調査区内に限れば全周している。幅約10～22cm、深さ約3～15cmを計り、断面形は「U」字形を呈する。なお、周溝内からは8個のビットが検出されている。

〔柱穴〕 床面上からは合計15個のビットが検出されている。大半が調査区外に入るため、柱穴の配置形は明確にできないが規模・堆積土などからみて、P₁・P₁₄・P₁₅が柱穴となる可能性をもつ。

〔炉〕 炉と想定される施設は発見されていない。ただ、P₁₀の底部に焼面がみられ、その周囲に礫が検出されている。炉となる可能性もある。

E H 15住居跡（第23図）

〔遺構の確認〕 調査区北部の西方に位置し、第1c層の下部より遺構の存在を確認した。

〔重複〕 E I 15住居跡・E I 121ピット・E H 151ピット・E J 122ピットと重複関係にあり、前者2遺構より新しく、後者の2遺構より古い。

〔増改築〕 柱穴の配置・複数の炉の存在などからみれば、住居の拡張が行われた可能性が高い。

〔平面形・規模〕 長軸長6.46m、短軸長4.41cmの楕円形を呈する。長軸方向はN-50°30′-Wである。また住居内面積は約21.8㎡となる。

〔堆積土〕 住居内堆積土は3層に分けられる。いずれも自然堆積層として認定した。

〔床面〕 地山まで掘りこんで床面としている。とくに叩きしめられた痕跡もなく比較的柔かい。

〔壁〕 第1c層と地山を壁としている。残存する壁高は約10～19cmであり、壁は床面よりかなり急角度で立ちあがる。

〔周溝〕 周溝は確認されていない。

〔柱穴〕 床面上には合計32個のピットが検出されているが、このなかのP₃₀・P₃₁・P₃₂はE I 15住居跡に伴うものである。配列の規則性・規模からみて、P₂₂・P₁₄・P₂₀・P₁₉・P₂₅・P₂₄の6個、およびP₁₀・P₁₄・P₂₀・P₁₈・P₃・P₂₃の6個の2通りの組み合わせが考えられ、P₁₄・P₂₀の2個は併用されている。前者と後者の新旧関係は明確にできないが、後者の柱穴列が住居廃絶時の平面形と対応しており、住居の拡張に伴って前者から後者への建て替えが行われたことを窺わせている。

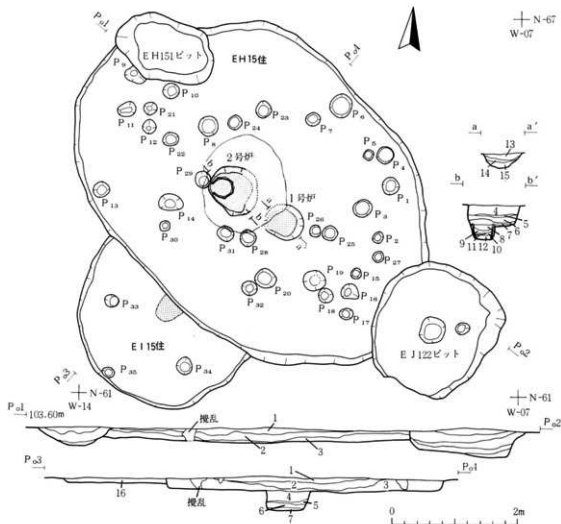
〔炉〕 住居跡内床面上に2基の炉が検出されている。それぞれ形態が異なり、次のように分類される。

〈1号炉〉 床面を掘りくぼめ、掘り込み部の底面を炉床としたものである。付属施設は全く認められない。大きさは、62×54cmで深さは約15cmである。かなり良く焼けており、焼土の厚さは最大で10cmを計る。

〈2号炉〉 床面を掘りくぼめ、掘り込み部の底面に直立埋設土器を伴うものである。土器以外の付属施設はもたない。土器は深鉢形縄文土器の口縁部～体部片で、高さ約23cmを計り、内部に焼土・木炭が充填する。周囲の炉床も良く焼けている。掘り込み部の大きさは82×70cmで、炉床までの深さは約32cm（掘り方底部までは約55cm）になる。上面は固化されている。

1号炉は住居廃絶時まで使用されたもので、2号炉は住居の拡張以前に使用されていたものと推定される。ともに、住居の長軸線上に乗り、床面のほぼ中央に位置する。

— 西田遺跡 —



- | | | | | |
|--------------------|--------------------|------------------|------------------------------------|---------------------|
| 1. 第1層・29・b・T'・P | ・B ₁ ・N | 6. 2号炉・64・a・T'・P | ・B ₂ ・N | 11. 2号炉・(木炭) |
| 2. 第2層・45・a・M・P | ・B ₁ ・N | 7. 2号炉・63・a・M・G | ・B ₄ C ₃ ・N | 12. 2号炉・123・b・M・G |
| 3. 第3層・60・a・T'・P | ・N | 8. 2号炉・(焼土) | | 13. 1号炉・62・a・T'・P |
| 4. 2号炉・136・b・T'・GA | ・B ₃ ・A | 9. 2号炉・50・b・C'・G | ・B ₃ C ₃ ・A? | 14. 1号炉・61・a・T'・G |
| 5. 2号炉・(焼土) | | 10. 2号炉・(焼土) | | 15. 1号炉・(焼土) |
| | | | | 16. 第1層・121・b・T'・AG |

ピット一覧表

ピットNo	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
深さ(cm)	12	9	34	14	17	14	25	26	22	58	25	35	33	49	5	28	27	27	44
ピットNo	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35			
深さ(cm)	56	46	37	36	47	69	23	18	12	9	45	39	58	57	?	56			

第23図 EH15・E115住居跡

E I 15住居跡(第23図)

〔遺構の確認〕 調査区北部の西方に位置し、第1b層の下部より遺構の存在を確認した。

〔重複〕 E H 15住居跡、E J 152ピットと重複関係にあり、E J 152ピットより新しく、E H 15住居跡より古い。増改築の痕跡は認められない。

〔平面形・規模〕 E H 15住居跡によって破壊されているため、規模は不明であるが平面形は楕円形を呈するものと思われる。長軸方向は $N-38^{\circ}30'-E$ である。

〔堆積土〕 堆積土は黒褐色土と黄褐色土との塊状混合土であり、人為的堆積層と思われる。

〔床面〕 地山まで掘り込んで床面としている。床面は平坦で比較的柔い。

〔壁〕 地山を壁としている。残存する壁高は約3~11cmであり、ほとんど残っていない。床面からの立ちあがり角度はゆるやかである。

〔柱穴〕 柱穴には $P_{30} \sim P_{36}$ の6本があてられる。いずれも規模が一致し整った配置形を呈する。

〔炉〕 床面上の1ヶ所に焼面(地床炉)が検出されている。住居の長軸線上に乗っているが、床面上の位置は明確にできない。規模は $(36) \times 40$ cmを計る。

E I 21-1住居跡(第24図)

〔遺構の確認〕 E区南部、調査区西端に位置し、地山面上より遺構の存在を確認した。

〔重複〕 E I 21-2住居跡・E J 21住居跡・E G 21住居跡、およびE J 181フラスコ状ピットと重複関係にある。当住居跡はE J 181フラスコ状ピットを切って構築されているが、ほかの3棟の住居跡には壁の一部を切られている。住居の増改築の痕跡は認められない。

〔平面形・規模〕 長軸長約3.07m、短軸長2.64mの楕円形を呈する。長軸方向は $N-49^{\circ}30'-W$ である。なお、住居内面積は約6.21 m^2 になる。

〔堆積土〕 住居内堆積土は基本的には2層に大別される。上層は人為的堆積層、下層は自然堆積層として認定した。

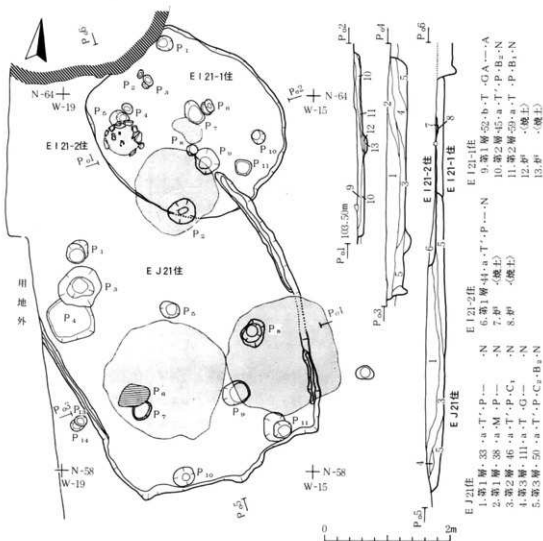
〔床面〕 地山をそのまま床面としている。床面は西に向かってやや低くなっているが、ほぼ平坦で比較的柔かい。

〔壁〕 第1c層と地山を壁としている。東壁以外は3棟の住居跡によって削平を受けており、壁高は残存値で1~12cmを計る。床面から立ちあがり角度は比較的きつい。

〔周溝〕 周溝は検出されていない。

〔柱穴〕 床面上からは合計11個のピットが検出されている。このなかにはE I 21-2住居跡に伴うピットも含まれているものと思われるが、配列が不規則で柱穴として明らかにできるものは認められなかった。

— 西田遺跡 —



ビット一覧表 (E I 21-2 住、E J 21 住)

ビットNo	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
深さ (cm)	26	50	62	12	29	26	?	75	72.5	37	54	41	18	11

ビット一覧表 (E I 21-1 住)

ビットNo	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
深さ (cm)	34	10	55	48	45	39	48	38	100	87	8

第24図 E I 21-1・E I 21-2・E J 21住居跡

〔炉〕 床面上に焼面（地床炉）が検出されている。下部は浅いピット状になっており、床面のレベルに合わせて埋め戻されている。住居のほぼ中央に位置する。

E I 21-2住居跡（第24図）

〔遺構の確認〕 G区南部、調査区西端に位置する。E I 21-1住居跡の精査中に炉が検出されたことによって遺構の存在を確認している。埋土断面によれば、第Ic層のほぼ上面を床面としており、周囲の遺構に比べて極端に高くなっている。したがって調査中にはほぼ削平してしまい、平面形・規模・壁・周溝、柱穴等は不明である。

〔重複〕 E J 21住居跡・E I 21-2住居跡と重複関係にあり、当住居跡はこれら2棟の住居跡を切って構築している。また、E G 21住居跡との切り合い関係は確認できなかったが、確実に重複している。

〔堆積土〕 最下層の埋土しか確認されていない。自然堆積した暗褐色のシルト層である。

〔床面〕 堆積土の断面観察によれば、第Ic層のほぼ上面を床面としている。

〔炉〕 床面を若干掘り凹め、周囲に礫を横位の状態で円形に配置した石囲炉である。使用痕跡はあまりみられず、小範囲の薄い焼土が分布するのみである。

E J 21住居跡（第24図）

〔遺構の確認〕 E区南部、調査区西端に位置し、地山面上より遺構の存在を確認した。

〔重複〕 E I 21-1住居跡・E I 21-2住居跡、およびF J 181・E J 182・E J 185フラスコ状ピットと重複関係にあり、E I 21-2住居跡に北壁の一部を切られているほかは、すべての遺構を切って構築している。住居の増改築の痕跡はみられない。

〔平面形・規模〕 長軸長約4.45m、短軸長3.67mの長方形を呈する。長軸方向はN-31°-Wである。住居内面積は推定で15.26㎡となる。

〔堆積土〕 住居内堆積土は基本的に3層に大別される。典型的なレンズ状の堆積を示している。

〔床面〕 地山をそのまま床面としている。床面は平坦で堅い。

〔壁〕 第Ic層と地山を壁としている。壁の残存値は0~21cmで、北壁はまったく遺存しない。埋土断面の観察によれば27cm内外の壁高をもつ。壁は床面よりゆるく立ちあがる。

〔周溝〕 東壁と西壁で検出されており、北壁と南壁では認められない。幅約10~22cm、深さ約3~10cmで、断面形は「U」字形を呈する。周溝内からピットは検出されていない。

〔柱穴〕 床面上には11個のピットが検出されている。このなかで配置形からみて柱穴と想定されるものにはP₁・P₂・P₁₀・P₁₁の4個があり、P₈・P₉がそれに加わる可能性をもつ。

〔炉〕 炉と想定される施設は検出されていない。

F J 18住居跡 (第25図)

〔遺構の確認〕 F区南部、調査区の西端に位置し、Ic層中より遺構の存在を確認した。

〔重複〕 大小多くの柱穴状ビットと重複関係にあり、当住居跡はそれらのビットを削平して構築している。なお、住居の増改築の痕跡は認められない。

〔平面形・規模〕 約3.37×3.40cmのやや歪んだ円形を呈する。長軸方向は東西にとって、N-97°-Eである。住居内面積は約8.16㎡である。

〔堆積土〕 住居内堆積土は基本的に3層に大別される。第1層・第2層を自然堆積層、第3層を人為的堆積層(生活層)として認定した。

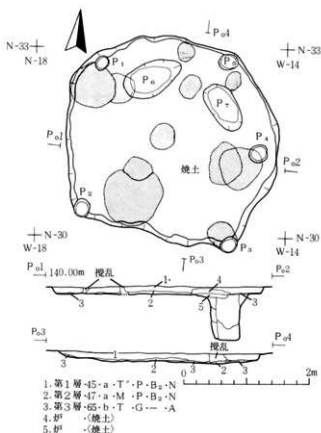
〔床面〕 地山をそのまま床面としている。床面はかなり凸凹がみられ、比較的柔かい。

〔壁〕 第1c層と地山を壁としている。壁高は約8~12cmを計り、壁の立ち上がり角度はゆるい。

〔周溝〕 周溝は検出されていない。

〔柱穴〕 床面下のビットを除き、当住居跡に伴うものと想定されるビットは合計7個検出されている。このうち柱穴状のビットはP₁・P₂・P₃・P₄・P₅の5個を数え、当住居跡の主柱穴にはこの5個のビットがあてられるものと思われる。すべて壁際に配置されており、それらを結んだ線はほぼ整った五角形を呈する。

〔炉〕 床面上に焼面(地床炉)が1ヶ所検出されている。床面中央の東寄りに位置し、住居の中軸線上に乗る。約68×54cmの広がりをもつ。



ビット一覧表

ビットNo	1	2	3	4	5	6	7
ビット名	P-3	P-4	F J - 159	F J - 157	P-2	P-5	F J - 1515
深さ(cm)	26	27	32	26	27	13	11

第25図 E J 18住居跡

F B 53—1 住居跡 (第26図)

〔遺構の確認〕 F区の北部中央やや東寄りに位置し、地山面上より遺構の存在を確認した。

〔重複〕 F B 53—2 住居跡、F B 531・F C 561 フラスコ状ピットの3遺構と重複関係にあり、そのいずれよりも新しい。なお、住居の増改築の痕跡はみられない。

〔平面形・規模〕 長軸長4.51m、短軸長3.30mの隅丸長方形を呈する。長軸方向はN-72°30'-Wである。住居内面積は約11.9㎡である。

〔堆積土〕 住居内堆積土は3層に分けられ、いずれも自然堆積層として認定した。

〔床面〕 地山をそのまま床面としている。床面は中央で低く、壁際でやや高くなっているが凸凹はみられずほぼ平坦である。比較的堅い。

〔壁〕 地山を壁としている。残存する壁高は約15~25cmでかなり深い。床面よりの立ちあがり角度は比較的ゆるい。

〔周溝〕 周溝は検出されていない。

〔柱穴〕 床面上に検出された14個のピットのうち、柱穴にはP₁・P₂・P₃・P₄・P₅・P₆・P₈・P₁₁の8個があてられ、そのいずれにも柱痕が確認されている。このほかP₁₀が柱穴となる可能性をもつが、炉と考えられる焼土面の下より検出されている。これらのピットは住居の長短辺に沿って3個ずつ配置されており、配列に規則性が認められる。

〔炉〕 炉は地床炉で床面の中央に焼面が検出されている。かなり規模が大きく、長軸方向に長くなっている。161×53cmを計る。

F B 53—2 住居跡 (第26図)

〔遺構の確認〕 F区の北部中央やや東寄りに位置し、地山面上より遺構の存在を確認した。

〔重複〕 F C 561・F C 563ピット・F B 53—1住居跡・F B 56土壌と重複関係にあり、前者2遺構より新しく、後者の2遺構より古い。住居の増改築の痕跡はみられない。

〔平面形・規模〕 長軸長6.69m、短軸長4.93mの楕円形を呈する。長軸方向はN-6°30'-Eである。住居内面積26.2㎡を計る。

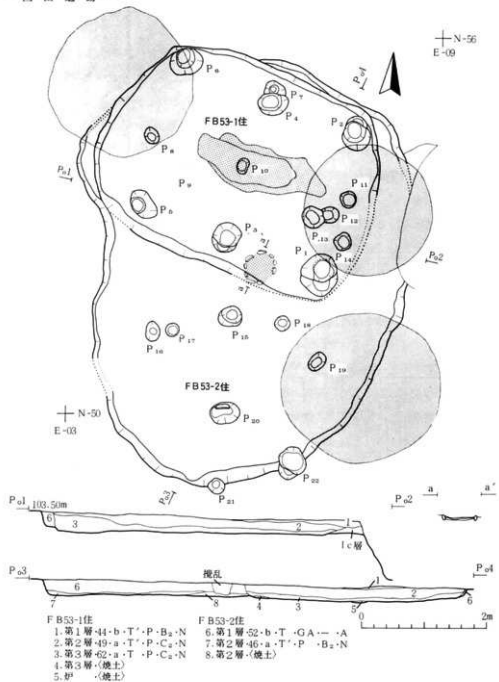
〔堆積土〕 基本的には2層に分けられ、上面の厚い堆積層は人為的堆積層として認定した。

〔床面〕 地山をそのまま床面としている。床面は部分的に凸凹がみられるもののほぼ平坦になっている。とくに叩きしめられた痕跡もなく比較的柔かい。

〔壁〕 地山を壁としている。残存する壁高は約13~23cmでかなり高くなっている。床面よりかなり急角度で立ちあがる。

〔周溝〕 周溝は検出されていない。

〔柱穴〕 床面上に検出された20個のピットのうち、当住居の柱穴となる可能性をもつものには、



ピット一覧表

ピットNo	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
深さ(cm)	87	70	88	83	66	73	78	119	?	?	?
ピットNo	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
深さ(cm)	7	19	?	22	62	28	9	59	31	9	28

第26図 FB53-1・FB53-2住居跡

$P_7 \cdot P_9 \cdot P_{11} \cdot P_{16} \cdot P_{19} \cdot P_{20}$ の6個があてられる。これらのピットは規模がほぼ一致するが、 P_9 は未調査のため深さが不明である。また、 P_{11} はF B 53—1住居跡の柱穴となることが考えられ、やや疑問が残る。

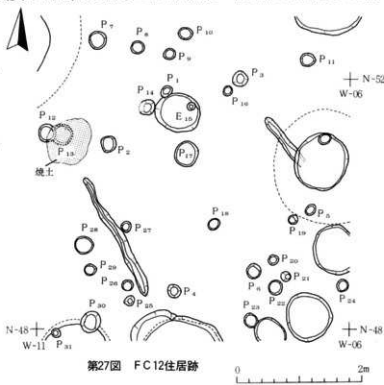
〔炉〕 住居内はほぼ中央に設置されている。床面をわずかに掘りくぼめ、周縁に小礫を横位の状態で円形に配置した石組炉である。ほぼ全域がF B 53—1住居跡の床面になっており、石の上部が若干露出しているものにもかかわらず破壊をまぬがれている。規模は 54×52 cmを計る。

F C 12住居跡(第27図)

〔遺構の確認〕 F区の北部やや西寄りに位置しており、周溝の一部と柱穴列を検出して遺構の存在を確認した。住居の平面形・規模・堆積土・壁等は不明である。

〔重複〕 F C 091・F E 121の2基のフラスコ状ピットをはじめとし、多くの柱穴状ピットと重複関係にある。新旧関係は明確にできないが、フラスコ状ピットより新しくなる可能性が強い。

〔平面形〕 平面形は不明であるが、柱穴の配置形、および周溝の形状からみて楕円形を



第27図 FC12住居跡

ピット一覧表

ピットNo	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
ピット名	FC-094	FD-121	FC-095	FD-0914	FD-095	FD-097	FC-123	FC-124	FC-125	FC-096	FC-094	FC-126	FC-127	FC-122	FC-097	
深さ(m)	7	32	37	44	32	47	46	54	27	17	20	16	15	38	7	
	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
FC-094	FD-094	FC-095	FD-096	FD-098	FD-099	FD-0915	FD-0912	FD-0913	FD-126	FD-125	FD-129	FD-123	FD-1210	FD-128	FD-127	
	11	30	4	15	9	11	18	28	9	15	9	9	45	8.5	39	7

呈するものと考えられる。長軸方向は推定で $N-32^{\circ}-W$ である。

〔床面〕 地山をそのまま床としている。南側から北側に向かってやや低くなっているものはほぼ平坦である。

〔周溝〕 東辺と西辺の一部で検出されている。幅約 $7\sim 14\text{cm}$ 、深さ $5\sim 9\text{cm}$ を計る。

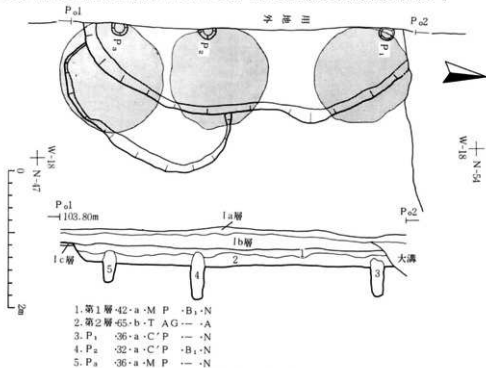
〔柱穴〕 柱穴と想定されるピットには $P_1 \cdot P_2 \cdot P_3 \cdot P_4 \cdot P_5 \cdot P_6$ の6個があげられる。これらのピットを結んだ線は整った六角形を呈し、規模、深さともほぼ一定している。

〔炉〕 周溝および柱穴列の内部からは炉と思われる施設はまったく検出されていない。西辺周溝の北側に焼面が一ヶ所認められるが当住居跡に伴うものとは考えにくい。

F C 21住居跡 (第28図)

〔遺構の確認〕 F区北部の西端に位置し、第Ic層中より遺構の存在を確認した。住居の大半は調査区外に延び、平面形・規模などは不明である。

〔重複〕 F C 212・F D 211・F D 212の3ピット、および北大溝と重複関係にある。フラスコ状ピット3遺構よりも新しく、大溝より古い。また、東壁外に竪穴状の張り出しが検出されており、当住居跡に付随するものか、重複する他の遺構となるかを明確にできなかった。重複関係にあるとすれば、当住居跡のほうが新しい。なお、住居の増改築の痕跡は認められない。



第28図 FC21住居跡

〔平面形・規模〕 ともに不明であるが、平面形は南北に長い楕円形を呈する可能性が強い。

〔堆積土〕 住居内堆積土は2層に分けられるが、下層は人為的堆積層、上層は自然堆積層として認定した。

〔床面〕 地山をそのまま床面としている。床面は平坦であるが比較的柔い。

〔壁〕 地山を壁としている。壁高はかなり高く、残存値で約17～21cmを計る。壁は床面からゆるやかに立ちあがる。

〔周溝〕 周溝は検出されていない。

〔炉〕 炉は調査範囲内の床面上からは検出されなかった。

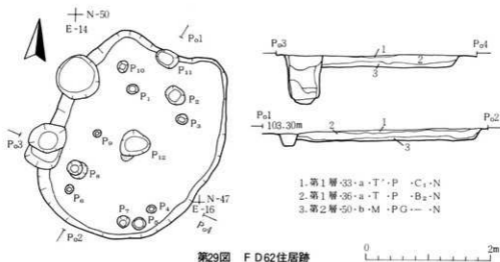
F D 62住居跡

〔遺構の確認〕 F区中央の東端に位置し、第IIa層（地山）上面より遺構の存在を確認した。

〔重複〕 F D 625・F D 626・F D 627ピットと重複関係にある。住居の西壁がこれらのピットに切られており、そのいずれよりも古い。なお、住居の増改築の痕跡は認められない。

〔平面形・規模〕 長軸長3.21 m、短軸長2.71 mの楕円形を呈する。長軸方向はN-24°-Eである。住居内面積は約6.28㎡を計る。

〔堆積土〕 堆積土は基本的には2層に分けられる。すべて自然堆積層として認定した。



ピット一覧表

ピット No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
深さ (cm)	38	36	45	29	7	39	42	9	11	20	16

〔床面〕 地山をそのまま床面としている。床面は平坦で比較的柔かい。

〔壁〕 地山を壁としている。遺存する壁高は10～22cmで、かなり深い。床面からの立ち上がり角度はゆるい。

〔周溝〕 周溝は検出されていない。

〔柱穴〕 床面上からは合計12個のビットが検出されている。このうち、 P_{11} ・ P_{12} は住居廃絶後に掘り込まれたもので、壁および炉を破壊している。配列の規則性から柱穴と想定できるものには P_1 ・ P_3 ・ P_6 ・ P_7 の4個があり、これらを結んだ線は整った長方形を呈する。

〔炉〕 床面上の1ヶ所から焼面（地床炉）が検出されている。 P_{12} に破壊されているため規模は不明であるが、住居のほぼ中央に位置する。

F E 18住居跡（第30図）

〔遺構の確認〕 F区中央の西端に位置し、第IIa層（地山面）上面より遺構の存在を確認した。

〔重複〕 住居跡内には多数のビットが掘られている。これらのビットは当住居跡と重複関係をもつものが多くみられ、上端のプランのみを図化したものは当住居より古い。残りのビットのなかにも当住居跡廃絶後に掘り込まれたものも存在すると思われるが明確にできなかった。またF E 21住居跡とも重複するが、切り合い部分が攪乱を受けているためその新旧関係は不明である。住居の増改築の痕跡は認められない。

〔平面形・規模〕 長軸長約5.23m、短軸長3.51mの長方形を呈する。長軸方向は $N-39^{\circ}30'$ — W である。なお住居内面積は約16.73㎡を計る。

〔堆積土〕 遺構内堆積土は基本的に3層に分けられる。すべて自然堆積層として認定した。

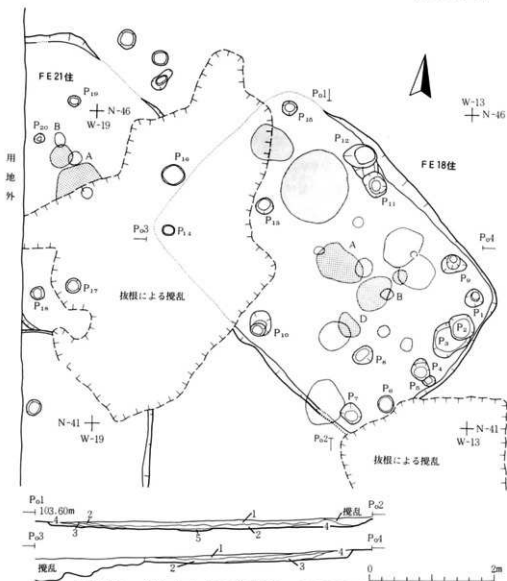
〔床面〕 地山をそのまま床面とし、床面の一部は抜根の攪乱によって破壊されている。部分的に凸凹がみられ、中央がやや低くなっている。とくに叩きしめられた痕跡もなく柔かい。

〔壁〕 地山を壁としている。攪乱部分が多く遺存状況は不良である。残存する部分で4～15cmを計り、壁の立ち上がり角度は比較的ゆるい。

〔周溝〕 周溝は検出されていない。

〔柱穴〕 当住居跡に伴うものと思われるビット15個のうち、柱穴と断定できるものには P_1 ・ P_7 ・ P_{10} ・ P_{11} ・ P_{14} ・ P_{15} の6個があり、 P_4 がそれに含まれる可能性をもつ。 P_4 が柱穴となるならば、 P_{14} と P_{15} の間にもう1個のビットが必要となるが検出されていない。抜根による削損を受けたものと推定される。

〔炉〕 床面上に焼面が4（A～D）ヶ所検出されている。A・Bの規模が大きく、C・Dのそれは小さい。A・Bは住居の長軸線上に乗り、Aは床面のほぼ中央に位置する。C・DはBと並びその両脇に位置する。Aは約78×55cm、Bは約51×65cm、Cは29×23cm、Dは29×42cmである。



1. 第1層・46・a・T・P・B₁C₂・N 4. 第3層・60・a・T・P・B₂C₂・N
 2. 第2層・49・a・M・P・B₂・N 5. 砂 (焼土)
 3. 第3層・62・a・T・G・B₁C₁・N

第30図 FE 18・FE 21住居跡

ビット一覧表

ビットNo	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
ビット名	FF-154	FF-155	FF-156	FE-18住	FG-158	FG-159	P-3	FF-1514	P-1	P-4
深さ(cm)	78	46	39	74	10	39	74	16	58	57
ビットNo	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
ビット名	P-5	FE-152	FF-182	P-7	P-6			FF-212	FE-214	FE-215
深さ(cm)	76	53	36	48	62	15	82	24	27	14

F E 21住居跡(第31図)

〔遺構の確認〕 F区中央の西端に位置し、一部は調査区外に入る。地山面(Ⅱa層)上より遺構の存在を確認した。なお、中央部が抜根による破壊をうけていること、西端が調査区外に延びることなどから住居の平面形・規模は不明である。遺構の増改築の痕跡は認められない。

〔重複〕 F G 21住居跡・F E 18住居跡と重複関係にある。当住居跡はF G 21住居跡に切られているが、F E 18住居跡との重複関係は不明である。

〔平面形・規模〕 ともに不明であるが、平面形は楕円形を呈する可能性が強い。

〔堆積土〕 堆積土は基本的に3層に分けられ、そのいずれも自然堆積層として認定した。

〔床面〕 地山をそのまま床面としている。破壊を免がれている部分では平坦で比較的堅い。

〔壁〕 地山を壁としている。ほとんどの箇所が破壊されており、壁高は2~12cmを計る。壁の立ちあがり角度はゆるい。

〔周溝〕 周溝は検出されていない。

〔柱穴〕 住居に伴うピットは床面上より5個検出されている。規模からみればP₁₆・P₁₇が柱穴となる可能性をもつが、配置等に規則性がみられず明らかにできなかった。

〔炉〕 床面上に焼面が2ヶ所(A・B)検出されている。Aは破壊されているが規模は大きく(48)×79cmを計る。Bは約36×34cmである。

F G 21住居跡

〔遺構の確認〕 F区のやや南寄り、調査区の西端に位置しており、炉と思われる焼面と柱穴列を検出して遺構の存在を確認した。住居の平面形・規模・堆積土・壁・周溝等は不明である。

〔重複〕 平安時代の堅穴住居跡(F G 21住)と重複し、それによって切られている。また、住居跡の柱穴列には2通りが考えられ、それぞれで重複ないしは拡張の関係にある可能性も残されている。

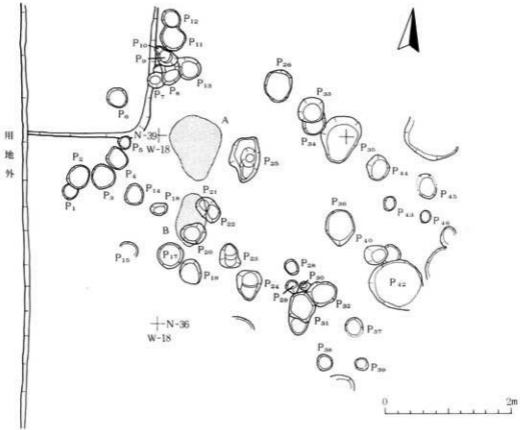
〔平面形〕 平面形は明確にできないが、柱穴の配置形からみて東西に長い長方形を呈することが予想される。長軸方向はN-66°-Wである。

〔床面〕 地山をそのまま床面としている。床面はほぼ平坦で堅くなっている。

〔柱穴〕 柱穴と想定されるピットには2通りの配置列が考えられる。P₂・P₅・P₁₁・P₂₃・P₃₃・P₃₇・P₄₁・P₄₅の8個と、P₃・P₆・P₁₂・P₂₀・P₂₆・P₃₁・P₄₀・P₄₄の8個とが考えられ、後者の配置列を構成するP₂₀は焼面Bに上部を覆われている。もし焼面Bが当住居跡に伴うもので、当住居が重複ないしは拡張が認められるものとするならば、後者の柱穴列から前者のそれへの移行が予想される。

〔炉〕 柱穴列の内部からは焼面(地床炉)が2ヶ所検出されている。焼面Aは住居中央長軸線

上に乗り、そのやや西寄りに位置し、焼面Bは長軸線の南に偏し、南側柱穴と近接する。規模は焼面Aが104×84cm、焼面Bが85×46cmを計る。



ピット一覧表

ピットNo	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	
ピット名	FH-216	FH-217	FH-216	FH-215	FH-214	FG-211	FG-183	FG-182	FG-185	FG-184	FG-186	
深さ(cm)	17	53	54	21	19	32+15	33	22	34		54	
ピットNo	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
ピット名	FG-187	FG-181	FH-213	FH-212	FH-211	FH-189	FH-219	FH-188	FH-1815	FH-1814	FH-1813	
深さ(cm)	55	42	40	35	平面図欠	32	20	55	42		55	
ピットNo	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34
ピット名	FH-186	FH-185	FH-1811	FG-1810	FH-187	FH-181			FH-182	FH-183	FG-189	FG-188
深さ(cm)	25	26	26	36	平面図欠	56			56	47	59	48
ピットNo	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46
ピット名	FH-1810	FH-1812	FI-153	FI-183	FI-154	FH-156	FH-157	FH-153	FH-158	FH-1511	FH-1510	FH-159
深さ(cm)	36	55	39	29	20	46	32	81	26	63	36	21

第31図 FG21住居跡

GA 21住居跡 (第32図)

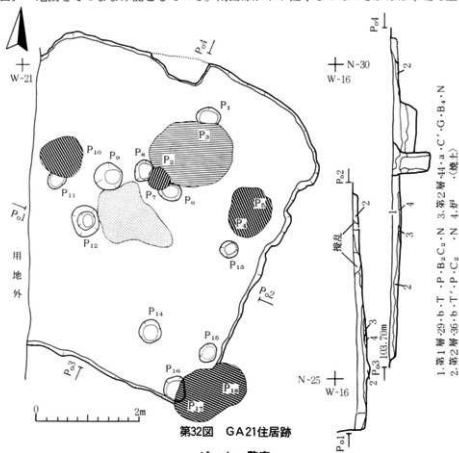
〔遺構の確認面〕 G区北部西端に位置し、第1c層中より遺構の存在を確認している。

〔重複〕 最底4個のビットと重複関係にあり、そのいずれのビットよりも古い。住居の増改築の痕跡は認められない。

〔平面形・規模〕 住居跡西側の一部が調査区外に入るため全体のプランは不明であるが、長軸長5.16m、短軸長約4.69mのやや南北に長い長方形を呈すものと推定される。長軸方向はN-16°-Eである。住居内面積は約22.4㎡である。

〔堆積土〕 住居内堆積土は基本的に2層に分けられ、いずれも自然堆積層として認定した。

〔床面〕 地山をそのまま床面としている。南西部がやや低くなっているがほぼ平坦で堅い。



ビット一覧表

ビットNo	1	2	3	4	5	6	7	8	9
ビット名	GA-184	GA-183	GA-181	GA-188	GA-182	GA-186	GA-185	GA-2113	GA-2111
深さ(cm)	23	30	46	51	67	42	37	17	64
ビットNo	10	11	12	13	14	15	16	17	18
ビット名	GA-211	GA-2114	GA-2112	GA-187	GB-216	GB-1810	GB-188	GB-187	GB-189
深さ(cm)	68	51	33	32	18	1.5	45	49.5	53.8

〔壁〕 地山を壁としている。壁高は残存値で約8～11cmになり、壁の立ちあがり角度はきつい。

〔周溝〕 周溝は検出されていない。

〔柱穴〕 当住居跡に伴うものと思われるピットは、床面上に11個検出されている。これらのピットのうち、規模・堆積土・配列などからみて柱穴の可能性をもつものとしてP₁・P₁₁・P₁₃・P₁₆の4個があげられる。最底もう1個のピットが必要となるが、これは調査区外に入るものと推定される。ただ、本道跡にみられる柱穴の配置形からみればやや特異な形状を示している。

〔炉〕 床面上に焼面（地床炉）が1ヶ所検出されている。住居内のはほぼ中央に位置しており、規模は約139×102cmを計る大形のものである。

G F 21—1 住居跡（第33図）

〔遺構の確認〕 G区中央の西端に位置し、地山面（Ⅱa層）上より遺構の存在を確認した。住居跡の一部は調査区外に延びる。

〔重複〕 住居の床面上からは多数のピットが検出されているが、そのほとんどは当住居跡より古いものである。また、G F 21—2 住居跡・G F 18陥し穴状土壌とも重複しており、それよりも新しい。なお、住居の増改築の痕跡はみられない。

〔平面形・規模〕 長軸長約4.41m、短軸長3.21mの長方形を呈する。長軸方向はN—32°—Wである。住居内面積は約13.31㎡を計る。

〔堆積土〕 住居内堆積土は基本的に2層に分けられる。いずれも自然堆積層として認定した。

〔床面〕 地山をそのまま床面としている。床面上はかなり凸凹がみられ、しかも柔かい。

〔壁〕 地山を壁としている。壁の遺存状態は不良で、まったく遺存しない箇所もある。残存値で約2～5cmを計る。壁の立ちあがり角度はゆるい。

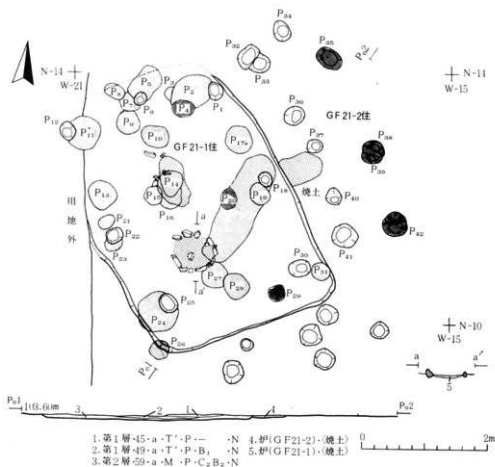
〔周溝〕 周溝は検出されていない。

〔柱穴〕 床面上からは合計31個のピットと1個の陥し穴状土壌が検出されているが、当住居跡に確実に伴うものは9個ほどに限定される。このなかで、柱穴と想定しうるピットには、P₁・P₁₂・P₁₈・P₂₂・P₂₅・P₃₀の6個があげられ、P₆・P₂₈がそれに加わる可能性をもつ。6個のピットを結んだ線は住居の平面形とほぼ相似形を呈し、やや菱形に近い長方形になる。

〔炉〕 炉は2基検出されている。1基は石組炉で、他は地床炉である。

<1号炉> 床面をわずかに掘り凹め、周縁に礫を横位の状態で円形に配置した石組炉である。住居中央より南西にずれて位置し、規模は外径で約72×68cmを計る。

<2号炉> 床面上の焼面として検出されている。住居中央よりやや北にずれて位置し、長軸線上に乗る。規模は85×46cmを計り、南北に長くなっている。



ピット一覧表

ピットNo	1	2	3	4	5	6	7	8
ピット名	柱穴 2	GF-215		GG-217	GF-212	GF-216	GF-213	GF-211
深さ(cm)	47	44	22	?	34	23	22	24
ピットNo	9	10	11	12	13	14	15	16
ピット名	GF-214	GF-218	GF-2110	柱穴 1	GF-2111	GF-2112	GF-2191	GF-2113
深さ(cm)	26	29	38	44	28	35	42	24
ピットNo	17	18	19	20	21	22	23	24
ピット名	GF-189	CF-1811	GF-1810	GF-189	GG-213	GG-214	GG-215	GG-216
深さ(cm)	22	?	?	?	12	40	16	46
ピットNo	25	26	27	28	29	30	31	
ピット名	柱穴 3	GF-217	GG-1810	GG-189	GG-1813	GG-1811	柱穴 4	
深さ(cm)	?	?	21	37	15	36	41	

第33図 GF21-1・GF21-2住居跡

G F 21—2 住居跡 (第33図)

〔遺構の確認〕 G区中央西端に位置し、地山面上において炉の一部を検出して遺構を確認した。住居跡の大部分が削平されているため、平面形・規模・堆積土・壁・周溝等は不明である。

〔重複〕 G F 21—1 住居跡と重複関係にあり、当住居の西半分が切られている。

〔床面〕 地山をそのまま床面としており、ほぼ平坦で比較的堅い。

〔柱穴〕 柱穴と想定されるビットには $P_1 \cdot P_{20} \cdot P_{29} \cdot P_{35} \cdot P_{38} \cdot P_{42}$ の6個があり、それらを結んだ線は南北に長い長方形を呈する。

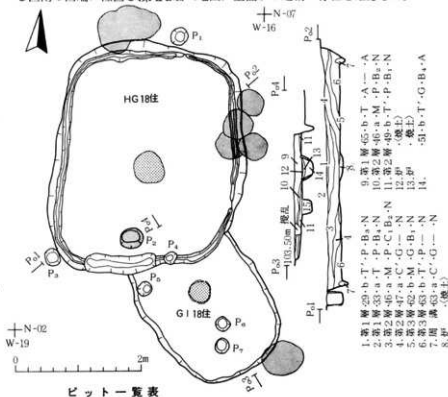
〔炉〕 床面上に焼面(地床炉)が1個所検出されている。柱穴配列のほぼ中央に位置し、東西にやや長い楕円形を呈する。規模は $(61) \times 45\text{cm}$ を計る。

G H 18住居跡 (第34図)

〔遺構の確認〕 G区南の西端に位置し、第IIa層(地山)上面より遺構の存在を確認した。

〔重複〕 G I 18住居跡と重複関係にあり、当住居跡の方が新しい。また、東壁・北壁の一部は数個のビットを破壊してつくられる。住居の増改築は認められない。

〔平面形・規模〕 長軸長 3.42m、短軸長 2.71mの隅丸長方形を呈



ビットNo	1	2	3	4	5	6	7
ビット名	G H—185	G I—182	G I—211	G I—187	G J—183	G J—182	G J—181
深さ (cm)	45	34	29	16	48	18	23

第34図 GH18, GI18住居跡

する。長軸方向はN-1°30'-Wである。なお、住居内面積は約8.27㎡を計る。

〔堆積土〕 住居内堆積土は基本的に3層に分けられる。典型的なレンズ状の自然堆積の状態を示しており、全層とも自然的な営力による堆積層として認定した。

〔床面〕 地山をそのまま床面としている。平坦で比較的堅い。

〔壁〕 地山を壁としている。遺存状態は良好で、残存値で約21～25cmを計る。床面からの立ちあがり角度はゆるい。

〔周溝〕 全域で確認されている。幅約6～12cm、深さ約8～12cmを計り、断面形は「U」字状を呈する。なお、周溝内から1個のビットが検出されている。

〔柱穴〕 床面上からは柱穴状のビットがまったく検出されていない。

〔炉〕 床面上に焼面（地床炉）が1ヶ所確認されている。住居内ほぼ中央に位置し良く焼けている。規模は約52×50cmを計る。

G I 18 住居跡（第34図）

〔遺構の確認〕 G区南の西端に位置し、第IIa層（地山）上面より遺構の在石を確認している。

〔重複〕 GH18住居跡と重複し、それよりも古い。また、南壁の一部がビットによって切られている。住居の増改築の痕跡はみられない。

〔平面形・規模〕 平面形は隅丸長方形を呈す。短軸長1.89mを計るが長軸長は不明である。長軸方向はN-38°-Wとなる。

〔堆積土〕 住居内堆積土は基本的に2層に分けられる。第1層を人為的堆積層、第2層を自然堆積層として認定した。

〔床面〕 地山をそのまま床としている。平坦で比較的堅い。

〔壁〕 地山を壁としている。壁の残存値は約3～8cmとなり、床面よりなだらかに立ちあがる。

〔周溝〕 周溝は確認されていない。

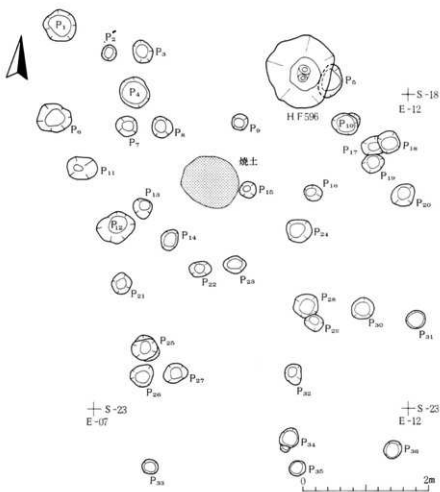
〔柱穴〕 床面上より3個のビットが検出されているがいずれも柱穴とする根拠に欠ける。

〔炉〕 土器（浅鉢）埋設炉である。床面を土器の形状にあわせて掘り凹め、土器は底部を欠いて直立に設置している。炉床は床面より若干低くなっており、固い焼土面をもつ。

H F 56 住居跡（第35図）

〔遺構の確認〕 H区の中央やや東寄りに位置し、地山面上より焼面を検出して遺構の存在を確認した。なお、住居の平面形・規模・堆積土・壁・周溝等是不明である。

〔重複〕 各種ビット類と重複するが、明確な切り合いを示す遺構はHF596ビットのみで当住居跡はそれを切って構築されている。住居の増改築の痕跡は認められない。



ピット一覧表

ピットNo	1	2	3	4	5	6	7	8	9
ピット名	HF-566	HF-567	HF-568	HF-569	HF-568	HG-569	HF-561	HG-562	HG-591
深さ(cm)	32	12	31	19	39	35	18	38	22
ピットNo	10	11	12	13	14	15	16	17	18
ピット名	HG-598	HG-563	HG-565	HG-564	HG-566	HG-592	HG-595	HG-5910	HG-597
深さ(cm)	32	8	15	36	33	23	21	13	36
ピットNo	19	20	21	22	23	24	25	26	27
ピット名	HG-598	HG-599	HG-568	HG-567	HG-593	HG-594	HH-566	HH-562	HH-563
深さ(cm)	16	16	12	13	21	32	34	12	17
ピットNo	28	29	30	31	32	33	34	35	36
ピット名	HH-591	HH-592	HH-594	HH-594	HH-593	HH-594	HH-594	HH-597	HH-598
深さ(cm)	11	36	19	21	20	20	17	17	13

第35図 HF 56住居跡

〔床面〕 地山をそのまま床面としている。床面は平坦で比較的堅い。

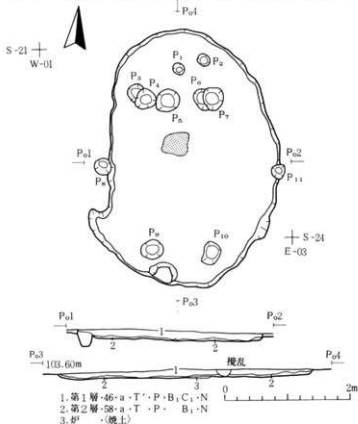
〔柱穴〕 大きさ、深さからみて、柱穴となる可能性をもつピットには、 $P_3 \cdot P_5 \cdot P_8 \cdot P_{10} \cdot P_{15} \cdot P_{16} \cdot P_{24} \cdot P_{25} \cdot P_{29} \cdot P_{30} \cdot P_{32}$ などがあげられる。これらのピットを、柱穴配列の一定の規則性から吟味した場合、 $P_3 \cdot P_5 \cdot P_{13} \cdot P_{16} \cdot P_{25} \cdot P_{29}$ の6個が当住居跡の柱穴と想定される。ただ、これと異なる配列も考えられ、積極的な根拠に欠ける。

〔炉〕 上記で想定した柱穴列の中央やや北寄りの部分に焼面（地床炉）が検出されている。約 93×83 cmの広がりをもつ。

H G 50 住居跡 (第36図)

〔遺構の確認〕 調査区の南端H区の中央部に位置し、第Ic層中より遺構の存在を確認した。

〔重複〕 当住居跡と重複する遺構はなく、住居の増改築も認められない。



〔平面形・規模〕 長軸長 4.11 m、短軸長 2.72 mの楕円形を呈する。長軸方向は $N-6^{\circ}-W$ である。また、住居跡内面積は 8.44 m^2 である。

〔堆積土〕 2層に分けられる。いずれも自然堆積層として認定した。

〔床面〕 地山まで掘り込んで床面としている。床面ははかなり凸凹しており、部分的に攪乱をうけている箇所もみられる。とくにたたきしめられた痕跡はみられず、比較的柔かい。

〔壁〕 地山と第Ic層を壁としている。遺存する壁

ピット一覧表

ピットNo	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
深さ (cm)	13	9	32	37	10	28	37	16	41	35	7

第36図 HG50住居跡

高は3～8cmであり、その立ちあがり角度は比較的きつい。

〔周溝〕 周溝は確認されていない。

〔柱穴〕 床面上より検出された7個のビットのほか、東西の壁内にそれぞれ1個づつ検出されている。これらのビットのうち、柱穴と断定できるものには $P_4 \cdot P_7 \cdot P_8 \cdot P_{10}$ があり、それらを結んだ線は整った長方形を呈する。また、壁内の $P_8 \cdot P_{11}$ も柱穴となる可能性をもっている。

〔炉〕 床面の1ヶ所から焼面（地床炉）が検出されている。床面の中央部からは北にずれており、住居の長軸上に位置する。規模は約 42×37 cmである。

〔その他の施設〕 南壁に接して小さな段がついている。大きさは約 31×44 cmを計り、性格は不明である。

II 15 住居跡（第37図）

〔遺構の確認〕 H区の南部、やや西寄りに位置しており、第Ic層中より遺構の存在を確認した。

〔重複〕 IA 091 陥し穴状遺構と重複し、それよりも新しい。なお、多数の柱穴状ビットが検出されていることからみて、増改築の可能性もあるが明確にできなかった。

〔平面形・規模〕 長軸長6.38m、短軸長約5.38mの楕円形を呈する。長軸方向は $N-17^\circ-E$ である。住居内面積は約27.61㎡を計る。

〔堆積土〕 住居内堆積土は基本的に3層に分けられる。第1層を自然堆積層、第2層・第3層を人為的堆積層として認定した。（第3層は生活層）

〔床面〕 地山をそのまま床面としている。床面は南に向かってやや低くなっているもののほぼ平坦で比較的堅い。

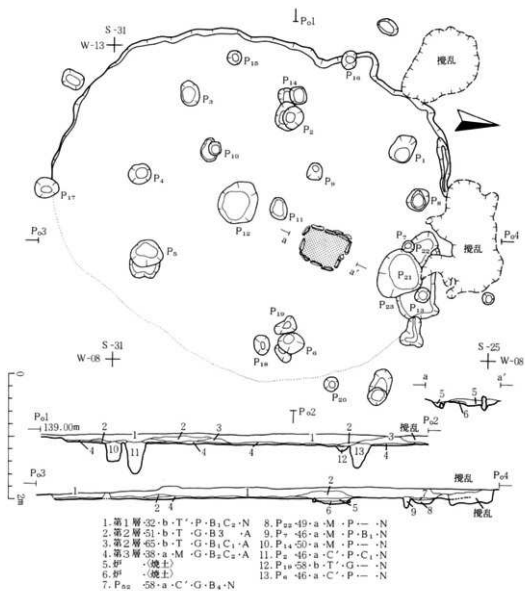
〔壁〕 第Ic層と地山を壁としている。壁は西辺と南辺で確認されているが、北辺と東辺では削平を受けている。壁高は現存値で約4～8cmを計る。床面からの立ちあがり角度はゆるい。

〔周溝〕 北辺の一部で確認されており、幅約15cm、深さ約13cmを計る。

〔柱穴〕 床面上からは合計23個のビットが検出されており、大きさ、深さから柱穴たりうるものには $P_1 \cdot P_2 \cdot P_3 \cdot P_4 \cdot P_5 \cdot P_6 \cdot P_8 \cdot P_9 \cdot P_{10} \cdot P_{13} \cdot P_{14}$ の11個があげられる。これらの柱穴状ビットを柱穴配置の規則性から検討した場合、 $P_1 \cdot P_2 \cdot P_3 \cdot P_4 \cdot P_5 \cdot P_6 \cdot P_{13}$ の7個が主柱穴となる可能性が強い。

〔炉〕 床面を若干掘り凹め、周縁を長方形に石囲いした石組炉である。石は横位の状態で据えられており、炉底には石、土器等による施設は認められない。床面中央の北寄りに位置し、住居の長軸線上に乗る。

— 西田道跡 —



ピット一覧表

ピットNo	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
深さ(cm)	49	48	40	30	44	35	22	39	44	38.5	11	37
ピットNo	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	
深さ(cm)	30	28	14	6	10.5	11	17	10.5	16	10	5	

第37図 HH15住居跡

H F 06 住居跡 (第38図)

〔遺構の確認〕 H区の中央に位置し、地山面上より焼土（地床炉）を検出して遺構の存在を確認した。規模・堆積土・壁・周溝等是不明である。なお、住居の増改築の痕跡はみられない。

〔重複〕 多数のピットが検出されているが、遺構間の重複関係を示すピットは発見されていない。ただ、平面的にはH G 06住居跡・H G 09住居跡・H F 03住居跡と重複関係にある。

〔平面形〕 柱穴の推定配置形からは長方形を呈するものと思われる。規模は不明であるが、長軸方向はN-3°-Wである。

〔床面〕 地山をそのまま床としている。床面はかなり凸凹がみられるものの比較的堅い。

〔柱穴〕 多数のピットのうち、柱穴と想定されるものにP₆・P₇・P₁₀・P₁₇・P₂₃・P₂₇・P₂₉・P₃₃の8個があげられる。これらのピットは規模・堆積土・配置列に規則性がみられ、柱穴となる可能性が極めて強い。

〔炉〕 床面上に焼面（地床炉）が1箇所検出されている。柱穴配置列の中央やや北寄りに位置し、長軸線上に乗る。規模は約6.4×4.1cmを計る。

H H 06 住居跡 (第38図)

〔遺構の確認〕 H区の南部、調査区やや西寄りに位置しており、明確な柱穴列を検出して遺構の存在を確認した。住居の平面形・規模・堆積土・壁・周溝等是不明である。

〔重複〕 H G 06住居跡と重複関係にあり、それよりも新しい。また、平面的にはH I 15住居跡、H G 09住居跡と重複している。なお、住居の増改築の痕跡はみられない。

〔平面形〕 平面形は不明であるが、柱穴の配置形および北辺に検出された周溝の形状からみれば、南北に長い長方形を呈する可能性が強い。長軸方向はN-15°-Wである。

〔床面〕 地山をそのまま床としている。床面は南側に向かってやや低くなっているもののほぼ平坦で比較的堅い。

〔周溝〕 北辺の一部で検出されている。H G 06住居跡の床面を削ってつくられ、幅約15cm、深さ4～8cmを計る。

〔柱穴〕 柱穴と想定されるピットにはP₄₅・P₄₈・P₅₂・P₅₅・P₅₉・P₆₉・P₇₂・P₇₆の8個があげられる。これらのピットの配置形はH G 06住居跡のそれと相似形を呈し、柱穴列の幅が北に広くて南に狭いという特徴をもっている。

〔炉〕 柱穴列内に焼面が3ヶ所（A・B・C）検出されている。AはH G 06住居跡のものとも考えられるが、当住居跡に伴うものとなる可能性が強い。これらの焼面は南北4個の柱穴の間に等距離で配置されており、中央軸から東に偏して位置する。焼面Aは78×116cm、Bは55×62cm、Cは39×91cmの広がりをもつ。

H G 06住居跡 (第38図)

〔遺構の確認〕 H区の南部、調査区やや西寄りに位置しており、明確な柱穴列を検出して遺構の存在を確認した。住居の平面形・規模・堆積土・壁・周溝等は不明である。

〔重複〕 H F 06住居跡・H G 09住居跡・H H 06住居跡の3棟の住居跡と重複するが、H H 06住居跡より旧くなるほかは新旧関係は不明である。住居の増改築の痕跡はみられない。

〔平面形〕 平面形は不明であるが、柱穴の配置形からみれば南北に長い長方形を呈する可能性が強い。長軸方向はN-1°-Wである。

〔床面〕 地山をそのまま床としている。床面はかなり凸凹がみられ、比較的柔かい。

〔柱穴〕 柱穴と想定されるビットには、P₃₀・P₃₈・P₄₇・P₄₈・P₆₀・P₆₂・P₇₃・P₈₀の8個があげられる。これらのビットは深さはほぼ一定するものの、大きさはほかの柱穴状のビットよりやや大きくなる。配列には規規性がみられ、4個づつ直線状に縦にならび、幅は北側で広くて南側で狭くなるという特徴をもつ。

〔炉〕 柱穴列内に3個の焼面(A・B・C)が検出されている。焼面BとCはH H 06住居跡に伴なうものと考えられ、当住居に伴なう可能性をもつものは焼面Aのみである。ただ、焼面AもH H 06住居跡に属することも想定されうるもので、当住居の地床炉とする積極的な根拠に欠ける。焼面Aは柱穴列中央やや北寄りに位置し、住居の長軸線上に乗る。規模は約78×116cmを計る。

H G 09住居跡 (第38図)

〔遺構の確認〕 H区中央やや西寄りに位置し、地山面上より明確な柱穴列を検出して遺構の存在を確認した。住居の平面形・規模・堆積土・床面・壁・周溝等は不明である。

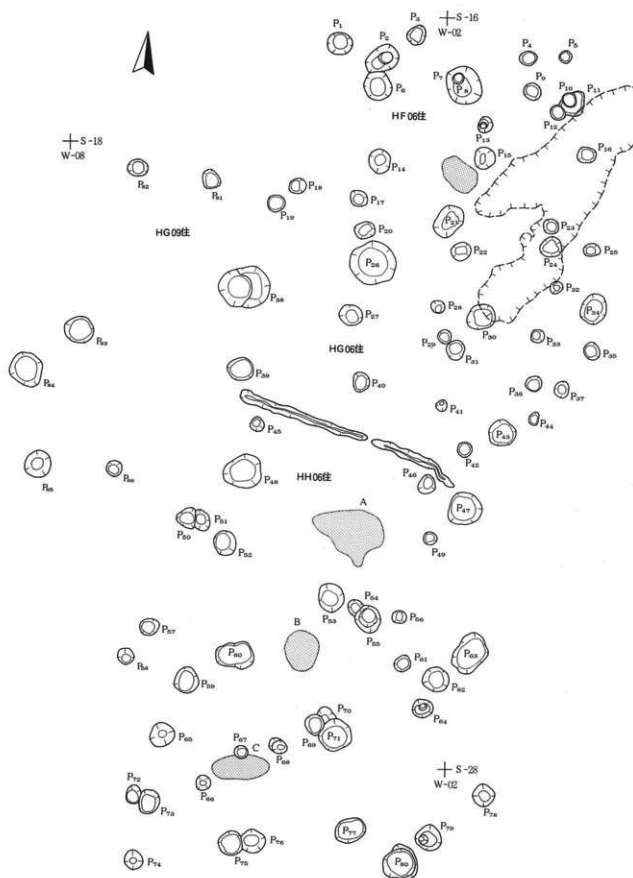
〔重複〕 H G 06住居跡・H I 06住居跡と重複するがそれらとの新旧関係は不明である。なお、住居の増改築の痕跡は認められない。

〔平面形〕 柱穴の配置列から推定すれば、南北に長い長方形か楕円形を呈するものと見られる。長軸方向はN-11°-Wである。

〔床面〕 柱穴列内部の床面に相当する部分はかなり柔かく、きれいな地山面が露出している。検出時に床面を掘り下げてしまった可能性が強い。

〔柱穴〕 柱穴と想定されるビットには、P₁₉・P₂₂・P₃₉・P₅₃・P₅₀・P₈₅の6個があてられる。これらのビットは大きさ、規模ともほぼ一定しており、配列にも規規性がみられる。

〔炉〕 炉と見られる施設は検出されていない。



シットク ノミ 深8(米)	1 HF-02 32	2 HF-05 25	3 HF-09 11	4 HF-02 14	5 HF-06 25	6 HF-06 43	7 HF-09 58	8 HF-07 54	9 HF-04 19	10 HG-03 33	11 HG-02 11	12 HG-01 34	13 HF-08 33	14 HG-03 15	15 HG-02 8
16 HG-04 9	17 HG-04 14	18 HG-09 19	19 HG-08 20	20 HG-05 12	21 HG-04 9	22 HG-08 9	23 HG-09 31	24 HG-08 31	25 HG-03 30	26 HG-02 33	27 HG-07 35	28 HG-01 7	29 HF-02 43	30 HF-09 43	31 HF-03 27
32 HG-01 18	33 HH-01 18	34 HG-08 19	35 HH-01 19	36 HH-03 16	37 HH-06 12	38 HG-01 12	39 HH-03 46	40 HH-02 18	41 HH-01 21	42 HH-07 23	43 HH-08 11.2	44 HH-08 15	45 HH-06 25	46 HH-09 27	47 HH-01 54
48 HH-01 55	49 H J-03 10	50 HH-05 60	51 H J-06 46	52 H J-03 22	53 H J-02 9	54 H J-01 7	55 H J-01 40	56 H J-04 16	57 H J-01 30	58 H J-02 15	59 H J-03 32	60 H J-05 54	61 H J-06 21	62 H J-07 27	63 H J-05 2.5
64 H J-08 25	65 H J-03 11	66 H J-04 15	67 H J-03 19	68 H J-02 18	69 H J-07 13	70 H J-07 13	71 H J-01 27	72 H J-02 31	73 H J-01 32	74 P ¹ 6	75 H J-06 33	76 H J-05 54	77 H J-06 8	78 H J-03 18	79 H J-02 23
80 H J-03 68	81 HG-01 42	82 HG-01 44	83 HH-03 21	84 HH-02 21	85 HH-01 27	86 HH-04 30									

第38図 HF 06・HH 06・HG 06・HG 09住居跡

H E 15 住居跡 (第39図)

〔遺構の確認〕 H区中央西端に位置し、地山面より周溝・焼面を検出して遺構の存在を確認している。遺構内堆積土・壁は確認できなかった。

〔重複〕 H F 18住居跡と重複関係にあり、当住居跡の炉がH F 18住居跡の柱穴・周溝によって切られている。なお、増改築の痕跡は認められない。

〔平面形・規模〕 長軸長4.72m、短軸長3.83mの長方形を呈し、長軸方向はN-14°30'-Eである。住居内面積は約15.23㎡となる。

〔床面〕 地山をそのまま床面としている。平坦で堅い。

〔周溝〕 ほぼ全周している。幅約9~28cm、深さ約8~16cmで、断面形は「U」字形を呈する。

〔柱穴〕 床面上には合計20個のビットが検出されている。このうち、規模がほぼ一致するP₁・P₃・P₅・P₁₃・P₁₄・P₁₆・P₁₇・P₁₉の8個が柱穴と考えられる。これらのビットは周溝際ないしは周溝と交錯して位置し、その配例には規則性がみられる。

〔炉〕 床面上から1ヶ所の焼面(地床炉)が検出されている。P₈・P₉・P₁₀および周溝によって破壊されている。床面の中央部からやや北東にずれて位置し、その規模は約101×74cmである。

H F 18 住居跡 (第39図)

〔遺構の確認〕 H区中央西端に位置し、地山面より周溝・焼面を検出して遺構の存在を確認している。遺構内堆積土・壁は確認できなかった。

〔重複〕 H E 15住居跡重複関係にあり、H E 15住居跡の西南部を切って構築されている。また、西辺の一部を後世の土壌によって破壊されている。

〔改築〕 柱穴の配置、一部で重複する周溝、および炉の形状などからみて改築が行われた可能性が強い。その場合、縮少となる。

〔平面形・規模〕 長軸長約5.82m、短軸長3.87mの長方形を呈する。長軸の方向はN-7°30'-Eである。また、住居内面積は約18.82㎡となる。

〔床面〕 地山をそのまま床面としている。平坦で堅い。

〔周溝〕 北辺を除きほぼ全域で検出されている。東辺の北側では二重になっており、内側(西側)の溝が新しい。幅約8~19cm、深さ約3~11cmを計り、断面形は「U」字形を呈する。

〔柱穴〕 床面上からは合計28個のビットが検出されている。これらのなかにはH E 15住居跡に伴うビットも含まれている。当住居跡の柱穴には2通りの組み合わせが考えられ、それぞれに配例の規則性が認められる。一つの組み合わせはP₅・P₁₁・P₁₈・P₂₃・P₂₈・P₃₄・P₃₉・P₄₂の8本、もう一つには、P₁₀・P₁₂・P₂₂・P₂₀・P₂₉・P₃₃・P₃₈・P₄₀の8本が考えられる。ビットの重複関係から、前者の柱穴列から後者の柱穴列への建て替えが行われている。

〔炉〕 床面上から1ヶ所の焼土面（地床炉）が検出されている。その形状はやや歪んだ「く」の字状を呈し、明確な区分線は認められなかったものの二度に亘って使用されたものと思われる。床面の中央部から北東にずれて位置し、その規模は77×98cmを計る。

HH21-1住居跡（第39図）

〔遺構の確認〕 H区の南部、調査区の西端に位置し、床面上より焼面（地床炉）を検出して遺構の存在を確認した。住居跡の平面形・規模・堆積土・壁・周溝等は不明である。

〔重複〕 HH21-2住居跡（？）と重複するが、新旧関係は明らかにできなかった。なお、住居の増改築の痕跡はみられない。

〔平面形〕 平面形は不明であるが柱穴の推定配置列からみれば、南北に長い楕円形を呈するものと思われる。また、同様に柱穴配置列からみた長軸方向はN-3°30′-Eである。

〔床穴〕 地山をそのまま床面としている。床面はかなり凸凹がみられるものの比較的堅い。

〔柱穴〕 柱穴と想定されるものにP₅₂・P₅₄・P₆₁・P₆₂・P₆₇・P₆₈の6個があげられる。これらのピットは大きさ、深さとも一定しており、その配置形にも一定の規則性がみられる。

〔炉〕 周囲より焼面が3箇所（A・B・C）検出されている。これらのなかでCは確実に当住居跡に伴ない、Bがその可能性をもつ。Cは105×138cm、Bは95×124cmの広がりをもつ。とものにかなり規模が大きい。

HH21-2住居跡（第39図）

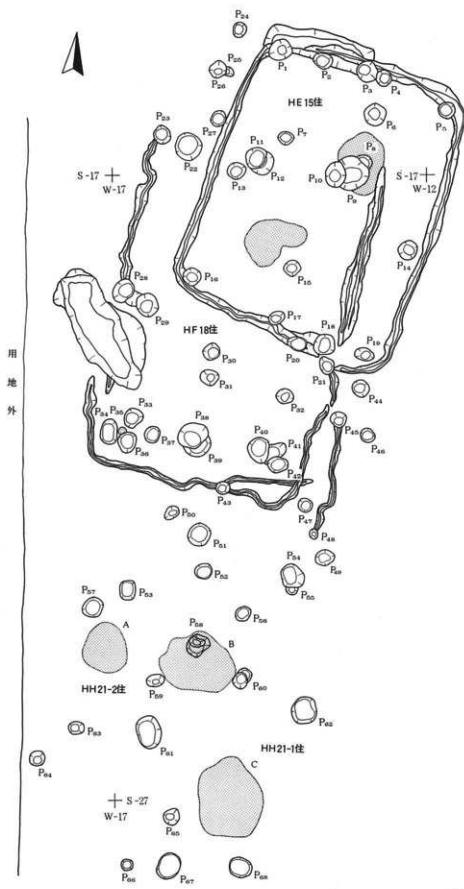
〔遺構の確認〕 H区の南部、調査区の西端に位置し、床面より焼面を検出して遺構の存在を確認した。住居の平面形・規模・堆積土・壁・周溝等は不明である。

〔重複〕 HH21-1住居跡と重複するが新旧関係は明らかにできなかった。住居の増改築の痕跡は認められない。

〔床面〕 地山をそのまま床面としている。床面はかなり凸凹がみられるものの比較的堅い。

〔柱穴〕 柱穴と想定されるものには、P₅₇・P₆₀・P₆₄・P₆₅の4個があり、P₅₀・P₅₅がそれに加わる可能性をもつ。

〔炉〕 焼面Aが当住居跡に伴う地床炉と思われる。焼面BはHH21-1住居跡と当住居跡とのどちらに伴うものか不明である。焼面Aは69×77cmの広がりをもつ。



ピットNo ピット名 深(m)	1 HE-153 43.5	2 HF-139 44	3 HF-156 44	4 HF-158 47	5 HF-211 55	6 HF-153 55	7 HF-155 58	8 HF-154 61	9 HF-152 64	10 HF-151 67	11 HF-157 67	12 HF-150 69.5	13 HF-188 70.5	14 HG-154 75	15 HG-155 78	
	16 HG-182 42	17 HG-156 48	18 HG-158 48	19 HG-157 50	20 HG-159 53	21 HF-150 53	22 HF-184 62	23 HF-185 60	24 HE-181 67	25 HF-186 67	26 HF-181 68	27 HF-182 68	28 HG-184 68	29 HG-183 70.5	30 HG-186 71	31 HG-188 74
	32 HG-1512 25	33 HG-189 56	34 HG-189 51	35 HG-181 51	36 HH-184 51	37 HH-182 52	38 HG-1812 63	39 HH-183 54	40 HH-153 55	41 HH-155 57	42 HH-154 62	43 HH-189 14	44 HG-151 14	45 HH-1511 3	46 HH-151 16	47 HH-152 22
	48 HH-159 15	49 HH-157 15	50 HH-185 18	51 HH-186 18	52 HH-1811 95	53 HH-187 47	54 HH-158 57	55 HH-156 54	56 HH-188 55	57 HH-188 59	58 H I-184 11	59 H I-183 5	60 H I-185 35	61 H I-182 62	62 H I-154 39	63 H I-181 13
	64 H I-211 30	65 H J-181 52	66 H J-182 10	67 H J-183 63.5	68 H J-184 49											

第39図 HE15・HF18・HH21-1・HH21-2住層跡

GG 03 竪穴状遺構 (第40図)

〔遺構の確認〕 G区の中央付近に位置しており、地山面上(Ⅱa層上面)より暗褐色土の落ち込みを検出して遺構の存在を確認した。

〔重複〕 7個の柱状ビットと重複し、そのすべてのビットに切られている。

〔平面形・規模〕 長軸長3.96m、短軸長1.59mの縦長の長方形を呈する。長軸方向はN-53.5°-Wである。また、竪穴内の床面積は約5.32㎡を計る。

〔堆積土〕 遺構内堆積土は2層に大別されるが、双方とも自然堆積層として認定した。上層は黒褐色土の粉状堆積土で、下層は黄褐色土を基本とする粒状の緻密な堆積土である。

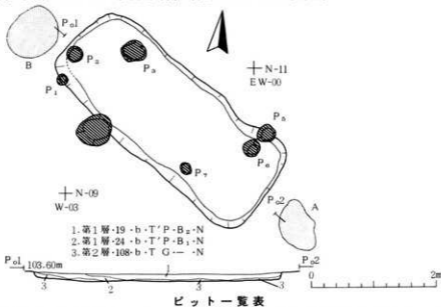
〔床〕 地山をそのまま床としている。床面はかなり凸凹がみられ、比較的柔かい。

〔壁〕 地山を壁としているが、遺存状況はあまり良くなく、現存値で約8~12cmの壁高をもつ。

〔周溝〕 周溝は検出されていない。

〔柱穴〕 床面上および壁にまたがって7個のビットが検出されているが、そのいずれも当遺構廃絶後に掘り込まれたものである。柱穴と想定されるビットは検出されていない。

〔伊〕 竪穴両短辺の外側に焼面が検出されているが、当竪穴に伴うものとなるかは不明である。東辺外側の焼面Aが79×55cm、西辺外側の焼面Bが85×70cmを計る。



ビットNo	1	2	3	4	5	6	7
ビット名	GG-036	GG-033	GG-034	GG-035	GG-507	GG-508	GG-036
深さ(cm)	10	13	17	45	10	18	13

第40図 GG03竪穴状遺構

2 墓墳—舟底状土墳群—

平面形が小判形で、断面形が舟底状を呈する土墳が193基検出されている。これらは、既調査の他遺跡で墓墳として認定されたものと形態・規模とも極めて類似しており、墓墳としての機能が考えられるものである。

GB 657 ビット<a類>: GA 683・GB 658の2ビットと重複し、GA 683を切っているが、GB 658に切られている。長軸方向はN-79°-Eを計り、規模は長軸長が遺存値で99cm、短軸長50cm±となる。墳底のレベルは長軸の外方がやや高くなっている。

GB 655 ビット<a₃類>: 長軸方向はN-69°-Eを計り、長軸長104cm±、短軸長64cm±、深さ8cm±の規模をもつ。墳底のレベルは長軸の外方がかなり高くなっている。

GB 656 ビット<a₄類>: 長軸方向はN-79°-Eを計り、長軸長120cm±、短軸長74cm±、深さ14cm±の規模をもつ。墳底のレベルは長軸の外方がやや高くなっている。

GB 681 ビット<a類>: 約半分が調査区外に入る。長軸方向はN-71°-Eを計り、短軸長68cm±、深さ18cm±の規模をもつ。

GB 682 ビット<a類>: 約半分が調査区外に入り、GB 682ビットによって切られている。長軸方向はN-72°-Eを計り、短軸長84cm±、深さ18cm±の規模をもつ。

GC 681 ビット<a類>: 長軸の外方の一部が調査区外に入り、N-77°-Eの長軸方向をもつ。規模は短軸長104cm±、深さ18cm±を計る。

GD 681 ビット<b₄類>: 長軸方向はN-74°-Eを計り、長軸長124cm±、短軸長84cm±、深さ36cm±の規模をもつ。墳底のレベルは長軸の外方がやや高くなっている。

FI 658 ビット<a₃類>: FI 657ビットと重複し、それよりも古い。長軸方向はN-43°-Eを計り、長軸長114cm±、短軸長62±、深さ16cm±の規模をもつ。

FJ 621 ビット<a₅類>: 長軸方向はN-41°-Eを計り、長軸長174cm±、短軸長94cm±、深さ13cm±の規模をもつ。墳底のレベルはほぼ水平になっている。

FJ 622 ビット<a₃類>: 長軸方向はN-42°-Eを計り、長軸長104cm±、短軸長80cm±、深さ14cm±の規模をもつ。長軸方向での墳底のレベルは外側がやや高くなっている。

FJ 624 ビット<a₄類>: N-45°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長136cm±、短軸長80cm±、深さ8cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がやや高くなっている。

FJ 651 ビット<a₃類>: N-40°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長100cm±、短軸長60cm±、深さ14cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がやや高くなっている。

FJ 652 ビット<a₂類>: FJ 653ビットと重複するが、新旧関係は不明である。N-40°-

Eの長軸方位をもち、規模は長軸長86cm±、短軸長68cm±、深さ12cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がやや高くなっている。

F J 653 ビット<b₃ 類>: F J 652・F J 657 ビットと重複し、F J 657 ビットを切って構築しているが、F J 652 ビットとの新旧関係は不明である。N-42°-Eの長軸方位をもち、規模は104 cm±、短軸長72cm±、深さ22cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平である。

F J 654 ビット<a₁ 類>: N-49°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長48cm±、短軸長28cm±、深さ10cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平である。

F J 655 ビット<b₄ 類>: N-44°-Eの長軸方位をもち、長軸長124 cm±、短軸長68cm±、深さ21cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

F J 657 ビット<a 類>: F J 653 ビットによって大半が破壊されている。N-40°-Eの長軸方位をもち、規模は短軸長60cm±、深さ14cm±を計る。

F J 681 ビット<b₄ 類>: N-43°-Eの長軸方位をもち、長軸長132cm±、短軸長64cm±、深さ36cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

G A 621 ビット<b₄ 類>: N-38°-Eの長軸方位をもち、長軸長136 cm±、短軸長88cm±、深さ23cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がやや高くなっている。

G A 622 ビット<b₄ 類>: N-37°-Eの長軸方位をもち、長軸長132 cm±、短軸長74cm±、深さ34cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がやや高くなっている。

G A 651 ビット<a₄ 類>: N-36°-Eの長軸方位をもち、長軸長116 cm±、短軸長68cm±、深さ12cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは内側がやや高くなっており、外側の壁には3個の礫が貼り付いている。

G A 652 ビット<a₃ 類>: N-37°-Eの長軸方位をもち、長軸長112 cm±、短軸長82cm±、深さ20cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

G A 653 ビット<a₄ 類>: N-41°-Eの長軸方位をもち、長軸長132 cm±、短軸長64cm±、深さ18cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

G A 654 ビット<a₅ 類>: G A 656 ビットと重複し、それを切って構築している。N-56°-Eの主軸方位をもち、規模は長軸長146 cm±、短軸長82cm±、深さ20cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がかなり高くなっている。

G A 655 ビット<a₃ 類>: N-44°-Eの主軸方位をもち、規模は長軸長108 cm±、短軸長54cm±、深さ14cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がやや高くなっている。

G A 656 ビット<b₃ 類>: G A 654 ビットと重複し、それに切られている。N-49°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長100 cm±、短軸長60cm±、深さ30cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

GA 681ピット<a₁類>: 約半分が調査区外に入る。N-50°-Eの長軸方位をもち、規模は短軸長60cm±、深さ12cm±を計る。

GA 682ピット<a₁類>: 約半分が調査区外に入る。N-57°-Eの長軸方位をもち、規模は短軸長66cm、深さ16cm±を計る。

GA 683ピット<a₂類>: GB 657・GB 658の2ピットと重複し、その双方に切られている。N-48°-Eの長軸方位をもち、長軸長94cm、短軸長50cm±、深さ10cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

GB 621ピット<b₄類>: N-38°-Eの主軸方位をもち、規模は長軸長120cm±、短軸長66cm±、深さ28cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がやや高くなっている。

GB 622ピット<b₄類>: N-37°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長149cm±、短軸長60cm±、深さ36cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

GB 651ピット<b₅類>: GB 652ピットと重複し、それを切ってつくられている。N-49°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長158cm±、短軸長72cm±、深さ26cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がやや高くなっている。

GB 652ピット<b₅類>: GB 651・GB 653の2ピットと重複し、GB 651ピットによって切られるが、GB 653ピットを切ってつくられる。N-56°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長156cm±、短軸長74cm±、深さ30cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平である。

GB 653ピット<b₅類>: GB 652・GB 654の2ピットと重複し、その双方のピットによって切られている。N-56°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長154cm、短軸長が不明、深さ32cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

GB 654ピット<b₄類>: GB 653ピットを切ってつくられる。N-39°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長136cm±、短軸長74cm±、深さ34cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

GB 658ピット<c₃類>: GA 683・GB 657・GB 682の3ピットと重複し、そのいずれも切ってつくられている。N-40°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長108cm±、短軸長92cm±、深さ28cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がやや高くなっている。

FH 566ピット<a₃類>: N-2°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長104cm±、短軸長56cm±、深さ18cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはやや高くなっている。

FH 651ピット<a₃類>: N-4°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長114cm±、短軸長52cm±、深さ12cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がかなり高くなっている。

FI 562ピット<a₃類>: N-4°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長110cm±、短軸長54cm±、深さ17cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

F I 563ピット<a₃類>: N-9°-Eの軸方位をもち、規模は長軸長114 cm±、短軸長48 cm±、深さ17 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がやや高くなっている。

F I 564ピット<b₄類>: N-10°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長118 cm±、短軸長76 cm±、深さ22 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がやや高くなっている。

F I 565ピット<b₃類>: N-4°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長102 cm±、短軸長70 cm±、深さ24 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

F I 591ピット<a₄類>: N-6°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長132 cm±、短軸長64 cm±、深さ16 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がやや高くなっている。

F I 621ピット<a₄類>: N-19°-Eの長軸方位をもち、長軸長126 cm±、短軸長64 cm±、深さ16 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がやや高くなっている。

F I 622ピット<b₄類>: N-21°-Eの長軸方位をもち、長軸長126 cm±、短軸長80 cm±、深さ28 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

F I 623ピット<a₄類>: N-18°-Eの長軸方位をもち、長軸長120 cm±、短軸長68 cm±、深さ14 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がかなり高くなっている。

F I 624ピット<a₂類>: N-25°-Eの長軸方位をもち、長軸長94 cm±、短軸長64 cm±、深さ10 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がやや高くなっている。

F I 625ピット<a₄類>: N-6°-Wの長軸方位をもち、長軸長118 cm±、短軸長62 cm±、深さ10 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

F I 656ピット<b₄類>: N-21°-Eの長軸方位をもち、長軸長128 cm±、短軸長76 cm±、深さ28 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

F I 657ピット<a₄類>: F I 658ピットと重複し、それを切ってつくられる。N-10°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長134 cm±、短軸長72 cm±、深さ20 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

F J 561ピット<a₃類>: F J 562ピットと重複し、それを切ってつくられる。N-11°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長104 cm、短軸長64 cm、深さ18 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

F J 562ピット<a₄類>: F J 561ピットと重複し、それによって切られている。N-13°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長130 cm±、短軸長88 cm±、深さ16 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

F J 563ピット<a₄類>: N-14°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長128 cm、短軸長52 cm±、深さ12 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がやや高くなっている。

F J 591ピット<b₄類>: N-13°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長118 cm±、短軸長

53cm±、深さ22cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がかなり高くなっている。

F J 592ピット<a₃類>: N-25°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長114cm±、短軸長88cm±、深さ10cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がかなり高くなっている。

F J 593ピット<b₁類>: N-21°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長140cm±、短軸長78cm±、深さ22cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

F J 594ピット<b₃類>: N-8°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長152cm±、短軸長70cm±、深さ28cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がやや高くなっている。

G A 561ピット<a₃類>: N-21°-Eの長軸方位をもち、長軸長156cm±、短軸長76cm±、深さ16cm±を計る。長軸方向での墳底の高さはほぼ水平になっている。

G A 591ピット<a₃類>: N-20°-Eの主軸方位をもち、規模は長軸長100cm±、短軸長72cm±、深さ4cmを計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

G A 592ピット<a₄類>: N-20°-Eの主軸方位をもち、規模は長軸長124cm±、短軸長82cm±、深さ12cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がやや高くなっている。

F H 503ピット<a₄類>: N-20°-Wの主軸方位をもち、規模は長軸長120cm±、短軸長72cm±、深さ12cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がやや高くなっている。

F I 037ピット<b₁類>: N-32°-Wの主軸方位をもち、規模は長軸長138cm±、短軸長82cm±、深さ30cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

F I 039ピット<a₄類>: N-41°-Wの主軸方位をもち、規模は長軸長122cm±、短軸長70cm±、深さ16cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

F I 069ピット<b₃類>: F J 062ピットを切つてつくられる。N-37°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長146cm、短軸長68cm±、深さ24cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がやや高くなっている。

F I 501ピット<a₄類>: N-24°-Wの主軸方位をもち、規模は長軸長120cm±、短軸長88cm±、深さ10cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

F I 502ピット<a₄類>: F H 503ピットによって切られている。N-19°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長136cm±、短軸長96cm±、深さ16cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは内側がやや高くなっている。

F I 503ピット<a₃類>: F I 504ピットによって切られている。N-22°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長102cm±、短軸長74cm±、深さ12cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がやや高くなっている。

F I 504ピット<b₃類>: F I 503・F I 505・F I 509の3ピットと重複し、そのすべてのピットを切つてつくられている。N-29°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長106cm±、短

軸長70cm±、深さ26cm±を計る。長軸方向でのレベルはほぼ水平になっている。

F I 505ピット<a₅ 類>: F I 504・F I 509 の2ピットと重複し、F I 504 ピットには切られるが、F I 509 ピットを切ってつくられる。N-41°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長172cm±、短軸長104cm±、深さ19cm±を計る。長軸方向での墳底レベルは外側がやや高くなる。

F I 509ピット<a₅ 類>: F I 504・F I 505 の2ピットと重複し、その双方に切られている。N-31°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長160cm±、短軸長が不明、深さ16cm±を計る。

F I 532ピット<b₄ 類>: F I 535 ピットと重複し、それを切ってつくられる。N-19°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長132cm±、短軸長52cm±、深さ26cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がやや高くなっている。

F I 533ピット<b₄ 類>: N-18°-Wの主軸方位をもち、長軸長118cm、短軸長54cm±、深さ24cm±を計る長軸方向での墳底のレベルは外側がやや高くなっている。

F I 535ピット<a₄ 類>: F I 532 ピットと重複し、これによって切られている。N-19°-Wの長軸方位をもち、長軸長126cm±、短軸長74cm±、深さ10cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がやや高くなっている。

F I 536ピット<a₂ 類>: N-21°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長78cm、短軸長40cm、深さ6cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

F I 537ピット<a₄ 類>: F I 539 ピットを切ってつくられる。N-47°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長134cm±、短軸長58cm±、深さ15cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

F I 539ピット<a₃ 類>: F I 537 ピットによって切られている。N-36°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長104cm±、短軸長が不明、深さ15cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

F J 062ピット<a類>: F J 063・F I 069 の2ピットと重複し、その双方のピットによって切られている。N-42°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長が不明、短軸長66cm±、深さ12cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がやや高くなっている。

F J 063ピット<a₄ 類>: F J 062 ピットを切ってつくられる。N-42°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長124cm±、短軸長64cm±、深さ14cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がやや高くなっている。

F J 0313ピット<a類>: N-43°-Wの主軸方位をもち、深さが7cm±を計るほかは規模は不明である。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

F J 501ピット<a₄ 類>: N-32°-Wの主軸方位をもち、規模は長軸長117cm±、短軸長72cm±、深さ16cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

F J 533 ビット < b_5 類 > : N-18°-Wの主軸方位をもち、規模は長軸長 156 cm±、短軸長 82cm±、深さ 21cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはやや外側が高くなっている。

F J 534 ビット < a_1 類 > : N-4°-Eの主軸方位をもち、規模は長軸長 132 cm±、短軸長 74cm±、深さ 16cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がやや高くなっている。

G A 032 ビット < a_1 類 > : G A 033 ビットを切ってつくられる。N-44°-Wの主軸方位をもち、規模は長軸長 138 cm±、短軸長 86cm±、深さ 8 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

G A 033 ビット < a_5 類 > : G A 033 ビットによって切られている。N-38°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長 148 cm±、短軸長 74cm±、深さ 14cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がやや高くなっている。

G A 034 ビット < b_4 類 > : G A 034 ビットを切ってつくられる。N-45°-Wの主軸方位をもち、規模は長軸長 138 cm±、短軸長 80cm±、深さ 22cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がやや高くなっている。

G A 095 ビット < a_2 類 > : N-52°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長 90cm±、短軸長 46 cm±、深さ 8 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

G A 0910 ビット < a_3 類 > : G A 0912 ビットを切ってつくられる。N-43°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長 101 cm±、短軸長 74cm±、深さ 14cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

G A 0912 ビット < a_1 類 > : G A 0910・G A 061・G A 062の3ビットと重複しており、そのすべてのビットによって切られている。N-44°-Wの長軸方位をもち、長軸長 120 cm±、短軸長 84cm±、深さ 12cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がやや高くなっている。

G A 061 ビット < a 類 > : G A 0912 ビットを切ってつくられるが、G A 062 ビットによって切られている。N-46°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長が不明、短軸長 46cm±、深さ 16cm±を計る。

G A 062 ビット < b_5 類 > : G A 0912・G A 061の2ビットと重複し、その双方のビットを切ってつくられる。また、G A 063 溝状土壇をも切っている。N-42°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長 150 cm±、短軸長 82cm±、深さ 28cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

G A 501 ビット < a_4 類 > : N-52°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長 140 cm±、短軸長 80cm±、深さ 11cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がやや高くなっている。

G A 031 ビット < a_4 類 > : N-69°-Wの主軸方位をもち、規模は長軸長 118 cm±、短軸長 74cm±、深さ 14cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がやや高くなっている。

GA 065 ビット<a₅ 類>: N-85°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長160 cm±、短軸長80 cm±、深さ8 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がやや高くなっている。

GB 1518 ビット<a₅ 類>: N-83°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長156 cm±、短軸長92 cm±、深さ16 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

GB 122 ビット<b₅ 類>: GB 124 ビットによって切られている。N-83°-Wの長軸方位をもち規模は長軸長146 cm±、短軸長94 cm±、深さ28 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がやや高くなっている。

GB 124 ビット<a₄ 類>: GB 122 ビットを切ってつくられている。N-84°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長135 cm±、短軸長119 cm±、深さ16 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

GB 125 ビット<b₄ 類>: N-77°-Wの主軸方位をもち、規模は長軸長134 cm±、短軸長90 cm±、深さ23 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

GB 094 ビット<a 類>: GB 063・GB 095 の2ビットと重複し、その双方に切られている。N-71°-Wの主軸方位をもち、規模は深さが10 cm±を計るほかは不明である。

GB 095 ビット<a₄ 類>: GB 094・GB 097 の2ビットと重複し、その双方を切ってつくられる。N-73°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長122 cm±、短軸長66 cm±、深さ14 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がやや高くなっている。

GB 097 ビット<b₅ 類>: GB 095 ビットによって切られている。N-76°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長150 cm±、短軸長90 cm±、深さ24 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

GB 062 ビット<a₃ 類>: N-70°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長104 cm±、短軸長80 cm±、深さ16 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

GB 063 ビット<b₅ 類>: GB 066・GB 094 の2ビットと重複し、GB 066 ビットによって切られるが、GB 094 ビットを切ってつくられる。N-77°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長166 cm、短軸長92 cm±、深さ30 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

GB 066 ビット<c₂ 類>: GB 063 ビットを切ってつくられる。N-71°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長84 cm±、短軸長70 cm±、深さ22 cm±を計る。

GB 031 ビット<c₃ 類>: N-77°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長99 cm±、短軸長70 cm±、深さ22 cm±を計る。

GC 1511 ビット<c₃ 類>: N-79°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長96 cm±、短軸長82 cm±、深さ34 cm±を計る。

G C 121ピット<a₄類>: N-75°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長142 cm±、短軸長80 cm±、深さ10 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がやや高くなっている。

G C 091ピット<a₄類>: N-80°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長132 cm±、短軸長80 cm±、深さ12 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

G C 093ピット<a₄類>: N-82°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長124 cm±、短軸長80 cm±、深さ10 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がやや高くなっている。

G C 095ピット<b₃類>: N-81°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長99 cm±、短軸長56 cm±、深さ21 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

G C 061ピット<a₄類>: N-78°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長120 cm±、短軸長82 cm±、深さ14 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

G C 064ピット<a₄類>: N-83°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長132 cm±、短軸長68 cm±、深さ13 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

G C 065ピット<a₃類>: N-80°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長108 cm±、短軸長64 cm±、深さ17 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

G C 031ピット<b₄類>: N-82°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長128 cm±、短軸長82 cm±、深さ22 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がかなり高くなっている。

G D 123ピット<b₄類>: G D 125ピットを切ってつくられる。N-77°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長144 cm±、短軸長70 cm±、深さ22 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がやや高くなっている。

G D 125ピット<a₄類>: G D 123ピットによって切られている。N-75°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長120 cm±、短軸長64 cm±、深さ14 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

G D 091ピット<a₃類>: N-69°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長108 cm±、短軸長50 cm±、深さ8 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がやや高くなっている。

G D 092ピット<a₄類>: N-74°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長126 cm±、短軸長74 cm±、深さ16 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

G D 062ピット<a₄類>: N-67°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長128 cm±、短軸長80 cm±、深さ10 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

G D 063ピット<a₄類>: N-72°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長124 cm±、短軸長80 cm±、深さ16 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がやや高くなっている。

G D 031ピット<a₄類>: N-70°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長138 cm±、短軸長96 cm±、深さ18 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がやや高くなっている。

GE 123ピット< b_4 類>: GD 125 ピットを切ってつくられる。N-67°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長118 cm±、短軸長70 cm±、深さ21 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がやや高くなっている。

GE 091ピット< a_3 類>: N-67°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長112 cm±、短軸長78 cm±、深さ18 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

GE 092ピット< a_4 類>: N-67°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長130 cm±、短軸長60 cm±、深さ10 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

GD 064ピット< a_4 類>: N-50°-Eの長軸方位をもち、長軸長130 cm±、短軸長80 cm±、深さ10 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がやや高くなっている。

GE 061ピット< a_2 類>: N-54°-Eの長軸方位をもち、長軸長90 cm±、短軸長54 cm±、深さ14 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

GE 062ピット< b_4 類>: N-52°-Eの長軸方位をもち、長軸長128 cm、短軸長62 cm±、深さ26 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

GE 063ピット< b_3 類>: GE 064 ピットによって切られている。N-43°-Eの長軸方位をもち、長軸長110 cm±、短軸長74 cm±、深さ22 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がやや高くなっている。

GE 064ピット< b_4 類>: GE 063・GE 032の2ピットと重複し、GE 063ピットを切ってつくられるが、GE 032ピットとの新旧関係は不明である。N-47°-Eの長軸方位をもち、規模は、長軸長136 cm±、短軸長70 cm±、深さ28 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

GE 031ピット< a_3 類>: N-49°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長114 cm±、短軸長84 cm±、深さ14 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

GE 032ピット< a_4 類>: GE 064・GF 064の2ピットと重複し、GF 064ピットによって切られるがGE 064ピットとの新旧関係は不明である。N-35°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長136 cm±、短軸長80 cm±、深さ14 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がやや高くなっている。

GE 033ピット< a_3 類>: N-49°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長114 cm±、短軸長76 cm±、深さ18 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がやや高くなっている。

GE 034ピット< a_4 類>: N-48°-Eの長軸方位をもち、長軸長134 cm±、短軸長74 cm±、深さ10 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

GE 035ピット< a_2 類>: N-37°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長78 cm±、短軸長40 cm±、深さ8 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

GE 501ピット<b₅類>: N-34°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長170 cm±、短軸長102 cm±、深さ26 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がやや高くなっている。

GE 502ピット<a₄類>: N-54°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長138 cm±、短軸長78 cm±、深さ16 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

GE 503ピット<a₂類>: N-29°-Eの長軸方位をもち、長軸長82 cm±、短軸長70 cm±、深さ10 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

GE 504ピット<b₄類>: N-30°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長120 cm±、短軸長72 cm±、深さ21 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がやや高くなっている。

GE 505ピット<a₃類>: N-29°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長114 cm±、短軸長76 cm±、深さ12 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

GF 061ピット<b₄類>: N-51°-Eの長軸方位をもち、長軸長120 cm±、短軸長70 cm±、深さ26 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がかなり高くなっている。

GF 064ピット<b₅類>: GE 032ピットを切ってつくられる。N-42°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長154 cm±、短軸長80 cm±、深さ30 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がやや高くなっている。

GF 031ピット<a₃類>: N-34°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長104 cm±、短軸長64 cm±、深さ17 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がやや高くなっている。

GF 033ピット<a₂類>: N-35°-Eの長軸方位をもち、長軸長80 cm±、短軸長54 cm±、深さ8 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは内側がやや高くなっている。

GF 034ピット<a₃類>: N-47°-Eの長軸方位をもち、長軸長115 cm±、短軸長54 cm±、深さ12 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

GF 035ピット<a₅類>: N-25°-Eの長軸方位をもち、長軸長154 cm±、短軸長86 cm±、深さ16 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

GF 036ピット<a₃類>: N-33°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長115 cm±、短軸長74 cm±、深さ16 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がやや高くなっている。

GF 502ピット<a₃類>: N-0°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長108 cm±、短軸長82 cm±、深さ10 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がかなり高くなっている。

GF 503ピット<a₄類>: N-28°-Eの長軸方位をもち、長軸長136 cm±、短軸長76 cm±、深さ18 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がやや高くなっている。

GF 504ピット<b₄類>: N-33°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長140 cm±、短軸長72 cm±、深さ22 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がやや高くなっている。

GE 531ピット<a₄類>: N-1°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長128 cm±、短軸長

78cm±、深さ14cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

GF 561ピット<a₅ 類>: N-2°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長176cm±、短軸長80cm±、深さ15cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がやや高くなっている。

GF 531ピット<a₄ 類>: N-1°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長128cm±、短軸長78cm±、深さ14cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

GF 532ピット<b₄ 類>: N-7°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長144cm±、短軸長70cm±、深さ32cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

GF 561ピット<b₅ 類>: N-8°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長176cm±、短軸長80cm±、深さ23cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がやや高くなっている。ヒスイの垂飾りが出土している。

GF 562ピット<b₄ 類>: N-7°-Wの長軸方位をもち、長軸長120cm±、短軸長70cm±、深さ21cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

GF 563ピット<a₄ 類>: N-6°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長128cm±、短軸長84cm±、深さ14cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

GF 564ピット<a₂ 類>: N-9°-Eの長軸方位をもち、規模は長軸長92cm±、短軸長46cm±、深さ16cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がかなり高くなっている。

GF 591ピット<b 類>: N-8°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長が不明、短軸長84cm±、深さ32cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

GF 592ピット<b₃ 類>: N-9°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長112cm±、短軸長66cm±、深さ22cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

GF 593ピット<b₄ 類>: N-9°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長142cm±、短軸長80cm±、深さ28cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がやや高くなっており、外側の上部には石が据えられている。

GF 594ピット<a₄ 類>: N-9°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長144cm±、短軸長110cm±、深さ14cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

GF 621ピット<b₄ 類>: GF 624ピットを切ってつくられる。N-12°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長124cm±、短軸長70cm±、深さ24cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

GF 624ピット<a 類>: GF 621ピットによって切られている。N-17°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長が不明、短軸長が64cm±、深さ15cm±を計る。

GG 561ピット<b₄ 類>: N-8°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長130cm±、短軸長74cm±、深さ26cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

GG 562ピット<b₅ 類>: 上部は木根による攪乱をうけている。N-6°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長150 cm±、短軸長100 cm±、深さ38 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

GG 625ピット<a₃ 類>: N-14°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長104 cm±、短軸長80 cm±、深さ18 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

GE 621ピット<b₅ 類>: N-37°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長154 cm±、短軸長80 cm±、深さ36 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がかなり高くなっている。

GE 622ピット<a₄ 類>: N-36°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長128 cm±、短軸長66 cm±、深さ12 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がやや高くなっている。

GE 623ピット<b₂ 類>: N-24°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長90 cm±、短軸長68 cm±、深さ24 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

GE 651ピット<b₄ 類>: N-49°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長124 cm±、短軸長74 cm±、深さ25 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

GE 652ピット<c₂ 類>: GF 654 ピットを切ってつくられる。N-21°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長84 cm±、短軸長60 cm±、深さ21 cm±を計る。

GE 682ピット<a₄ 類>: N-47°-Wの長軸方位をもち、長軸長120 cm±、短軸長80 cm±、深さ17 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がやや高くなっている。

GF 622ピット<a₄ 類>: GF 651 ピットによって切られている。N-40°-Wの長軸方位をもち、長軸長140 cm±、短軸長80 cm±、深さ18 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

GF 623ピット<a₃ 類>: N-33°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長104 cm±、短軸長58 cm±、深さ19 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がやや高くなっている。

GF 651ピット<a₂ 類>: GF 622 ピットを切ってつくられる。N-8°-Wの長軸方位をもち、規模は92 cm±、短軸長52 cm±、深さ16 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がやや高くなっている。

GF 652ピット<a₃ 類>: N-24°-Wの長軸方位をもち、長軸長102 cm±、短軸長60 cm±、深さ14 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

GF 653ピット<a₂ 類>: N-26°-Wの長軸方位をもち、長軸長78 cm±、短軸長52 cm±、深さ13 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

GF 654ピット<a 類>: GE 652 ピットによって切られている。N-21°-Wの長軸方位をもち、規模は長軸長が不明、短軸長76 cm±、深さ8 cm±を計る。長軸方向での墳底のレベルはやや外側が高くなっている。

GF 555 ビット < b_3 類 > : N-38°-W の長軸方位をもち、規模は長軸長 106 cm 土、短軸長 76 cm 土、深さ 26 cm 土を計る。長軸方向での墳底のレベルは外側がやや高くなっている。

GA 562 ビット < a_2 類 > : N-45°-W の長軸方位をもち、規模は長軸長 88 cm 土、短軸長 58 cm 土、深さ 12 cm 土を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

GA 563 ビット < a_2 類 > : N-61°-W の長軸方位をもち、規模は長軸長 90 cm 土、短軸長 62 cm 土、深さ 7 cm 土を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

GB 561 ビット < b_3 類 > : N-31°-W の長軸方位をもち、規模は長軸長 110 cm 土、短軸長 78 cm 土、深さ 32 cm 土を計る。長軸方向での墳底のレベルは内側がやや高くなっている。

GB 562 ビット < a_3 類 > : N-56°-W の長軸方位をもち、規模は長軸長 202 cm 土、短軸長 94 cm 土、深さ 16 cm 土を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

GB 563 ビット < a_2 類 > : GB 532 ビットを切ってつくられる。N-46°-W の長軸方位をもち、規模は長軸長 90 cm 土、短軸長 50 cm 土、深さ 12 cm 土を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

GB 532 ビット < b_4 類 > : GB 563 ビットによって切られている。N-72°-W の長軸方位をもち、規模は長軸長 138 cm 土、短軸長 102 cm 土、深さ 31 cm 土を計る。長軸方向での墳底のレベルは内側がやや高くなっている。

GB 591 ビット < a_3 類 > : N-5°-E の長軸方位をもち、長軸長 114 cm 土、短軸長 92 cm 土、深さ 12 cm 土を計る。長軸方向での墳底のレベルは内側がかなり高くなっている。

GB 592 ビット < a_2 類 > : N-49°-E の長軸方位をもち、長軸長 80 cm 土、短軸長 56 cm 土、深さ 16 cm 土を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

GB 593 ビット < b_4 類 > : N-56°-E の長軸方位をもち、長軸長 128 cm 土、短軸長 74 cm 土、深さ 22 cm 土を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

GC 563 ビット < a_3 類 > : N-27°-E の長軸方位をもち、長軸長 112 cm 土、短軸長 88 cm 土、深さ 10 cm 土を計る。長軸方向での墳底のレベルはほぼ水平になっている。

GC 562 ビット < b_3 類 > : N-7°-E の長軸方位をもち、規模は長軸長 156 cm 土、短軸長 86 cm 土、深さ 42 cm 土を計る。長軸方向での墳底のレベルは内側がかなり高くなっている。

GC 591 ビット < b_4 類 > : N-8°-E の長軸方位をもち、長軸長 134 cm 土、短軸長 60 cm 土、深さ 26 cm 土を計る。長軸方向での墳底のレベルは内側がかなり高くなっている。

GC 592 ビット < b_3 類 > : GC 593 ビットを切ってつくられる。N-86°-W の長軸方位をもち、長軸長 102 cm 土、短軸長 64 cm 土、深さ 22 cm 土を計る。長軸方向での墳底のレベルは内側がやや高くなっている。

GC 593 ビット < a 類 > : GC 592 ビットによって切られている。N-82°-W の長軸方位をもち、規模は長軸長・短軸長とも不明、深さ 6 cm 土を計る。

第3表 墓壇観察一覧表

群	道橋名	重複関係	タイプ分類	長軸方向	長軸長	短軸長	深さ		
A	GB 657	GA 683、GB 658と重複し、GA 683より新しくGB 658より古い。	a	N-E 79°	不明	50	10		
			a ₃	N-E 69°	104	64	8		
			a ₄	N-E 79°	120	74	14		
			a	N-E 71°	不明	68	18		
	682	GB 658と重複し、それよりも古い。	a	N-E 72°	不明	84	10		
	GC 681		a	N-E 77°	不明	104	18		
	GD 681		b ₄	N-E 74°	124	84	36		
B	FI 658	FI 657と重複し、それより古い。	a ₃	N-E 43°	114	62	16		
	FJ 621	円形ピットであるFJ 623と重複し、それより古い。	a ₅	N-E 41°	174	94	13		
			a ₂	N-E 42°	104	80	14		
			a ₄	N-E 45°	136	80	8		
			a ₃	N-E 40°	100	60	14		
			652	FJ 653と重複するか新旧関係不明。	a ₂	N-E 40°	86	68	12
			653	FJ 652、FJ 657と重複し、FJ 657より新しいが、FJ 652との新旧関係は不明。	b ₃	N-E 42°	104	72	22
			654		a ₁	N-E 49°	48	28	10
			655		b ₄	N-E 44°	124	68	21
			657	FJ 653と重複し、それより古い。	a	N-E 40°	不明	60	14
			681		b ₄	N-E 43°	132	64	36
	GA 621		b ₄	N-E 38°	136	88	23		
			b ₄	N-E 37°	132	74	34		
			a ₄	N-E 36°	116	68	12		
			a ₃	N-E 37°	112	82	20		
			a ₄	N-E 41°	132	64	18		
			654	GA 656と重複し、それより新しい。	a ₅	N-E 56°	146	82	20
			655		a ₃	N-E 44°	108	54	14
	656	GA 654と重複し、それより古い。	b ₃	N-E 49°	100	60	30		
	681		a	N-E 50°	不明	60	12		
	682		a	N-E 57°	不明	66	16		
	683	GB 657、GB 658と重複し、そのいずれよりも古い。	a ₂	N-E 48°	94	50	10		
	GB 621		b ₄	N-E 38°	120	66	28		
b ₄			N-E 37°	149	60	36			

群	造 構 名	重 複 関 係	タイプ 分 類	長軸方向	長軸長	短軸長	深 さ
B	GB 651	GB 652と重複し、それより新しい。	b ₅	N-E49°	158	72	26
	652	GB 651、GB 653と重複し、GB 651より旧く、GB 653より新しい。	b ₅	N-E56°	156	74	30
	653	GB 652、GB 654と重複し、そのいずれよりも古い。	b ₅	N-E56°	154	不明	32
	654	GB 653と重複し、それよりは新しい。	b ₄	N-E39°	136	74	34
	658	GA 683、GB 657、GB 682と重複し、そのいずれよりも新しい。	c ₃	N-E40°	108	92	28
	C	FH 566		a ₃	N-E2°	104	56
651			a ₃	N-W4°	114	52	12
FI 562			a ₃	N-E4°	110	54	17
563			a ₃	N-E9°	114	48	17
564			b ₄	N-E10°	118	76	22
565			b ₃	N-E4°	102	70	24
591			a ₄	N-W6°	132	64	16
621			a ₄	N-E19°	126	64	16
622			b ₄	N-E21°	126	80	28
623			a ₄	N-E18°	120	68	14
624			a ₂	N-E25°	94	64	10
625			a ₄	N-W6°	118	62	10
656			b ₄	N-E21°	128	76	28
657		FI 658と重複し、それより新しい。	a ₄	N-E10°	134	72	20
FJ 561		FJ 562と重複し、それより新しい。	a ₃	N-E11°	104	64	18
562		FJ 561と重複し、それより古い。	a ₄	N-E13°	130	88	16
563			a ₄	N-E14°	128	52	12
591			b ₄	N-E13°	118	53	22
592			a ₃	N-E25°	114	88	10
593			b ₄	N-E21°	140	78	22
594			b ₅	N-E8°	152	70	28
GA 561		a ₅	N-E21°	156	76	16	
591		a ₃	N-E20°	100	72	4	
592		a ₄	N-E20°	124	82	12	
D	FH 503		a ₄	N-W20°	120	72	12
	FI 037		b ₄	N-W32°	138	82	30
	039		a ₄	N-W41°	122	70	16

一 西 田 道 路 一

群	道 構 名	重 複 関 係	タイプ 分 類	長軸方向	長軸長	短軸長	深 さ
D	F I 069	F J 062 と重複し、それより新しい。	b ₅	N-W37°	146	68	24
	501		a ₄	N-W24°	120	88	10
	502	F H 503 と重複し、それより古い。	a ₄	N-W19°	136	96	16
	503	F I 504 と重複し、それより古い。	a ₃	N-W22°	102	74	12
	504	F I 505、F I 503、F I 509 と重複し、そのいずれよりも新しい。	b ₃	N-W29°	106	70	26
	505	F I 504、F I 509 と重複し、F I 504 より古いか、F I 509 より新しい。	a ₅	N-W41°	172	104	19
	509	F I 504、F I 505 と重複するかそのいずれより古い。	a ₅	N-W31°	160	不明	16
	532	F I 535 と重複し、それより新しい。	b ₄	N-W19°	132	52	26
	533		b ₄	N-W18°	118	54	24
	535	F I 532 と重複し、それより古い。	a ₄	N-W19°	126	74	10
	536		a ₂	N-W21°	78	40	6
	537	F I 539 と重複し、それより新しい。	a ₄	N-W47°	134	58	15
	539	F I 537 と重複し、それより古い。	a ₃	N-W36°	104	不明	15
	F J 062	F J 063、F I 069 と重複し、そのいずれより古い。	a	N-W42°	不明	66	12
	063	F J 062 と重複し、それより新しい。	a ₄	N-W42°	124	64	14
	0313		a	N-W43°	不明	不明	7
	501		a ₄	N-W32°	117	72	16
	533		b ₅	N-W18°	156	82	21
	534		a ₄	N-E 4°	132	74	16
	GA 032	GA 033 と重複し、それより新しい。	a ₄	N-W44°	138	86	8
	033	GA 032 と重複し、それより古い。	a ₅	N-W38°	148	74	14
	034	GA 033 と重複し、それより新しい。	b ₄	N-W45°	138	80	22
	095		a ₂	N-W52°	90	46	8
0910	GA 0912 と重複し、それより新しい。	a ₃	N-W43°	101	74	14	
0912	GA 0910、GA 061、GA 062 と重複し、そのいずれよりも古い。	a ₄	N-W44°	120	84	12	
061	GA 0912、GA 062 と重複し、GA 0912 より新しく、GA 062 より古い。	a	N-W46°	不明	46	16	
062	GA 0912、GA 061 と重複し、そのいずれよりも新しい。	b ₅	N-W42°	150	82	28	
501		a ₄	N-W52°	140	80	11	
E	GA 031		a ₄	N-W69°	118	74	14
	065		a ₅	N-W85°	160	80	8
	GB 1518		a ₅	N-W83°	156	92	16
	122	GB 124 と重複し、それより古い。	b ₅	N-W83°	146	94	28

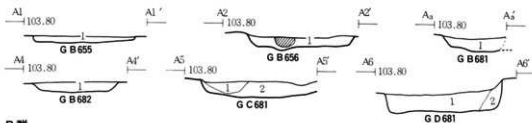
群	遺構名	重複関係	タイプ 分類	長軸方向	長軸長	短軸長	深さ
E	GB 124	GB 122 と重複し、それより新しい。	a ₄	N-W84°	135	119	16
	125		b ₄	N-W77°	134	90	23
	094	GB 063、GB 095 と重複し、双方に切られる。	a	N-W71°	不明	不明	10
	095	GB 094、GB 097 と重複し、双方を切っている。	a ₄	N-W73°	122	66	14
	097	GB 095 と重複し、それより古い。	b ₅	N-W76°	150	90	24
	062		a ₃	N-W70°	104	80	16
	063	GB 066、GB 095 と重複し、GB 066 より旧く、GB 094 より新しい。	b ₅	N-W77°	166	92	30
	066	GB 063 と重複し、それより新しい。	c ₂	N-W71°	84	70	22
	031		c ₃	N-W77°	99	70	22
	GC 1511		c ₃	N-W79°	96	82	34
	121		a ₄	N-W75°	142	80	10
	091		a ₄	N-E80°	132	80	12
	093		a ₄	N-E82°	124	80	10
	095		b ₃	N-E81°	99	56	21
	061		a ₄	N-E78°	120	82	14
	064		a ₄	N-E83°	132	68	13
	065		a ₃	N-E80°	108	64	17
	031		b ₄	N-E82°	128	82	22
	GD 123	GD 125 と重複し、それより新しい。	b ₄	N-E77°	144	70	22
	125	GD 123、GE 123 と重複し、そのいずれよりも古い。	a ₄	N-E75°	120	64	14
	091		a ₃	N-E69°	108	50	8
	092		a ₄	N-E74°	126	74	16
	062		a ₄	N-E67°	128	80	10
	063		a ₄	N-E72°	124	80	16
	031		a ₄	N-E70°	138	96	18
	GE 123	GD 125 と重複し、それよりも新しい。	b ₄	N-E67°	118	70	21
091		a ₃	N-E67°	112	78	18	
092		a ₄	N-E67°	130	60	10	
F	GD 064		a ₄	N-E50°	130	80	10
	GE 061		a ₂	N-E54°	90	54	14
	062		b ₄	N-E52°	128	62	26
	063	GE 064 と重複し、それより古い。	b ₃	N-E43°	110	74	22

— 西田遺跡 —

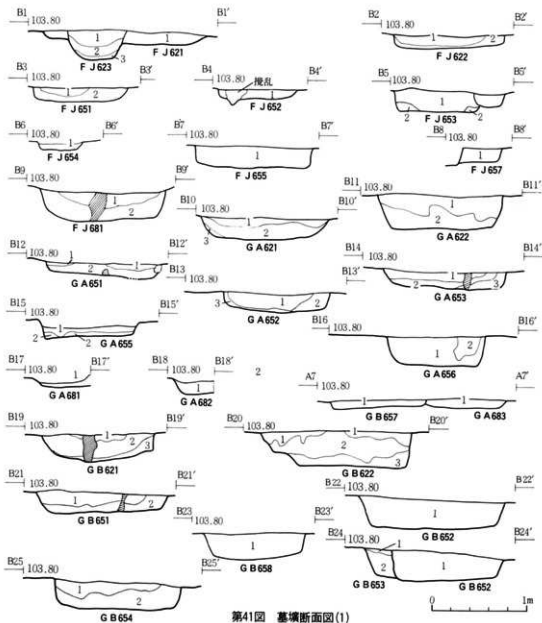
群	遺構名	重複関係	タイプ 分類	長軸方向	長軸長	短軸長	深さ	
F	GE 064	GE 063、GE 032と重複し、GE 063より新しいが、GE 032とは新旧関係不明。 GE 064、GF 064と重複し、GF 064より古い。GF 064との新旧関係不明。	b ₄	N-E 47°	136	70	28	
	031		a ₃	N-E 49°	114	84	14	
	032		a ₄	N-E 35°	136	80	14	
	033		a ₃	N-E 49°	114	76	18	
	034		a ₄	N-E 48°	134	74	10	
	035		a ₂	N-E 37°	78	40	8	
	501		b ₅	N-E 34°	170	102	26	
	502		a ₄	N-E 54°	138	78	16	
	503		a ₂	N-E 29°	82	70	10	
	504		b ₄	N-E 30°	120	72	21	
	505		a ₃	N-E 29°	114	76	12	
	GF 061		GE 032と重複し、それより新しい。	b ₄	N-E 51°	120	70	26
	064			b ₅	N-E 42°	154	80	30
	031			a ₃	N-E 34°	104	64	17
	033			a ₂	N-E 35°	80	54	8
	034			a ₃	N-E 47°	115	54	12
	035			a ₅	N-E 25°	154	86	16
	036			a ₃	N-E 33°	115	74	16
	502			a ₃	N-E 0°	108	82	10
	503	a ₄		N-E 28°	136	76	18	
504	b ₄	N-E 33°	140	72	22			
G	GE 531		a ₄	N-W 1°	128	78	14	
	561		a ₅	N-E 2°	176	80	15	
	GF 531		a ₄	N-E 1°	128	78	14	
	532		b ₄	N-W 7°	144	70	32	
	561		b ₅	N-W 8°	176	80	23	
	562		b ₄	N-W 7°	120	70	21	
	563		a ₄	N-W 6°	128	84	14	
	564		a ₂	N-E 9°	92	46	16	
	591		b	N-W 8°	不明	84	32	
	592		b ₃	N-W 9°	112	66	22	
	593		b ₄	N-W 9°	142	80	28	

群	遺構名	重複関係	タイプ分類	長軸方向	長軸長	短軸長	深さ
G	GF 594		a ₄	N-W9°	144	110	14
	621	GF 624 と重複し、それより新しい。	b ₄	N-W12°	124	70	24
	624	GF 621 と重複し、それより古い。	a	N-W17°	不明	64	15
	GG 561		b ₄	N-W8°	130	74	26
	562		b ₅	N-W6°	150	100	38
	625		a ₃	N-W14°	104	68	18
H	GE 621		b ₅	N-W37°	154	80	36
	622		a ₄	N-W36°	128	66	12
	623		b ₂	N-W24°	90	68	24
	651		b ₄	N-W49°	124	74	25
	652	GF 654 と重複し、それより新しい。	c ₂	N-W21°	84	60	21
	682		a ₄	N-W47°	120	80	17
	GF 622	GF 651 と重複し、それより古い。	a ₄	N-W40°	140	80	18
	623		a ₃	N-W33°	104	58	19
	651	GF 622 と重複し、それより新しい。	a ₂	N-W8°	92	52	16
	652		a ₃	N-W24°	102	60	14
	653		a ₂	N-W26°	78	52	13
	GF 654	GE 652 と重複し、それより古い。	a	N-W21°	不明	76	8
	655		b ₃	N-W38°	106	76	26
(D)	GA 562		a ₂	N-W45°	94	58	12
	563		a ₂	N-W61°	90	62	7
	GB 561		b ₃	N-W31°	110	78	32
	562		a ₅	N-W56°	202	94	16
	563	GB 532 と重複し、それよりも新しい。	a ₂	N-W46°	90	50	12
(E)	532	GB 563 と重複し、それより古い。	b ₄	N-W72°	138	102	31
(C)	591		a ₃	N-E5°	114	92	12
(B)	592		a ₂	N-E49°	80	56	16
	593		b ₄	N-E56°	128	74	22
(F)	GC 563		a ₃	N-E27°	112	88	10
(G)	GC 562		b ₅	N-E7°	156	86	42
	591		b ₄	N-E8°	134	60	26
(A)	592	GC 593 と重複し、それよりも新しい。	b ₃	N-W86°	102	64	22
	593	GC 592 と重複し、それよりも古い。	a	N-W82°	不明	不明	6

A群

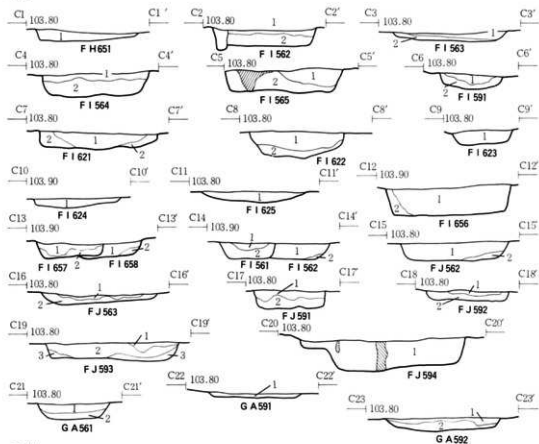


B群

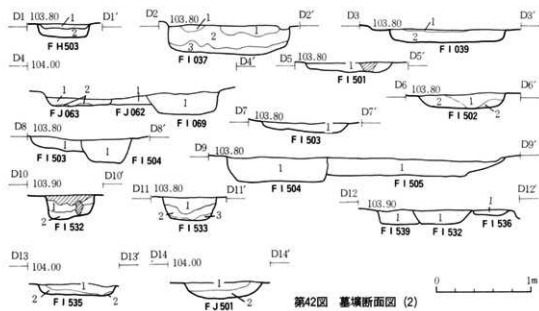


第41圖 墓墳断面図(1)

C群



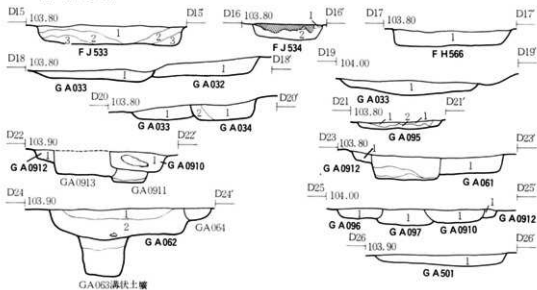
D群



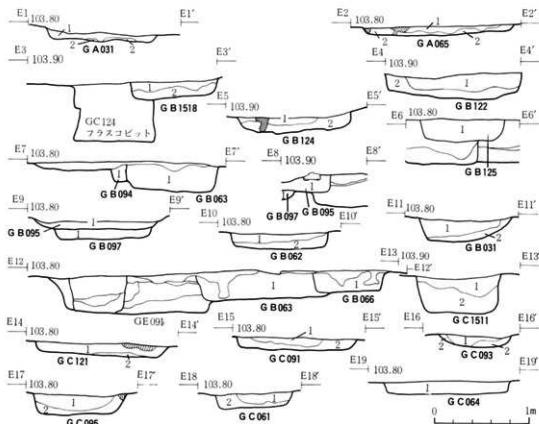
第42図 基壇断面図 (2)



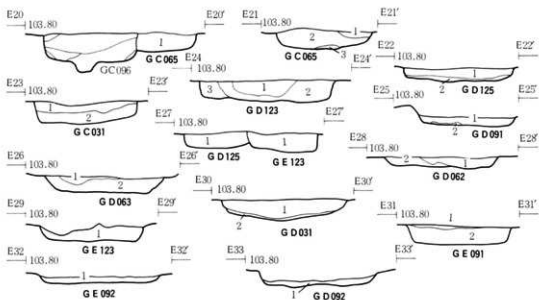
— 西田遺跡 —



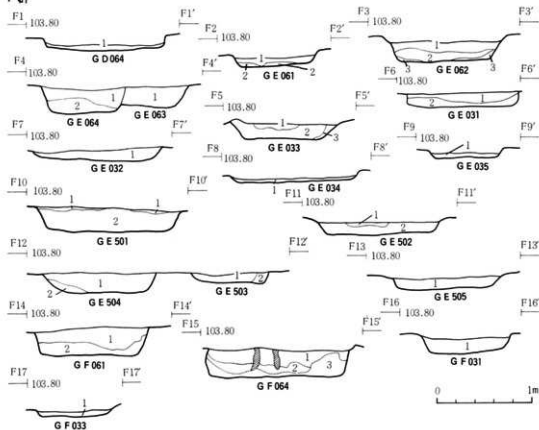
E 群



第43図 墓塚断面図 (3)

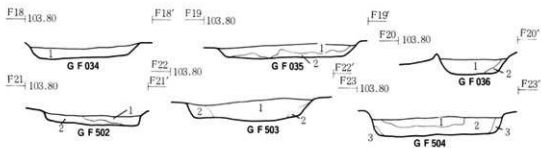


F 群

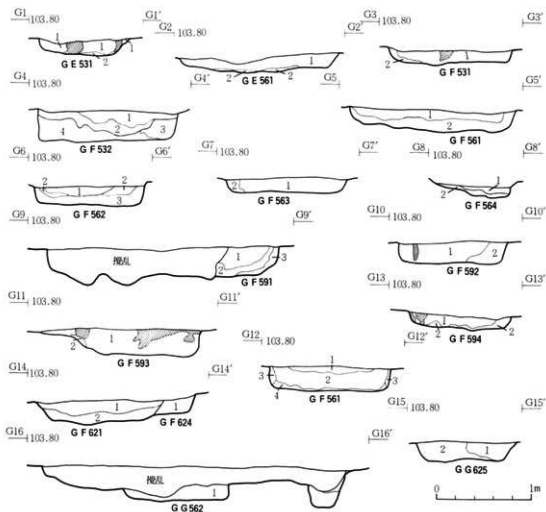


第44圖 基壇断面図 (4)

— 西田遺跡 —

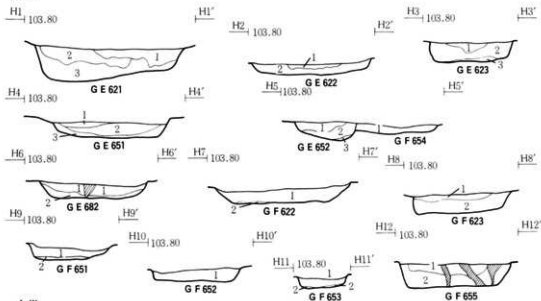


G群

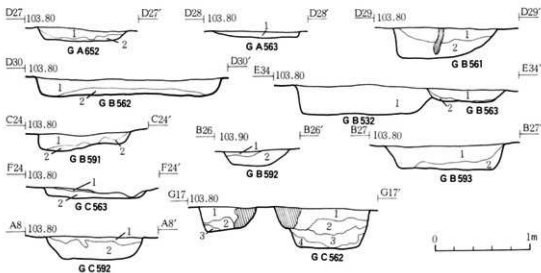


第45圖 墓壇断面図 (5)

H群



内帯



第46図 基壇断面図 (6)

第 4 表 墓墳埋土観察表

遺構名	層No	土色	土性	しまり	埋積土の状況	混入物	層の形成	遺構名	層No	土色	土性	しまり	埋積土の状況	混入物	層の形成
CB 657	1	116	b	T'	A	C ₁	A			5	b	T'	A	—	A
655	1	115	b	T'	A	C ₁	A			7	a	T'	G	—	A
656	1	65	a	M	A・G	C ₁	A	622	1	4	a	C'	G・A	C ₁	A
681	1	101	a	T'	A・G	—	A		2	169	a	M	A	C ₁	A
682	1	117	a	T'	A・G	C ₁	A	651	1	59	c	C	G	—	A
GC 681	1	45	a	M	G	C ₁	A		2	61	c	M	A	—	A
681	2	47	a	T	A・G	C ₁	A	652	1	63	a	T	G・A	C ₁	A
GD 681	1	79	b	T'	A	—	A		2	59	a	M	A	—	A
681	2	76	b	C	A・G	—	A		3	117	a	T	A	—	A
F1 658	1	65	a	T'	A・G	C ₂	A	GA 653	1	57	b	M	P・G	—	N
FJ 621	1	126	a	T'	A	C ₁	A		2	81	a	T	A	—	A
FJ 623	1	64	c	M	A・G	—	A		3	96	b	T	A	—	A
623	1	45	c	M	P	—	N	654							
623	2	46	c	M	P・G	C ₁	N	655	1	102	a	M	A・G	C ₁	A
622	3	74	b	T	P	—	N		2	109	a	T'	A	C ₁	A
622	1	86	a	M	G	—	A?	656	1	85	a	T	A	C ₁	A
624	1	127	a	T	A	C ₁	A		2	50	a	M	A	C ₁	A
651	1	78	a	M	A	C ₁	A	681	1	77	a	T'	A・G	C ₁	A
652	1	104	a	M	A	—	A	682	1	76	a	T'	A・G	C ₁	A
653	1	51	a	T	A	C ₁	A	683	1	77	a	T	A・G	—	N?
653	1	60	b	T	A・G	—	A	GB 621	1	74	b	M	G	—	N?
654	2	58	b	C'	G	—	A?		2	64	b	M	A・G	C ₁	A
654	1	72	a	M	A・G	—	A	622	1	111	b	T	A	C ₁	A?
655	1	90	a	T	A	C ₁	A		3	23	a	M	G	C ₁	A
657	1	123	a	T	A	—	A		2	118	a	T	A	C ₁	A
681	1	75	a	T'	G	—	A?	651	1	104	a	T'	A	C ₁	A
621	2	64	a	M	A・G	C ₁	A?		2	100	c	T'	A	C ₁	A
GA 621	1	58	b	M	P	C ₁	N?	652	1	103	c	T	A	—	A
									1	124	b	T	A	C ₁	A

653	1	57	a	M	P	C ₂	N ?	563	1	51	a	T'	G · A	-	A
	2	123	a	T	A	-	A		2	101	a	T'	A	C ₁	A
654	1	71	a	M	G	-	A ?	591	1	76	a	T'	A · G	-	A
	2	26	a	T'	A	-	A		2	63	a	M	A · G	C ₁	A
658	1	68	a	T'	A · G	-	A	592	1	24	a	M	A · G	-	A ?
FH 566	1	77	a	T'	A	C ₁	A		2	117	a	T'	A	C ₁	A
	1	124	a	T'	A	-	N ?	593	1	66	a	M	G	C ₁	N ?
FJ 562	1	76	a	M	G	-	A		2	77	a	T'	A	C ₁	A
	2	139	a	T'	A	-	A		3	114	a	T'	A	C ₁	A
	1	137	a	T'	A	-	A	GA 561	1	77	a	T'	A	-	A
	2	65	a	T'	A	-	A		2	115	a	T'	A	-	A
564	1	88	a	T'	G	C ₁	A ?	591	1	76	a	T'	G	C ₁	A ?
	2	65	a	T'	A · G	C ₁	A	592	1	51	a	M	A · G	C ₂	A
565	1	113	a	T'	A · G	C ₁	A		2	24	a	T'	A · G	C ₁	A
	2	64	a	T'	A · G	C ₁	A	FH 503	1	74	a	T'	G	-	N ?
591	1	38	a	C'	G · A	C ₁	A		2	77	a	T'	A · G	-	A
	2	77	a	T'	A	C ₁	A	FI 037	1	87	a	T'	G	C ₁	A ?
FJ 621	1	50	b	T	A	-	A		2	51	a	T'	A	C ₁	A
	2	47	b	T	A · G	-	A		3	77	a	M	A	-	A
622	1	51	a	T	A	-	A	039	1	74	a	T'	G	C ₂	N ?
	2	46	a	T	A · G	C ₁	A		2	113	a	T'	A	C ₁	A
623	1	51	a	M	A · G	C ₁	A	069	1	51	a	T'	A · G	C ₁	A
624	1	52	a	T'	A	C ₁	A	501	1	76	a	M	A · G	C ₁	A
625	1	94	a	C'	G	C ₁	A ?	502	1	88	a	T'	A · G	C ₁	A
656	1	116	a	C'	A	C ₁	A		2	114	a	T'	A	C ₁	A
	2	143	b	T	A	C ₂	A	503	1	81	a	M	A · G	C ₁	A
657	1	65	a	T'	A · G	C ₂	A	504	1	47	a	T'	A	C ₁	A
	2	126	a	T'	A	C ₁	A	505	1	46	a	T'	A · G	-	A
FJ 561	1	64	a	T'	G · A	C ₁	A ?	FI 509							
	2	124	a	T	A	-	A	532	1	64	a	T'	A · G	-	A
	1	125	a	T	A	C ₁	A		2	47	a	T	G · A	-	A
562	1	125	a	T	A	-	A	533	1	64	a	T'	A · G	-	A
	2	63	a	T'	G	-	A								

道 標 名	層 号	土 色	土 性	し ま り	堆 積 土 の 状 況	混 入 物	層 の 形 成	道 構 名	層 号	上 色	土 性	し ま り	堆 積 土 の 状 況	混 入 物	層 の 形 成	
F I	533	2	48 a	T	A	—	A	031	2	72 a	a	T'	A	—	A	
		3	64 a	T'	G	—	A ?	065	1	45 a	a	M	G	—	A ?	
		535	1	33 a	M	A・G	C ₁		2	71 a	a	T'	A・G	—	A	
			2	113 a	T'	A	C ₁	CB1518	1	38 a	a	T'	A・G	—	A ?	
		536	1	114 a	T	A	—	A	2	112 b	b	T'	A・G	—	A	
		537	1	127 a	T	A	—	A	1	76 b	b	T'	A	B ₁	A	
		539	1	89 a	T'	A	C ₁	122	2	140 b	b	T	A・G	C ₁ ・B ₁	A	
	F J	062	1	101 a	M	G・A	C ₁	A	124	1	50 a	a	M	G・A	—	A
		063	1	100 a	T'	A・G	C ₁	A	2	52 b	b	T'	A	—	—	A
			2	114 a	T'	A	C ₁	A	125	1	64 a	a	T	A	C ₁	A
	0313							094	1	76 b	b	T'	A・G	B ₁	A	
	501	1	100 a	M	G・A	—	A	095	1	75 a	a	T'	G・A	C ₁	A	
		2	102 a	T'	A	—	A	097	1	76 a	a	T	A	C ₁	A	
	533	1	64 a	T'	A・G	—	A	62	1	75 a	a	T'	G・A	—	A	
		2	111 a	T	A	—	A	2	140 b	b	T	A	—	—	A	
		3	63 a	M	A・G	—	A	063	1	76 a	a	T	A	—	A	
	534	1	74 a	T'	G	—	N ?	066	1	64 a	a	M	A	C ₁ ・B ₁	A	
		2	64 a	T	A・G	—	A	031	1	63 a	a	M	G	C ₁	A ?	
	032	1	76 a	T'	A	C ₁	A	031	2	90 a	a	T'	A	C ₁	A	
	033	1	64 a	M	A	C ₁	A	GC1511	1	75 a	a	M	G・A	—	A	
	034	1	50 a	T'	G	C ₁ ・B ₂	A ?	2	89 b	b	T'	G・A	—	—	A	
		2	77 a	T'	A・G	C ₁ ・B ₁	A	121	1	63 a	a	T'	G・A	B ₁	N ?	
	095	1	76 a	C	G	—	A ?	091	2	57 a	a	C'	G	—	N ?	
		2	135 c	T	A	—	A	091	1	50 a	a	M	G・A	—	A	
	0910	1	65 a	T	A	C ₁	A	093	2	64 a	a	T'	A	—	A	
	0912	1	116 b	T	A	—	A	093	1	47 a	a	T'	G・A	C ₁	A	
	061	1	50 a	T'	G・A	C ₁	N ?	095	2	97 a	a	T'	G・A	C ₁	A	
	062	1	49 a	T'	G	C ₁ ・B ₁	A	095	1	77 a	a	M	A	C ₁	A	
		2	77 a	T	A	—	A	061	2	76 b	b	T'	A・G	C ₁	A ?	
	501	1	64 b	T'	A・G	C ₁	A	061	1	71 a	a	M	A	C ₁	A	
GA	031	1	47 a	M	G	—	A ?	2	76 b	b	T'	A	—	—	A	

064	1	77	a	T	A	—	A	031	1	64	a	T'	A · G	—	A
065	1	71	a	T'	G · A	—	A	032	2	123	a	T	A	—	A
	2	63	a	T'	G · A	C ₁	A	033	1	63	a	T'	G · A	C ₁	A ?
	3	58	a	M	G	C ₁	N ?	033	2	62	a	M	G	—	N ?
	031	1	76	a	T'	—	A		3	71	a	T'	A	—	A
	2	73	a	M	A · G	B ₁	A	034	1	59	a	T'	G · A	C ₁	A ?
GD	123	1	76	a	T'	C ₁	A	035	1	63	a	T'	G · A	C ₁	A ?
	2	64	a	T	A · G	C ₁	A	501	1	62	a	M	G	—	N ?
	3	78	a	T'	A	—	A	502	2	124	b	T	A	—	N ?
	125	1	71	a	M	—	A	502	1	58	a	C	G	—	N ?
	2	89	a	T'	A · G	—	A	503	2	101	a	T'	A	—	A ?
	091	1	76	a	T'	C ₁	A	503	1	60	a	T'	G	C ₁	A
	2	27	b	T	A	C ₁	A	504	2	117	a	T'	A	C ₁	A
	092	1	77	a	T'	C ₁	A	504	1	76	a	T'	A	C ₁	A
	062	1	77	a	T'	—	A	505	2	140	b	T	A	—	A
	2	72	a	T'	A · G	—	A	GF	1	126	a	T'	A	C ₁	A
	063	1	58	a	T'	C ₁ · B ₁	N ?	061	1	63	a	M	A	C ₁	A
	2	72	a	T'	A	—	A	064	2	65	a	M	A	C ₁	A
	031	1	97	a	T	—	A	064	1	76	a	M	G	—	A ?
	2	62	a	C'	G	C ₁	N ?		2	113	a	T'	A · G	—	A
GE	123	1	77	a	T'	C ₁	A	031	3	115	a	T'	A	C ₁	A
	091	1	64	a	T'	—	A	033	1	77	a	T'	A · G	—	A
	092	1	64	a	T	C ₁	A	033	1	93	a	T'	A · G	—	A
GD	064	1	122	b	T'	—	A	034	1	63	a	T'	G · A	C ₁	A
GE	061	1	100	a	T'	—	A	035	1	59	a	M	A · G	C ₁	A
	2	117	a	T	A	C ₁	A	035	2	109	a	T'	A	C ₁	A
	062	1	83	a	M	C ₁	A ?	036	1	64	a	T'	G · A	C ₁	A
	2	90	a	T'	A	C ₁	A	502	2	111	a	T'	A	—	A
	3	126	a	T'	A	—	A	502	1	60	a	C'	G · A	C ₁	A
	063	1	76	a	T'	—	A	503	2	109	a	T'	A	—	A
	064	1	75	a	M	C ₁	A ?		1	60	a	T'	G · G	C ₁	A
	2	126	b	T'	A	—	A		1	60	a	T'	G · G	C ₁	A

遺構名	層No	土色	土性	しまり	堆積上の状況	埋人物	層の形成	遺構名	層No	土色	土性	しまり	堆積上の状況	埋人物	層の形成
GF 503	2	130	a	T'	A	C ₂	A	594	1	77	a	T'	A	C ₁	A
	3	76	a	T'	A	C ₁	A	2	114	b	b	T	A	-	A
504	1	77	b	T	A	-	A	621	1	76	a	T'	G	-	A?
	2	75	a	M	-	-	A	2	110	a	a	T'	A	-	A
	3	85	a	T'	A	-	A	624	1	77	a	T	A	-	A
GE 531	1	123	a	T'	A	-	A	GG 561	1	62	b	M	P	C ₁	N?
	2	117	a	T'	A	-	A	2	64	b	b	T'	G・A	C ₁	A?
561	1	76	a	T'	A	-	A?	3	60	b	b	C'	G	-	A
	2	87	a	T	G	-	A	4	78	b	b	T	G	-	A
GF 531	1	76	a	M	A	-	A	562	1	77	b	T'	A	-	A
	2	89	a	T'	G・A	-	A	625	1	60	a	M	G・A	-	A
532	1	88	a	M	G	-	A?	2	72	b	b	M	A・G	-	A
	2	76	a	M	G・A	-	A	GE 621	1	63	a	C'	G・A	-	A
	3	130	a	T	A	-	A	2	130	a	a	T'	A	-	A
561	1	80	b	T'	A	-	A	3	117	a	a	T'	A	-	A
	2	77	a	T'	A	-	A	622	1	63	a	M	G	-	A?
562	1	63	a	M	G・A	-	A	2	117	b	b	T'	A	-	A
	2	143	c	T	A	-	A	623	1	117	b	T'	A	-	A
	2	64	a	M	A・G	-	A	2	113	a	a	T	A	-	A
563	3	77	b	T'	A	-	A	3	130	b	b	M	A・G	C ₁	A
	1	64	a	M	A・G	-	A	651	1	117	b	M	A	-	A
	2	60	a	C'	G	-	A	2	64	a	T'	A・G	A	C ₁	A
564	1	63	a	M	G	-	A?	3	100	b	b	M	G・A	C ₁	A
	2	143	c	T	A	-	A	652	1	63	a	M'	G・A	-	A
591	1	115	a	T'	A	-	A	2	117	b	b	T	A	-	A
	2	63	a	M	G・A	-	A	3	112	b	b	T'	A・G	-	A
	3	77	a	T'	A	-	A	682	1	77	a	T	A	-	A
592	1	77	a	T'	A	-	A	2	112	b	b	T'	A	-	A
	2	117	a	T	A	-	A	GF 622	1	64	a	T	A・G	-	A
593	1	76	a	T'	A	-	A	2	117	b	b	T'	A	-	A
	2	102	a	T'	A	-	A	623	1	76	a	M	G・A	-	A

651	2	77	b	T'	A · G	—	A	2	64	a	T'	A · G	—	A
	1	50	a	T'	A · G	—	A	5	113	a	T'	A	—	A
652	2	78	a	T'	A	—	A	1	58	a	M	G	C ₁	A ?
653	1	77	a	T'	A	C ₁	A	2	64	a	T'	A	C ₁	A
	2	114	a	T	G · A	—	A							
654	1	77	a	T'	A	C ₁	A							
655	1	114	b	T'	A	C ₁	A							
	2	109	b	T	A	C ₁	A							
GA	562	1	37	a	M	C ₁	A							
	2	118	b	T'	A	—	A							
563	1	110	a	T'	A	—	A							
GB	561	1	102	a	T	A	C ₁							
	2	77	a	T'	A	C ₁	A							
562	1	77	a	T'	A	C ₁	A							
	2	63	a	M	A · G	—	A							
563	1	75	a	M	G · A	—	A							
	2	113	b	T'	G · A	C ₁	A							
532	1	114	b	T'	A	—	A							
591	1	64	a	M	A	—	A							
	2	110	b	T'	G · A	C ₂	A							
592	1	63	a	M	A	C ₁	A							A ?
	2	111	b	T'	G	—	A							A
593	1	76	a	M	A	—	A							A
	2	58	a	M	G · A	C ₂	A							A ?
563	1	50	a	T'	G · A	C ₁	A							A
	2	64	a	M	A · G	C ₂	A							A
GC	562	1	110	a	T	A	A							A
	2	74	a	T'	A · G	—	A							A
	3	60	a	M	A · G	—	A							A
	4	114	a	T	A	C ₁	A							A
591	1	59	a	M	A · G	C ₁	A							A

3 柱穴状ピット群（長方形柱穴列群）

遺跡中央に占地する土壌墓の四周には掘立柱状柱穴列を中心とする大小のピット群が環状に回る。これらの柱穴群は墓域群と同心円的な関連をもっており、土壌墓の“群”と対応する占地形態を示している。この柱穴状ピット環状帯の規模は、墓域内帯心よりの半径が外側で約26～30m、内側で約15～20mを計り、環状帯の幅は約12～15mになっている。

これらの柱穴状ピットは、主に長方形を基調とする柱穴列（構造物）にかかわるものであり、その配置形態（軸方向—長軸ないしは短軸方向）の類似性によって、A～Jの10群に大別してある。東側に調査区外を含むため柱穴列の実体は明確にできないが、本来は16群に分けられていたことが予想される。以下、A～J群の柱穴列の内容を略述する。

〔柱穴状ピットA群〕 約135個のピットがこの群に含まれ、このなかから4単位の掘立柱状柱穴列が確認されている。

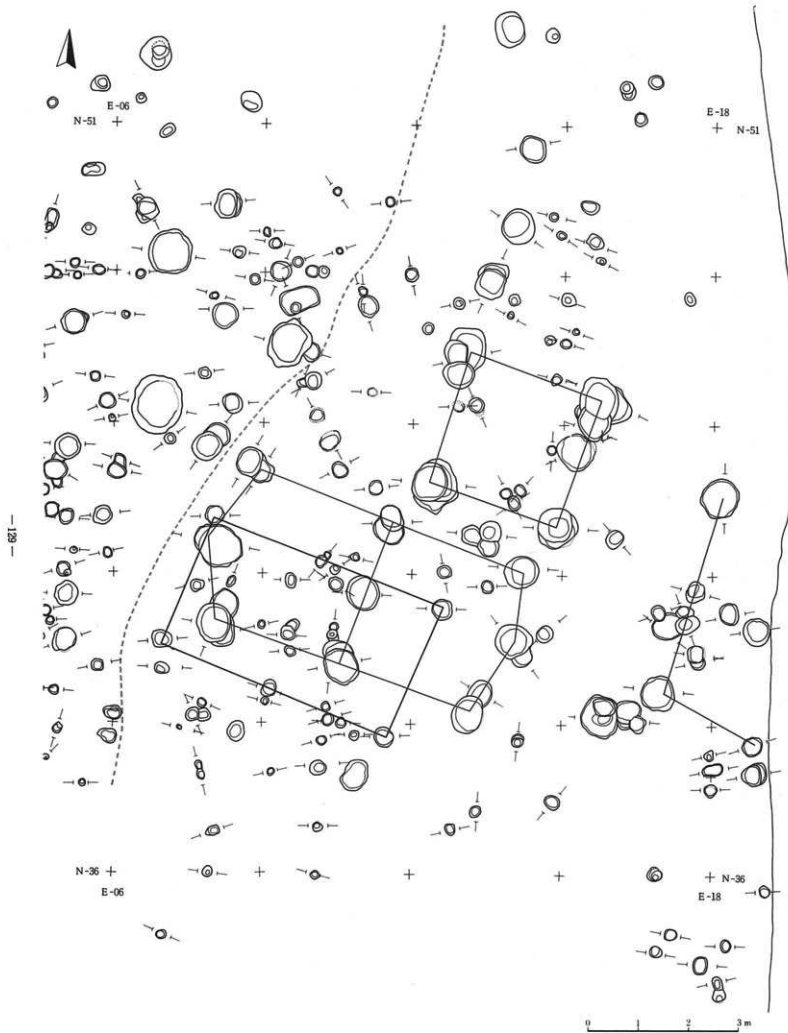
A-1号：FE621・FE651・FF593・FF621の4個のピットで構成される。辺長3.5mの正方形を呈し、N-77°-Wの主軸方位をもつ。4個のピットそれぞれが切り合っており、建て替えられたものである可能性が高い。4個のピットのうち3個から柱痕が確認されている。

A-2号：FF569・FF599・FF622・FF562・FG592・FG622・FG561・FG593・FG623の9個のピットで構成される総柱状の構造物である。各辺とも3個のピットをもつが、短辺中央のピットは張り出して配置されている。規模は長辺長6.3m、短辺長3.8m、張り出し部の軸長7.2mを計り、N-78°-Wの主（長）軸方位をもつ。南辺の3個のピットには方位が一定した切り合いがみられる。9個のピットのうち6個のピットで柱痕が確認されている。

A-3号：FF563・FF597・FG621・FG562・FG5615・FH596の6個のピットで構成される。長辺長5.4m、短辺長3.2mの長方形を呈し、N-74°-Wの主（長）軸方位をもつ。A-2号と平面的には重複するが、ピット間の切り合いがないため新旧関係は不明である。他の柱穴列に比べてピットの規模が小さく、柱痕も2個のピットでしか確認されていない。

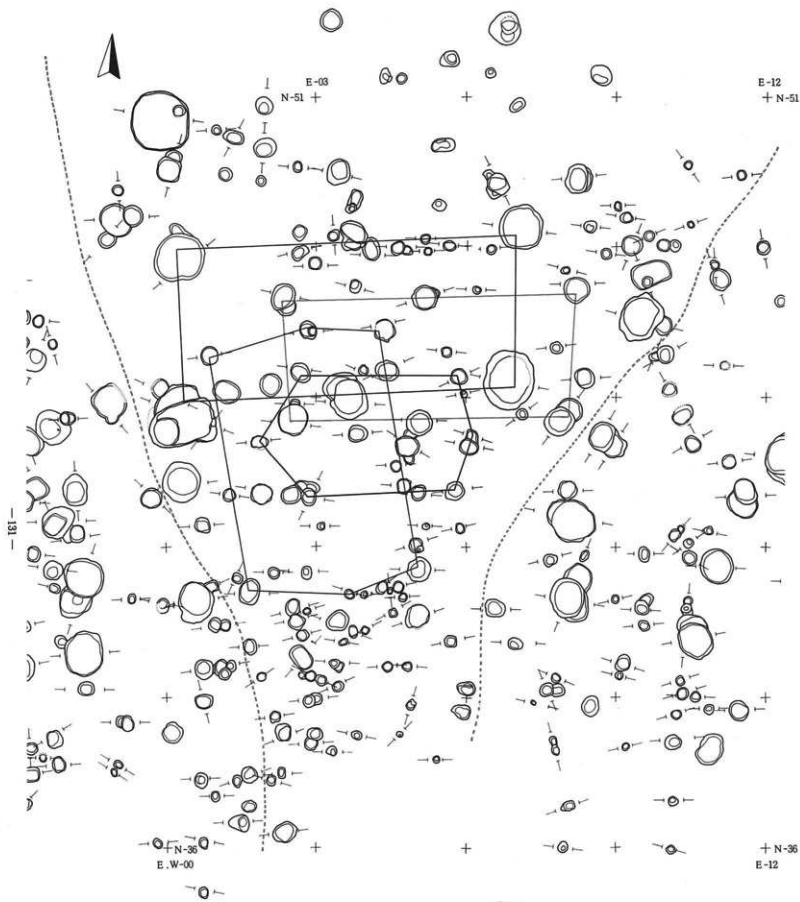
A-4号：FF681・FG655・FG651の3個のピットで長辺の一辺を構成するもので、FH681ピットが短辺の張り出し部に加わる。本来は8個のピットで柱穴列を構成するものと思われ、他のピットは東側用地外に延びる。長辺長が5.0mを計るほかは規模は不明で、N-12°-Eの主（長）軸方位をもつ。

小結：A群内で確認された4単位の柱穴列は、その軸方位をN-74°-WからN-78°-Wの間にもつ。重複関係からみれば、A-2号とA-3号が平面的に重複するのみで、新旧関係は不明である。



-129-

第47回 長方形柱穴列配置図 (A 群)



第48回 長方形柱穴配置圖 (B群)

(柱穴状ビットB群) 約150個のビットがこの群に含まれ、このなかから4単位の柱穴列が確認されている。

B-1号: FE 501・FE 531・FE 564・FF 501・FF 531・FF 566の6個のビットで構成される。長辺長6.1m、短辺長3.0mの長方形を呈し、N-84°-Eの主(長)軸方位をもつ。FE 564ビットを除く5つのビットで柱痕が確認されている。

B-2号: FD 036・FD 531・FD 562・FF 0310・FE 532・FE 563の6個のビットで構成される。長辺長7.8m、短辺長4.1mの長方形を呈し、N-77°-Eの主(長)軸方位をもつ。FD 036・FF 0310の2個のビットを除き、6個のビットで柱痕が確認されている。

B-3号: FE 503・FE 5314・FF 504・FF 536・FF 508・FF 538の6個のビットで構成されるもので、短辺中央のビットは短辺側柱より張り出して位置する。規模は長辺長3.6m、短辺長2.8m、張り出し部の軸長4.6mを計り、N-82°-Eの主(長)軸方位をもつ。柱痕はFF 504・FF 536の2個のビットで確認されている。

B-4号: FE 504・FF 5010・FG 502・FE 537・FF 539・FG 531・FE 502・FG 534の8個のビットで構成され、短辺中央のFE 502・FG 534ビットは短辺側柱より張り出して位置する。規模は長辺長5.2m、短辺長3.9m、張り出し部の軸長5.6mを計り、N-14°-Wの主(長)軸方位をもつ。FG 502・FG 531・FE 502の3個のビットで柱痕が確認されている。

小結: 柱穴状ビットB群内からは4単位の柱穴列が確認され、それぞれの軸方位はN-76°-EからN-84°-Eの間に入る。重複関係からみればB-1号からB-4号までのすべての柱穴列が平面的に重複するもののビット相互の切り合いが認められないため新旧関係は不明である。ただB-1号がFE 561ビットと重複し、それを切ってつくられる。

(柱穴状ビットC群) 約209個のビットがC群に含まれ、このなかから4単位の柱穴列が確認されている。

C-1号: FF 095・FG 068・FG 032・FF 0614の4個のビットで構成される。規模は長辺長5.0m、短辺長4.0mの長方形を呈し、N-59°-Eの主(長)軸方位をもつ。FE 062プラスチックビットと重複するが新旧関係は不明である。すべてのビットで柱痕が確認されている。

C-2号: FG 091・FF 066・FF 0611・FF 031・FH 063・FH 061・FG 036・FG 5012の8個のビットで構成される。短辺は2本のビットをもち、その中央に位置するFF 038・FG 095の2個のビットがこの単位構成に加わる可能性をもつものの深さが浅いことから除外してある。規模は長辺長8.5m、短辺長5.2mの長方形を呈し、N-57°-Eの主(長)軸方位をもつ。8個のビットのうち4個のビットで柱痕が確認されている。

C-3号: FF 092・FG 062・FG 0610・FF 0617・FF 063・FG 033の6個のビットで構成される。規模は長辺長5.3m、短辺長3.0m長方形を呈し、N-36°-Wの主(長)軸方位

をもつ。C-1号と重複し、それを切ってつくられる。3個のビットで柱痕が確認されている。

C-4号：FE 127・FF 094・FD 093・FF 061の4個のビットで方形を企画し、短辺中央に張り出してFF 0913ビットが配置される可能性が高い。この場合、対応するもう1個のビットはFE 121ビットによって破壊(?)されているものと思われる。張り出し部の軸長を除いて、規模は長辺長4.2m、短辺長3.8mを計り、N-36°-Wの主(長)軸方位をもつ。柱痕は3個のビットで確認されている。

小結：柱穴状ビットC群内からは4単位の柱穴列が確認されており、それぞれの軸方向はN-54°-EからN-59°-Eの間に入る。重複関係からみればC-4号を除く3単位は平面的に重複しており、C-1号とC-3号と間にはビット相互の切り合いがみられる。C-3号はC-1号より新しく、C-1号、C-2号はFE 062 フラスコ形ビットと接するが新旧関係は不明である。C-4号はFE 121 フラスコ形ビットと重複するが、FE 125 ビットによって破壊されているためその切り合いが明確ではない。C-4号の方が新しくなる可能性が高い。

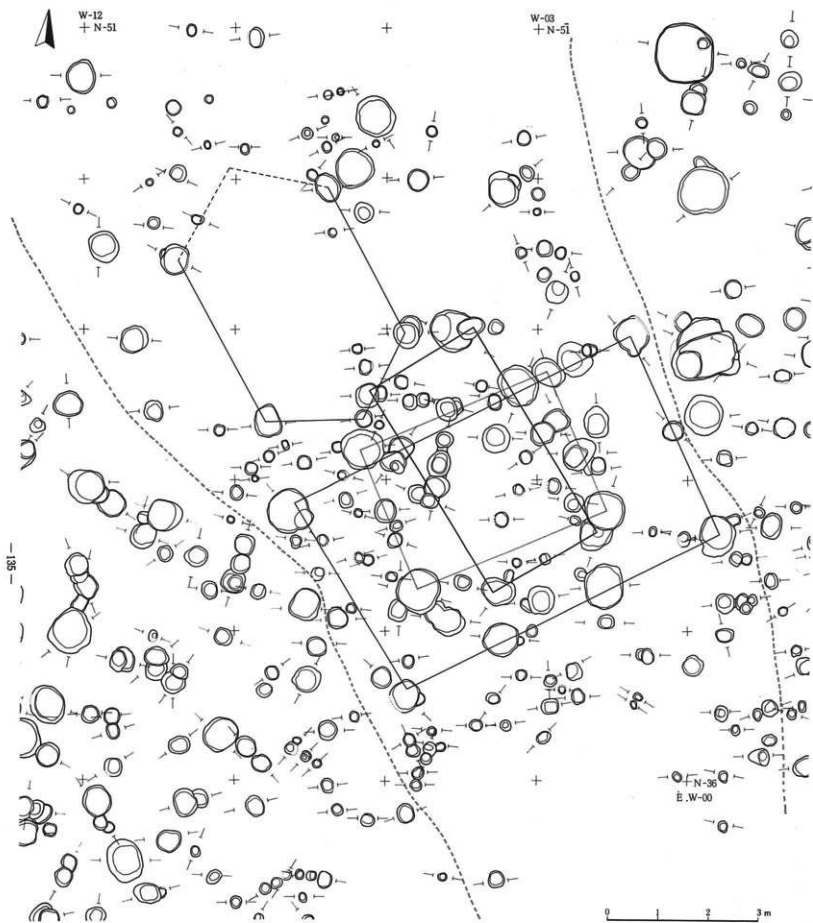
〔柱穴状ビットD群〕 D群内からは約234個のビットが検出されており、このなかから7単位の柱穴列が確認されている。

D₁-1号：FG 121・FG 151・FH 153・FG 094・FH 123・FI 129・FG 128・FI 152の8個のビットで構成される。長短辺とも3個のビットをもつが、短辺中央のFG 128・FI 152の2ビットは短辺側柱より張り出して位置する。規模は長辺長7.0m、短辺長4.4m、張り出し部の軸長7.8mを計り、N-32°-Eの主(長)軸方位をもつ。8個全部のビットから柱痕が確認されている。

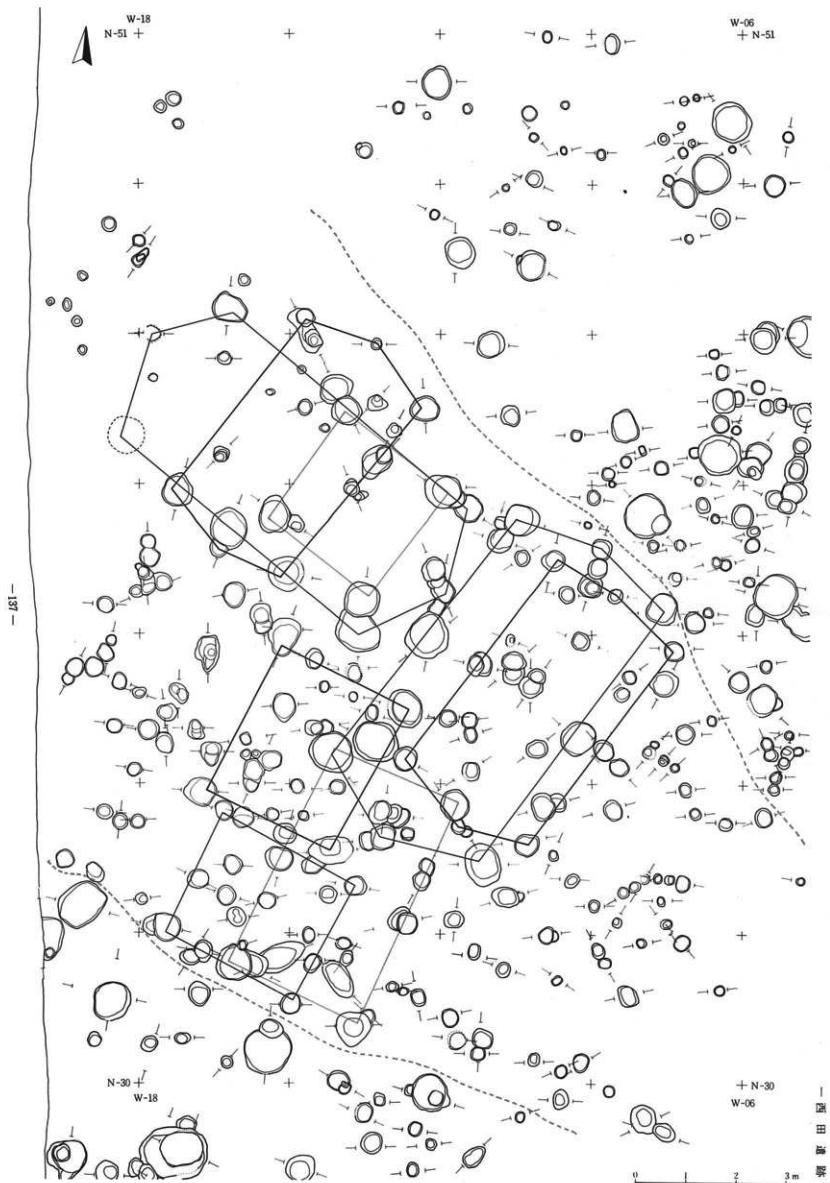
D₁-2号：FG 122・FH 128・FH 155・FH 091・FH 099・FI 123・FG 0910・FI 127の8個のビットで構成される。長短辺とも3個のビットをもつが、短辺中央のFG 0910・FI 127の2ビットは短辺側柱より張り出して位置する。規模は長辺長5.4m、短辺長3.4m、張り出し部の軸長5.9mを計り、N-32°-Eの主(長)軸方位をもつ。6個のビットのうち5個から柱痕が確認されている。

D₁-3号：FE 181・FF 157・FG 1212・FG 152・FG 1812・FE 183・FG 154の7個のビットが確認されているが、FF 21グリッド内の擾乱部分にもう1個のビットがあったものと推定される。長短辺とも3個のビットで構成されるが、短辺中央のFE 183・FG 154の2ビットは短辺側柱より張り出して配置される。規模は長辺長7.1m、短辺長4.2m、張り出し部の軸長8.2mを計り、N-58°-Wの主(長)軸方位をもつ。FE 183ビットを除くすべてのビットから柱痕が確認されている。

D₁-4号：FE 152・FF 181・FF 151・FF 153・FF 1815・FG 1811の6個のビットで構成される。長辺が2個、短辺が3個のビットをもつが、短辺中央のFF 153・FG 1811の2ビ



第49図 長方形柱穴配置圖 (C群)



第50圖 長方形柱穴列配置圖 (D群)

ットは短辺側柱より張り出して位置する。規模は長辺長 5.0 m、短辺長 3.5 m、張り出し部の軸長 5.5 m を計り、N-31°-E の主（長）軸方位をもつ。4 個のビットで柱痕が確認されている。

D₁-5 号：F F 158 ・ F G 1816 ・ F F 152 ・ F G 153 の 4 個のビットで構成される。長辺長 3.7 m、短辺長 3.3 m の長方形を呈し、N-33°-E の主（長）軸方位をもつ。F G 153 ビットを除く 3 ビットから柱痕が確認されている。

D₂-1 号：F I 182 ・ F J 182 ・ F I 127 ・ F I 1512 ・ F J 156 の 5 個のビットが確認されており、これらと対になるもう 1 個のビットは F H 153 ビット（D₁-1 号）によって破壊されたものと思われる。また、短辺中央の張り出し部のビットとして E H 155 ・ F J 188 の 2 ビットが加わる可能性をもつが、他の柱穴列とビットが共有されるため一応除外してある。規模は長辺長 5.5 m、短辺長 3.4 m の長方形を呈し、N-19°-E の主（長）軸方位をもつ。検出されたすべてのビットで柱痕が確認されている。

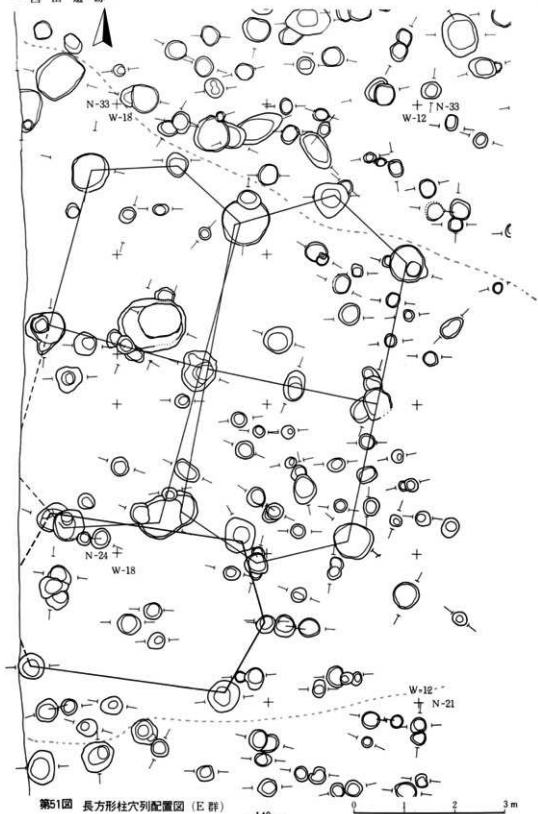
D₂-2 号：F H 1810 ・ F H 187 ・ F H 151 ・ F I 158 の 4 個のビットで構成される。長辺長 4.2 m、短辺長 3.4 m の長方形を呈し、N-22°-E の主（長）軸方位をもつ。2 個のビットで柱痕が確認されている。

D₂-3 号：F I 188 ・ F I 1810 ・ F I 1511 ・ F J 188 の 4 個のビットで構成される。長辺長 3.4 m、短辺長 3.1 m の長方形を呈し、N-66°-W の主（長）軸方位をもつ。3 個のビットで柱痕が確認されている。

小結：柱穴状ビット D 群内からは 8 単位の柱穴列が確認されている。軸方向の共通性からみれば、D₁-1 号から D₁-5 号までと D₂-1 号から D₂-3 号までとの間にはややずれがみられる。前者は N-31°-E から N-33°-E の間に軸方位をもち、後者は N-19°-E から N-24°-E の間に入る。各柱穴列の重複関係は次のようになる。平面的な関係からみれば、D₁-1 号、D₁-2 号、D₂-1 号、D₂-2 号の 4 単位、D₁-3 号、D₁-4 号、D₁-5 号の 3 単位、D₂-1 号、D₂-2 号、D₂-3 号の 3 単位がそれぞれ重複している。これらのうち、ビット相互間の切り合いがみられる D₁-1 号と D₂-1 号の新旧関係は D₁-1 号の方が新しく、D₁-3 号は D₁-5 号より旧くて D₁-4 号より新しい。また、種類の異なる遺構とも重複し、D₁-3 号、D₁-4 号、D₁-5 号の 3 単位は F E 18 住居跡によって破壊され、D₁-5 号は F G 157 フラスコ形ビットを切ってつくられる。D₂-2 号は F G 18 住居跡と重複するが、ビットの切り合いがみられず、新旧関係は不明である。D₂-1 号、D₂-3 号は F J 18 住居跡と重複し、双方とも住居跡に切られている。

〔柱穴状ビット E 群〕 約 100 個のビットが E 群に含まれ、このなかから 3 単位の柱穴列が確認されている。

E-1 号：F J 211 ・ G A 211 ・ F J 1810 ・ G A 182 ・ G B 187 の 5 個のビットと用地外に入るもう 1 個のビットからなる 6 個のビットが基本となり、短辺中軸線上に F J 184 ・ G A 185 ・



第51図 長方形柱穴配置図 (E群)

GB214の3個のビットが加わる総柱の構造物である。短辺中央のF J 184・GB 214の2ビットは短辺側柱より張り出して位置する。規模は長辺長7.1m、短辺長4.1m、張り出し部の軸長8.3mを計り、N-10°-Eの主(長)軸方位をもつ。8個のビットすべてから柱痕が検出されている。E-2号と重複し、それを切ってつくられる。

E-2号：F J 153・GA 152・GB 1515・GB 189・GA 188・F J 1810の6個と短辺中軸線上のF J 156・GA 1516・GC 182の3個とで構成される総柱状の構造物である。短辺中央のF J 156・GC 182の2ビットは短辺側柱から張り出して位置する。F J 1810・GA 182の2個のビットはE-1号のそれと重なり、当柱穴列に伴なう部分はほとんど遺存しない。また、F J 156ビットはD-6号と共有している。規模は長辺長6.5m、短辺長4.2m、張り出し部の軸長8.2mを計り、N-7°-Eの主(長)軸方位をもつ。ほぼ、完全に遺存する5個のビットのうち4個のビットから柱痕が確認されている。

E-3号：GB 186・GB 215・GC 189・GC 213の4個のビットに短辺中軸線上に乗るGC 184と用地外のもう1個のビットとが加わるものと思われ、本来は6個のビットで構成されるものと推定される。規模は長辺長が4.5m、短辺長が3.9mを計るが、張り出し部の軸長は不明である。主(長)軸方位はN-88°-Wとなり、3個のビットで柱痕が確認されている。

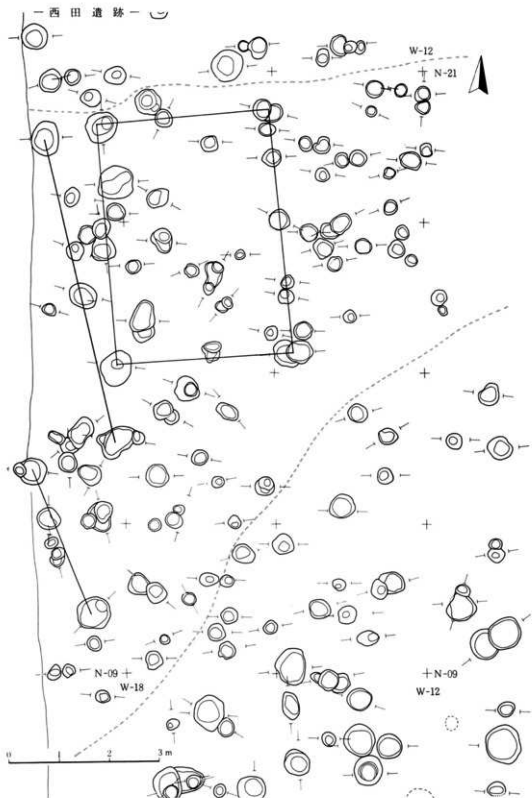
小結：柱穴状ビットE群では3単位の柱穴列が確認されており、それぞれの軸方向はN-2°-EからN-10°-Eの間に入る。重複関係からみれば、E-1号が一番新しくE-2号、E-3号を切っている。E-3号は平面的には重複するもののビットの切り合いがみられないため新旧関係は不明である。種類の異なる遺構との切り合いもみられ、E-1号、E-2号はF J 18住居跡および平安期のF I 21住居跡より旧く、GA 21住居跡より新しい。また、E-2号はGB 1516フラスコ形ビットを切っているがGB 15溝状土壌には切られている。

〔柱穴状ビットF群〕 F群内には約101個のビットが含まれ、このなかから3単位の柱穴列が確認されている。

F-1号：GD 215・GE 213・GE 215・GD 182・GD 188・GE 185の6個のビットで構成される。規模は長辺長5.6m、短辺長4.1mの長方形を呈し、N-14°-Wの主(長)軸方位をもつ。すべてのビットで柱痕が確認されている。

F-2号：GD 216・GE 214・GF 215の3個のビットで長辺の一边が構成されるもので、残りの最底3個のビットは用地外に入るものと思われる。また、棟持ち柱としてGF 2111ビットが加わる可能性をもつが断定できないため除外してある。長辺長が6.9mを計るほかは規模は不明であり、N-20°-Wの主(長)軸方位をもつ。2個のビットで柱痕が確認されている。

F-3号：GF 2110・GG 216の2個のビットだけが確認されており、柱穴列を構成する残りのビットは用地外に入る。規模・長軸方向とも不明であるが、2個のビットを結んだ軸方位はN



第52圖 長方形柱穴配置圖 (F 群) - 142 -

—27°—Wとなる。1個のピットに柱痕が確認されている。

小結：柱穴状ピットF群内からは4単位の柱穴列が確認されており、N—14°—EからN—27°—Eの間に軸方位をもつ。柱穴列相互の新旧関係はピットの切り合いがみられないため不明である。ただ、F—2号はGF21—1住居跡およびGF21—2住居跡によって切られ、F—3号はGF21—1住居跡によって切られている。

〔柱穴状ピットG群〕 G群内からは約183個のピットが検出されており、そのなかから9単位の柱穴列が確認されている。

G—1号：GH121・GI151・GI155・GI091・GI1211・GJ121の6ピットと短辺中軸線上に重なるGH091・GI126・GJ153の3ピットとを合わせた9個で構成される総柱状の構造物である。短辺中央のGH091・GJ153の2ピットは短辺側柱よりやや張り出して配置されている。規模は長辺長6.5m、短辺長4.1m、張り出し部の軸長7.3mを計り、N—34°—Eの主（長）軸方位をもつ。9個のピットのうち8個のピットで柱痕が確認されている。

G—2号：GG123・GH152・GI183・GH092・GI122・GJ151の6ピットと短辺中軸線上に乗るGG097・GH122・GI156の3ピットとを合わせた9個のピットで構成される総柱状の構造物である。短辺中央のGG097・GI156の2ピットは短辺側柱から張り出して配置される。規模は長辺長7.5m、短辺長4.3m、張り出し部の軸長8.8mを計り、N—40°—Eの主（長）軸方位をもつ。9個のピットのうち8個のピットから柱痕が確認されている。

G—3号：GG127・GH155・GH184・GH095・GH123・GI153・GG125・GI184の8個のピットで構成され、短辺中央に位置するGG125・GI184の2ピットは短辺側柱より張り出して配置されている。規模は長辺長6.3m、短辺長4.1m、張り出し部の軸長7.9mを計り、N—43°—Eの主（長）軸方位をもつ。8個のピットのうち6個で柱痕が確認されている。

G—4号：GH151・GI186・GI182・GH123・GI1510・GJ154の6個のピットで構成され、GH123ピットはG—3号と重複して使用されている。長辺長6.2m、短辺長3.6mの長方形を呈し、N—34°—Eの主（長）軸方位をもつ。3個のピットで柱痕が確認されている。

G—5号：GG158・GH155・GI123・GH187・GI1513・GJ123の6個と短辺中軸線上に乗るGH182・GI152・GJ122の3個とを合わせた9個のピットで構成される。短辺中央に位置するGH182・GJ122の2ピットは短辺側柱より張り出して配置されている。規模は長辺長8.3m、短辺長4.1m、張り出し部の軸長10.0mを計り、N—50°—Wの主（長）軸方位をもつ。6個のピットから柱痕が確認されている。

G—6号：GF151・GG124・GG183・GH153・GG181・GH127の6個のピットで構成され、短辺中央に位置するGG181・GH127の2ピットは短辺側柱より張り出して配置さ

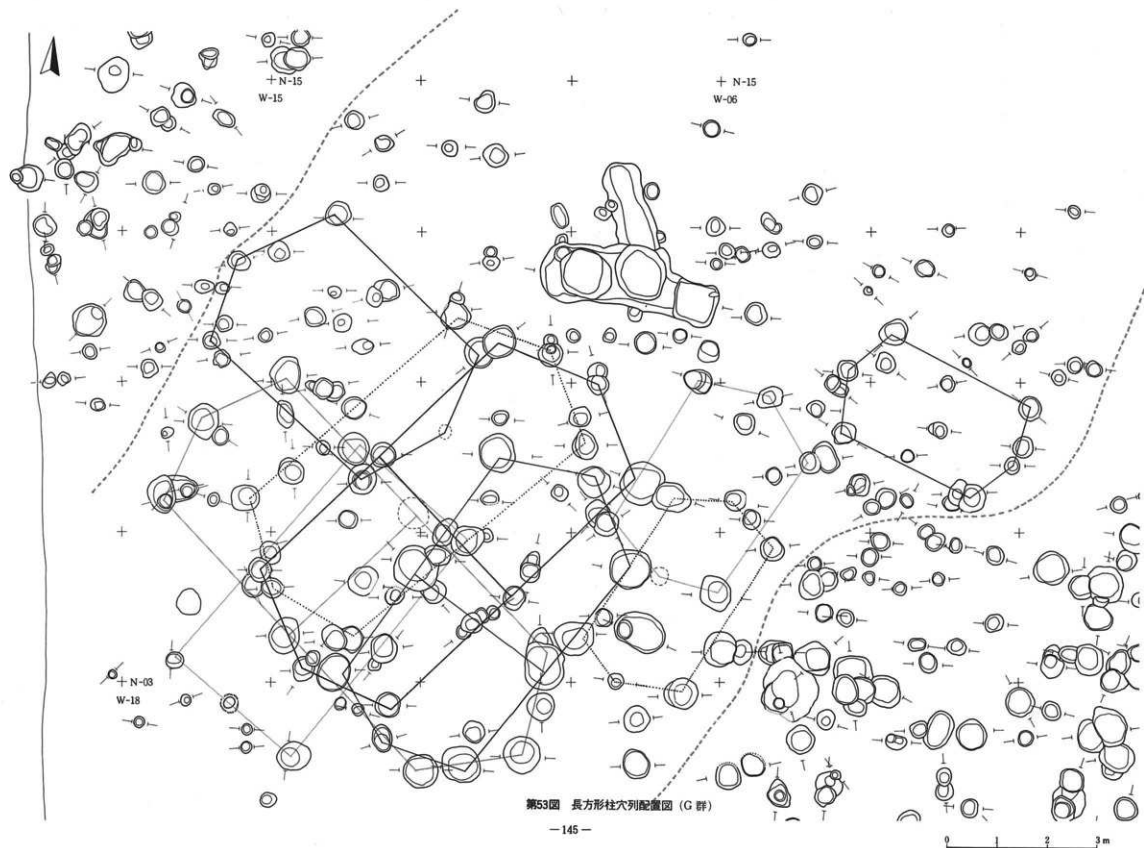
れている。規模は長辺長 4.6 m、短辺長 4.1 m、張り出し部の軸長 4.5 mを計り、N-52°-Wの主(長)軸方位をもつ。2個のビットで柱痕が確認されている。

G-7号: G G 094・G H 098・G H 062・G I 092・G H 067・G I 097の6個のビットで構成され、短辺中央のG H 067・G I 097の2ビットは短辺側柱より張り出して位置する。規模は長辺長 3.8 m、短辺長 3.3 m、張り出し部の軸長 4.5 mを計り、N-28°-Eの主(長)軸方位をもつ。2個のビットで柱痕が確認されている。

G-8号: G H 093・G I 1210・G I 0615・G J 091・G H 066・G I 095の6個のビットで構成され、短辺中央に位置するG H 066・G I 095の2ビットは短辺側柱より張り出して配置されている。規模は長辺長 4.1 m、短辺長 3.1 m、張り出し部の軸長 4.7 mを計り、N-27°-Eの主(長)軸方位をもつ。5個のビットで柱痕が確認されている。

G-9号: G G 035・G H 039・G H 0614・G H 032・G G 063・G H 037の6個のビットで構成され、短辺中央のG G 063・G H 037の2ビットは短辺側柱より張り出して配置されている。規模は長辺長 3.6 m、短辺長 2.7 m、張り出し部の軸長 4.2 mを計り、N-66°-Wの主(長)軸方位をもつ。2個のビットで柱痕が確認されている。

小結: 柱穴状ビットG群内からは9単位の柱穴列が確認されている。それらの軸方位はN-24°-EからN-43°-Eまでかなりの広がりをみせており、東側に位置するG-7からG-9号はH群に含まれる可能性をもつ。この3単位の柱穴列を除けばその軸方位はN-34°-EからN-43°-Eの間に入る。9単位の柱穴列の重複関係は次のようになる。平面的にみれば、G-1号はG-2号、G-3号、G-4号、G-5号、G-7号、G-8号と重複するが、ビット相互の切り合いがみられるものはG-5号との間だけでありG-5号を切ってつくられる。G-2号はG-1号、G-3号、G-4号、G-5号、G-6号、G-7号、G-8号と重複し、ビットの切り合いからG-6号より新しく、G-8号より古い。また、G-3号のGH 123ビットとも重複するが、GH 123ビットがG-4号に属す可能性をもつため新旧関係を明らかにできなかった。G-3号はG-1号、G-2号、G-4号、G-5号、G-6号と重複し、G-4号と1個のビットを共有するが新旧は不明である。G-4号はG-1号、G-2号、G-3号、G-5号、G-6号と重複するが、G-3号と1個のビットを共有するほかはビットの切り合いがみられない。G-5号はG-1号に切られるほか、G-2号、G-3号、G-4号、G-6号と平面的に重複する。G-6号はG-2号に切られるほか、G-3号、G-4号、G-5号と平面的に重複する。G-7号はG-2号、G-8号と重複するがビットの切り合いがみられないため新旧関係は不明である。G-8号はG-2号に切られるほか、G-1号、G-7号と重複する。そのほか、住居跡とも切り合いがみられ、G-2号がGH 18住居跡に、G-4号がGH 18住居跡とG I 15住居跡に上部を破壊されている。



第53図 長方形柱穴配置圖 (G群)

〔柱穴状ビットH群〕 H群内には約62個のビットが含まれ、このなかから3単位の柱穴列が確認されている。

H-1号: HA 063・HB 061・HA 032・HB 064・HA 061・HC 061の6個のビットで構成されるもので、短辺中央のHA 061・HC 061の2ビットは短辺側柱より張り出して配置される。規模は長辺長3.2m、短辺長3.0m、張り出し部の軸長4.9mを計り、N-9°-Eの主(長)軸方位をもつ。4個のビットで柱痕が確認されている。

H-2号: GI 068・GJ 061・GJ 032・HA 031・GJ 062・GJ 037の6個のビットで構成されるもので、長辺中央に位置するGJ 062・GJ 037の2ビットは長辺側柱より張り出して配置される。規模は長辺長3.6m、短辺長3.2m、張り出し部の軸長4.1mを計り、N-15°-Eの主(長)軸方位をもつ。5個のビットで柱痕が検出されている。

H-3号: GI 0611・GJ 065・GI 034・GJ 0310・GI 038・HA 062の6個のビットで構成されるもので、短辺中央に位置するGI 038・HA 062の2ビットは短辺側柱より張り出して配置される。規模は長辺長4.1m、短辺長3.0m、張り出し部の軸長6.2mを計り、N-9°-Eの主(長)軸方位をもつ。4個のビットで柱痕が確認されている。

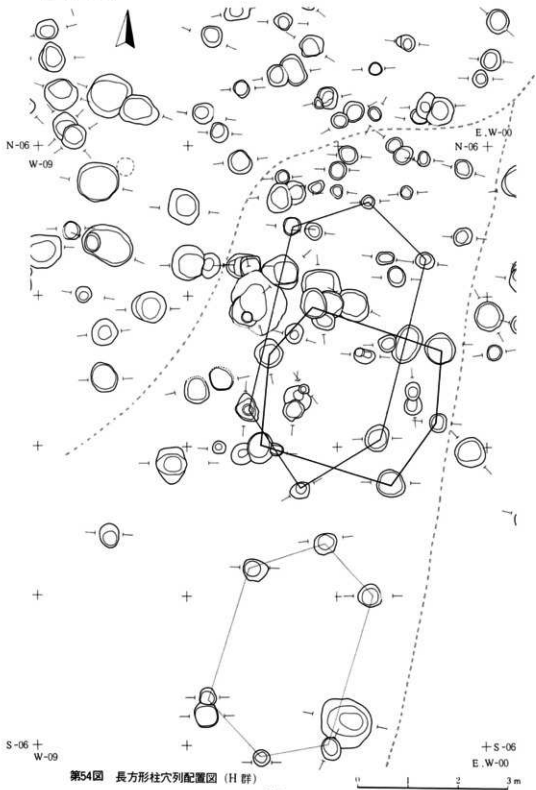
小結: 柱穴状ビットH群内からは3単位の柱穴列が確認されており、N-9°-EからN-15°-Eの間に軸方位をもつ。H-2号とH-3号とが平面的に重複するのみで、ビット相互の切り合いはみられない。

〔柱穴状ビットI群〕 I群内からは約108個のビットが検出されており、このなかから最底8単位の柱穴列を確認した。

I-1号: GI 5013・GJ 038・GJ 0311・GI 534・GJ 504・HA 507・GI 501・HA 501の8個のビットで構成されるもので、短辺中央に位置するGI 501・HA 501の2ビットは短辺側柱より張り出して配置される。規模は長辺長6.2m、短辺長3.6m、張り出し部の軸長6.7mを計り、N-4°-Eの主(長)軸方位をもつ。6個のビットで柱痕が確認されている。

I-2号: GI 505・GJ 508・HA 504・GI 5311・GJ 534・HA 538の6個と短辺中軸線上のGI 535・(GJ 507)・HB 502の2個とを合わせた8個のビットで構成されるもので、短辺中央の2ビットは短辺側柱より張り出して配置される。なお、長辺東側の3ビットはいずれもやや東側にずれて位置するGI 5312・GI 537・HA 537の3ビットと重複し、それを切っている。また、短辺南側の2ビットはやや南側にずれて位置するHA 505・HA 533の2ビットを切っつけられており、これらのビットと対になる短辺北側の2ビットはGI 504・GI 536の2ビットとなる可能性が高い。以上のことから、当柱穴列は3回の建替えが行われており、中軸線上の中央に位置するGJ 507ビットは、上部が焼土で覆われていることからみれば最後に建替えられた柱穴列の構成ビットには含まれない。第一次柱穴列が最も規模が大きく、長辺長7.6m、

— 西田遺跡 —



第54図 長方形柱穴配置図 (H群)

短辺長 4.6 m となり、第二次柱穴列が長辺長 6.5 m、短辺長 4.8 m、第三次柱穴列が長辺長 6.5 m、短辺長 4.6 m を計る。いずれも張り出し部の軸長は 8.0 m で、 $N-4^{\circ}-E$ の主(長)軸方位をもつ。第三次柱穴列の 8 ビットのうち 5 個のビットに柱痕が確認されている。

I-3 号: G J 502・G J 535・G J 561・HA 503・HA 532・HA 563・G J 506・G J 567 の 8 個のビットで構成されるもので、短辺中軸線上に乗る G J 506・G J 567 の 2 ビットは短辺側柱より張り出して位置する。規模は長辺長 7.1 m、短辺長 4.4 m、張り出し部の軸長 8.0 m を計り、 $N-85^{\circ}-E$ の主(長)軸方位をもつ。すべてのビットで柱痕が確認されている。

I-4 号: G I 502・G I 532・G I 561・G J 502・G J 535・G J 561 の 6 個と短辺中軸線上に張り出して位置する G I 504・G I 5610 の 2 個とを合わせた 6 個のビットで構成されるもので、長辺南側の 3 ビットは I-3 号の長辺北側の 3 ビットと重複しており、I-3 号によって破壊されている。規模は長辺長 6.6 m、短辺長 3.7 m、張り出し部の軸長 8.0 m を計り、 $N-85^{\circ}-E$ の主(長)軸方位をもつ。遺存する 5 個のビットのうち 3 個のビットで柱痕が確認されている。

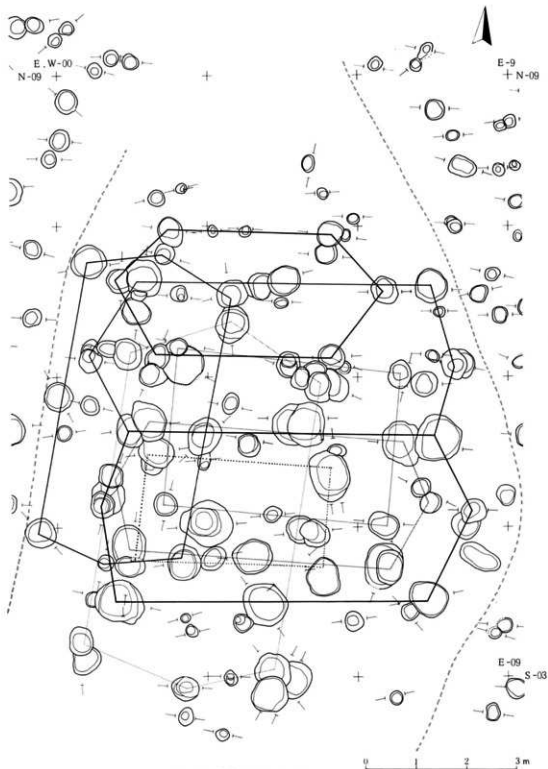
I-5 号: G J 501・G J 531・G J 562・HA 509・HA 535・HA 561・G J 505・G J 565 の 8 個のビットで構成されるもので、短辺中央の 2 ビットは短辺側柱より張り出して配置される。規模は長辺長 6.0 m、短辺長 3.4 m、張り出し部の軸長 6.9 m を計り、 $N-88^{\circ}-E$ の主(長)軸方位をもつ。8 個のビットのうち 6 個のビットで検出されている。

I-6 号: G I 5010・G I 537・G I 5611・G J 503・G J 533・G J 563 の 6 個のビットで構成される。長辺長 5.0 m、短辺長 3.6 m の長方形を呈し、 $N-89^{\circ}-E$ の主(長)軸方位をもつ。4 個のビットで柱痕が確認されている。

I-7 号: G H 503・G I 5310・G I 508・G I 536・G I 503・G I 562 の 6 個のビットで構成されるもので、短辺中央の 2 ビットは短辺側柱より張り出して配置される。規模は長辺長 3.9 m、短辺長 3.0 m、張り出し部の軸長 5.9 m を計り、 $N-84^{\circ}-E$ の主(長)軸方位をもつ。4 個のビットで柱痕が確認されている。

I-8 号: G J 509・G J 532・HA 502・HA 531 の 4 個のビットで構成される。規模は長辺長 4.0 m、短辺長 3.2 m を計り、 $N-86^{\circ}-E$ の主(長)軸方位をもつ。2 個のビットで柱痕が確認されている。

小結: 柱穴状ビット I 群内からは 8 単位の柱穴列が確認されており、それぞれの軸方位は $N-6^{\circ}-W$ から $N-4^{\circ}-E$ の間に入る。重複関係は以下ようになる。I-1 号はすべての柱穴列と平面的に重複するがビット相互の切り合いはみられない。I-2 号もすべての柱穴列と重複し、しかも計 3 回の建替えが認められるもので、前者の柱穴列は最終形である。いずれも I-3 号・I-5 号にはって切られており、第一次柱穴列は I-7 号と 1 個のビットを共有し、それよりも



第55図 長方形柱穴配置図 (I群)

旧い。I-3号はI-7号を除くすべての柱穴列と重複するが、ビット間の切り合いのみられるI-2号・I-4号・I-5号・I-7号の4単位の柱穴列を切っている。I-4号はI-8号を除く全柱穴列と平面的に重複し、3個のビットを共有するI-3号に切られている。I-5号はI-7号を除く全柱穴列と重複し、ビットの切り合いがみられるI-3号より旧く、I-2号、I-7号より新しい。I-6号はすべての柱穴列と平面的に重複するが、I-2号の第一次柱穴列とのみビットの切り合いがみられ、それよりも新しい。I-7号はI-3号・I-5号・I-8号を除く柱穴列と平面的に重複するもののI-2号の第一次柱穴列と1個のビットと共有する以外ビットの切り合いがみられず、それよりも新しい。I-8号はI-4号・I-7号を除く全柱穴列と平面的に重複し、ビット間の切り合いがらみてI-3号・I-5号の双方に破壊されている。

〔柱穴状ビットJ群〕 約168個のビットがJ群に含まれ、このなかから7単位の柱穴列が確認されている。

J-1号：GJ 625・GJ 652・GJ 682(未調査)・HA 625・HA 653・HA 681・HA 622の7個のビットが検出されている。短辺中央のHA 622ビットは短辺側柱より張り出して配置されており、もう1個の対になるビットは調査区外に入る。規模は長辺長6.1m、短辺長3.2mを計り、N-70°-Eの主(長)軸方位をもつ。5個のビットで柱痕が確認されている。

J-2号：GI 593・GJ 599・HA 624・GI 6211・GJ 628・HA 654・GI 622・HA 627の8個のビットで構成されるもので、短辺中央の2ビットは短辺側柱より張り出して配置される。規模は長辺長4.8m、短辺長3.8m、張り出し部の軸長6.6mを計り、N-10°-Eの主(長)軸方位をもつ。4個のビットで柱痕が確認されている。

J-3号：GI 599・GI 592・GI 624・GJ 593・GJ 591・GJ 627の6個のビットで構成される。長辺長4.8m、短辺長2.9mの長方形を呈し、N-75°-E(長)軸方位をもつ。GI 624ビットを除くすべてのビットで柱痕が確認されている。

J-4号：GH 626・GI 625・GI 621・GG 656・GH 6510・GI 656の6個のビットで構成される。長辺長6.3m、短辺長3.7mの長方形を呈し、N-18°-Wの主(長)軸方位をもつ。5個のビットで柱痕が確認されている。

J-5号：GI 594・GJ 598・GI 629・GJ 626・GJ 596・GJ 653の6個のビットで構成されるもので、短辺中央の2ビットは短辺側柱より張り出して配置される。長辺長4.4m、短辺長3.6m、張り出し部の軸長6.2mを計り、N-76°-Eの主(長)軸方位をもつ。3個のビットで柱痕が検出されている。

J-6号：GH 598・GI 591・GH 624・GI 628・GI 5910・GH 627の6個のビットで構成されるもので、短辺中央の2ビットは短辺側柱より張り出して配置される。長辺長2.9m、

短辺長 2.6 m、張り出し部の軸長 3.1 m を計り、N-74°-E の主(長)軸方位をもつ。3 個のビットで柱痕が確認されている。

J-7号：GH6511・GH658・GJ651 の3個と短辺中軸線上に張り出して位置するGI654 ビットとを合わせた4個のビットしか確認されておらず、柱穴列を構成する残りの最底4個のビットは用地外に入る。規模は短辺長が4.1 mを計るほかは不明で、N-69°-Eの主(長)軸方位をもつ。2個のビットで柱痕が確認されている。

小结：柱穴状ビットJ群内からは7単位の柱穴列が確認されている。これらの柱穴列の軸方向はN-69°-EからN-80°-Eの間に入る。J-7号はJ群以外のものとなる可能性をもつが一応ここに一括した。重複関係は次のようになっている。J-1号は平面的にはJ-2号・J-5号と重複するが、ビット間の切り合いはみられない。J-2号はJ-6号とJ-7号を除く全住居跡と重複し、ビットの切り合いをもつJ-5号よりは新しい。J-3号はJ-1号・J-7号を除く全柱穴列と平面的に重複するがビット相互の切り合いは認められない。J-4号はJ-1号以外の柱穴列と重複し、J-7号を切っている。J-5号はJ-6号・J-7号以外のすべての柱穴列と平面的に重複するが、ビット相互の切り合いはJ-2号との間のみみられ、それより古い。J-6号はJ-3号・J-4号の2単位と重複するもののビットの切り合いはみられない。J-7号はJ-4号と重複し、それより古い。

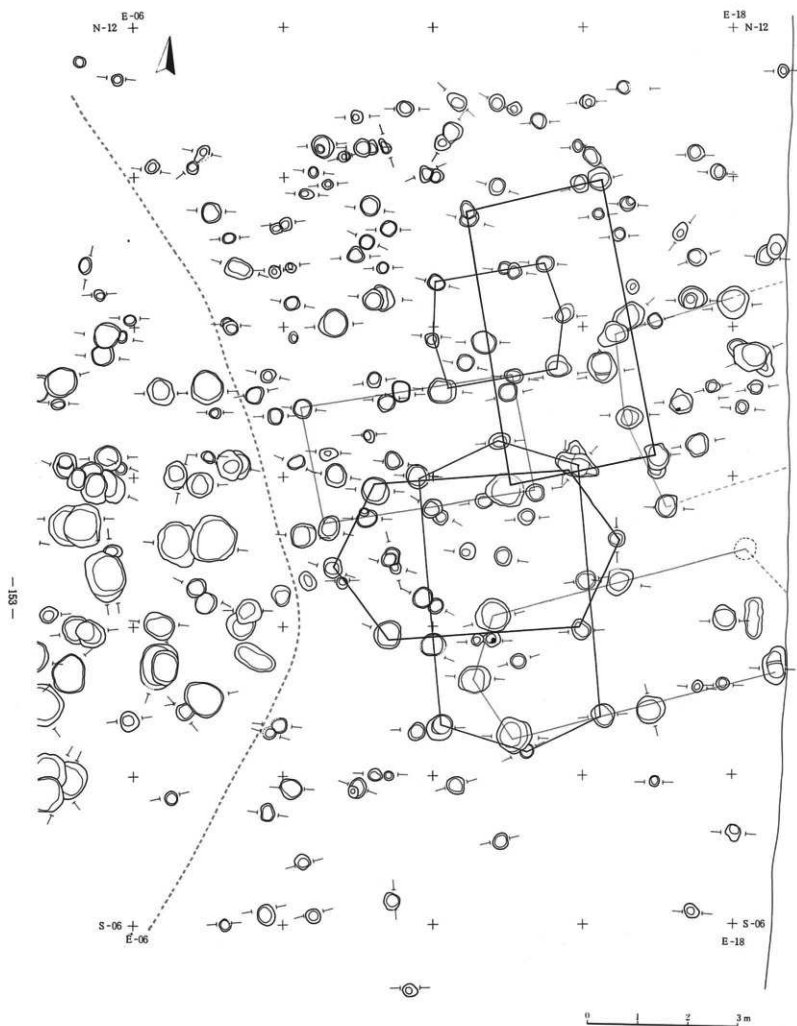
以上、環状ビット群を10群に大別し、そのなかから確認された柱穴列の概要を記述した。その数は53単位に及ぶが、これらのなかには柱穴列の単位構成や「群」の区分などに不明瞭な部分がかかなりあるものと思われる。そこで、個々のビットの断面図はすべて掲載し、その規模も第6表に一括してある。

〔住居域におけるビット群〕 なお、環状ビット群の外側には一定の空白地帯をもって住居跡群が確認されており、この居住区の北端に上記の掘立柱状柱穴列と同様の構造物が若干検出されている。ここでは、明らかに住居跡の柱穴列と区別されうるものに限定してその内容を略述する。

h-1号：HC092・HD061・HD092・HD065の4個のビットで構成される。長辺長3.8 m、短辺長2.7 mの長方形を呈し、N-85°-Eの主(長)軸方位をもつ。3個のビットから柱痕が確認されている。

h-2号：HD504・HC531・HD501・HD532・HD502・HD531の6個のビットで構成されるもので、短辺中央のHD502・HD531の2ビットは短辺側往より張り出して配置される。規模は長辺長3.1 m、短辺長2.9 m、張り出し部の軸長4.1 mを計り、N-74°-Eの主(長)軸方位をもつ。4個のビットで柱痕が確認されている。

h-3号：HD561・HD591・HD622・HF565・HF591・HF622の6個と短辺中軸線上に位置するHE533・HE591・HE624の3個とを合わせた9個のビットで構成される総



第56図 長方形柱穴列配置圖 (J群)

柱状の構造物である。短辺中央の2ピットは短辺側柱より張り出して配置される。規模は長辺長7.9 m、短辺長5.4 m、張り出し部の軸長9.1 mを計り、N-90°-Eの主(長)軸方位をもつ。

以上の3単位の柱穴列は、軸方位にかなりのばらつきがみられ、北側環状ピット群における柱穴列の軸方位の共通性からみれば、それらと直接対応するものとは言えない。また、このほかに若干の柱穴列が存在するものと思われるが確認に欠けるため除外してある。住居域における柱穴状ピットの断面図も一応作成してあるのでそちらを参照されたい。

第5表 堀立柱状柱穴列一覧表

	タイプ	ピ ッ ト		長辺長(m)	短辺長(m)	張り出し部軸長(m)	長軸方向	新旧関係 (新<旧、旧>新)
		本数	ピ ッ ト 名					
A-1	I	4	FE621・FE651・FF590・FF621	3.5	3.5		N-77°-W	
2	V	9	FF569・FF599・FF622・FF562・FG622・FG561・FG563・FG623・FG592	6.3	3.8	7.2	N-78°-W	
3	■	6	FF563・FF597・FG621・FG562・FG5615・FH596	5.4	3.2		N-74°-W	
4	■(?)	4+14	FF681・FG655・FG651・FH681	5.0	不明	不明	N-12°-E	
B-1	■	6	FE501・FE531・FE564・FF501・FF531・FF566	6.1	3.0		N-84°-E	<FE561 フラコピット
2	■	6	FD036・FD531・FD562・FF6310・FE532・FE563	7.8	4.1		N-77°-E	
3	■	6	FE503・FE5314・FF504・FF508・FF536・FF536	3.6	2.8	4.6	N-82°-E	
4	IV	8	FE504・FF504・FG502・FE537・FF539・FG531・FE502・FG534	5.2	3.9	5.6	N-14°-W	
C-1	I	4	FF096・FG066・FG032・FF0614	5.0	4.0		N-59°-E	? FE062 フラコピット、>C-3
2	VI	8	FG091・FF066・FF0611・FF031・FH063・FH061・FG036・FG502	8.5	5.2		N-57°-E	
3	■	6	FF092・FG062・FG0610・FF0617・FF063・FG033	5.3	3.0		N-36°-W	<C-1
4	■(?)	5+11	FE127・FF094・FD093・FF061・FF0913	4.2	3.8		*	? FE121 フラコピット
D ₁ -1	IV	8	FG121・FG151・FH153・FG094・FH123・F1129・FG093・F1152	7.0	4.4	7.8	N-32°-E	<D-6
2	IV	8	FG122・FH136・FH155・FH091・FH099・F1123・FG093・F1127	5.4	3.4	5.9	*	
3	IV	7+11	FE181・FF157・FG1212・FG152・FG1812・FE183・FG154	7.1	4.2	8.2	N-58°-W	>D-5、<D-4、>FE18 住居跡
4	■	6	FE152・FF181・FF151・FG1815・FF153・FG1811	5.0	3.5	5.5	N-31°-E	>D-3、>D-5、>FE18 住居跡
5	I	4	FF196・FG1816・FF152・FG153	3.7	3.3		N-33°-E	<D-3、<D-4、>FE18 住居跡 <FG157 フラコピット
D ₂ -1	■(?)	5+11	F1182・F1182・F1127・F11512・FJ156	5.5	3.4		N-19°-E	>D-1、>FJ18 住居跡
D ₂ -2	I	4	FH1810・FH187・FH151・F1156	4.2	3.4		N-22°-E	? FG18 住居跡
D ₂ -3	I	4	F1186・F11810・F11511・FJ188	3.4	3.1		N-65°-W	>FJ18 住居跡
E-1	V	8+11	FJ211・GA211・FJ1810・GA182・GB187・FJ184・GA186・GB214	7.1	4.1	8.3	N-10°-E	<E-2、<E-3、>FJ18 住居跡 >FJ21 住居跡、GA21 住居跡

一 西田 遺 跡 一

	タイプ	本数	名 称				長辺 長(m)	短辺 長(m)	傾斜 長(m)	長軸方向	新 旧 関 係 (新<旧, 旧>新)
			名 称								
E-2	V	9	F1153-GA152-GB1515-GB180-GA186-FJ1810-GB186-GA215-GC180-GC213-GC184				6.5	4.2	8.2	N-7°-E	>E-1, 7E-3, >FJ1810, >F1213 往東, <GA215往東, <GB1515? >A 3E>1, >GC155或以上
	■	5+1	GB186-GA215-GC180-GC213-GC184				4.5	3.9	不明	N-88°-W	>E-1, 7E-2
F-1	■	6	GD215-GE213-GE215-GD182-GD186-GE185				5.6	4.1		N-14°-W	
	■ or Ⅲ	3+3	GD215-GE214-GF215				6.9	不明	不明	N-20°-W	>GF21-1往東, >GF21-2往東
	■	2	GF210+GG216				不明	-		N-27°-W	>GF21-1往東
G-1	V	9	GH121-G1151-G1155-G1191-G11211-GJ121-GH091-G1126-GJ153				6.5	4.1	7.3	N-34°-E	<G-5
	V	9	GG123-GH152-G1183-GH092-G1122-GJ151-GG091-GH122-G1156				7.5	4.3	8.8	N-40°-E	<G-6, >G-8, >GH18往東
	■	8	GC127-GH155-GH184-GH095-GH123-G1153-GG125-G1184				6.3	4.1	7.9	N-43°-E	
	■	6	GH131-G1186-G1182-GH123-G11510-GJ154				6.2	3.6		N-34°-E	>GH18往東, >G115E往東
	V	9	GG198-GH135(未調査)-G1123-GH197-G11513-GJ123-GH182-G1152-GJ122				8.3	4.1	10.0	N-50°-W	>G-1
	■	6	GF131-GG124-GC183-GH153-GG181-GH127				4.6	4.1	5.8	N-32°-W (38°)	>G-2
	■	6	GG094-GH098-GH062-G1102-GH067-G1107				3.8	3.3	4.5	N-28°-E	
	■	6	GH083-G11210-G11015-GJ091-GH086-G11095				4.1	3.1	4.7	N-27°-E	>G-2
	■	6	GG035-GH039-GH064-GH032-GG063-GH037				3.6	2.7	4.2	N-66°-W	
H-1	■	6	HA063-HB061-HA032-HB064-HA061-HC061				3.2	3.0	4.9	N-9°-E	
	■	6	G11068-GJ061-GJ032-HA031-GJ062-GJ037				3.6	3.2	4.1	N-15°-E	
	■	6	G110611-GJ065-GJ034-GJ0310-G11038-HA062				4.1	3.0	6.2	N-9°-E	
I-1	Ⅲ	8	G15013-GJ038-GJ0311-GJ534-GJ504-HA507-G1501-HA501				6.2	3.6	6.7	N-4°-E	
	Ⅲ	8	G1505-GJ508-HA504-G15311-GJ534-HA536-G1535-GJ507-HB502				6.5	4.6	8.0	-	>I-3, >I-5
	V	9	G1505-GJ508-HA504-G15312-GJ537-HA537-G1535-GJ507-HB502				6.5	4.8	8.0	-	
	V	9	G1504-GJ508-HA505-G1536-GJ534-HA533-GJ507-HB502				7.6	4.6	8.0	-	>I-7
	Ⅲ	8	GJ502-GJ535-GJ561-HA503-HA532-HA563-GJ506-GJ567				7.1	4.4	8.0	N-85°-E	<I-2, <I-4, <I-5, <I-7
	Ⅲ	8	G1502-GJ532-G1561-GJ502-GJ535-GJ561-G15014-G15610				6.6	3.7	8.0	-	>I-3
	Ⅲ	8	GJ501-GJ531-GJ562-HA509-HA535-HA561-GJ505-GJ565				6.0	3.4	6.9	N-88°-E	>I-3, <I-5, <I-7
	■	6	G15013-GJ537-G15611-GJ503-GJ533-GJ563				5.0	3.6		N-89°-E	<I-2の①
	■	6	GH503-G15310-G1508-G1536-G1503-G1562				3.9	3.0	5.9	N-84°-E	<I-2の①
	I	4	GJ509-GJ532-HA502-HA531				4.0	3.2		N-86°-E	>I-4, >I-5
J-1	Ⅲ	7+1	GJ625-GJ682-GJ682(未調査)-HA625-HA653-HA681-HA622				6.1	3.2		N-70°-E	
	Ⅲ	8	G1503-GJ599-HA624-G1627-GJ628-HA654-G1622-HA627				5.6	3.8	6.8	N-10°-W	<J-5
	■	6	G1599-G1592-G1624-GJ593-GJ591-GJ627				4.8	2.9		N-75°-E	
	■	6	GH626-G1625-G1621-GG656-GH6510-G1656				6.3	3.7		N-18°-W	<J-7

	タイプ	ビ ャ ッ ト			長辺長(m)	短辺長(m)	傾斜出し距離長(m)	長軸方向	新旧関係 (新<旧、旧>新)
		本数	ビ ャ ッ ト 名						
J-5	Ⅱ	6	G1504・G1506・G1629・G1626・G1506・G1653		4.4	3.6	6.2	N-76°-E	>J-2
6	Ⅱ	6	GH506・G1501・GH624・G1626・G1501・GH627		2.9	2.6	3.1	N-74°-E	
7	Ⅱ	4+14	GH6511・GH658・G1651・G1654		不明	4.1	不明	N-69°-E	>J-4
h-1	I	4	HC092・HD061・HD065・HD092		3.8	2.7		N-85°-E	
2	Ⅱ	6	HD504・HC531・HD501・HD532・HD502・HD531		3.1	2.9	4.1	N-74°-E	
3	V	9	HD561・HD591・HD622・HF565・HF501・HF622・HE533・HE501・HE624		7.9	5.4	9.1	N-90°-E	

土層注記表

(I) 土色

土層	基本土	黄 褐 色			暗 褐 色		褐 に ぶ い 黄 褐色			黄 明 黄 褐色		
		10Y R 2.2	10Y R 2.3	10Y R 3.2	10Y R 3.3	10Y R 3.4	10Y R 4.3 10Y R 4.4	10Y R 4.6	10Y R 5.3 10Y R 5.4	10Y R 5.6	10Y R 5.8	10Y R 6.6 10Y R 6.8
黒 褐色	極少 (1~4%)				40	53	66	79	92	105	118	131
	小 (5~10%)	1	14	27	41	54	67	80	93	106	119	132
	中 (11~25%)				42	55	68	81	94	107	120	133
	多 (26~49%)				43	56	69	82	95	108	121	134
暗 褐色	極少	2	15	28	44	57	70	83	96	109	122	135
	小	3	16	29								
	中	4	17	30								
	多	5	18	31								
褐 に ぶ い 黄 褐色	極少	6	19	32	45	58	74	87	100	113	126	139
	小	7	20	33	46	59						
	中	8	21	34	47	60						
	多	9	22	35	48	61						
黄 明 黄 褐色	極少	10	23	36	49	62	75	88	101	117	130	143
	小	11	24	37	50	63	76	89	102			
	中	12	25	38	51	64	77	90	103			
	多	13	26	39	52	65	78	91	104			

(II) 土性

- シルト質壤土: SIL —a
- シルト質粘壤土: SiCL —b
- シルト質粘土: SiC —c
- 砂 壤 土: SL —d
- 砂 質 粘 壤 土: SCL —e
- 砂 質 粘 土: SC —f
- 砂 土: S —g
- 重 粘 土: HC —h

(III) しまり

- 密(Tight) —T
- やや密 —T'
- 中(Middle) —M
- やや疎 —C'
- 疎(Coarse) —C

(IV) 堆積土の状況

- 粒状(極小粒状)堆積土 —P
- 粒状(小・中・大粒状)堆積土 —G
- 塊状(ブロック状)堆積土 —A
- 境界土 —P owdary soil
- 粗粒土 —G ranular soil
- 塊状土 —A ngular soil

(V) 炭人物

- 焼土(Baked soil) —B
- 木炭(Charcoal) —C
- その他
- 無し
- 微量 —1
- 少量 —2
- 普通 —3
- 多量 —4

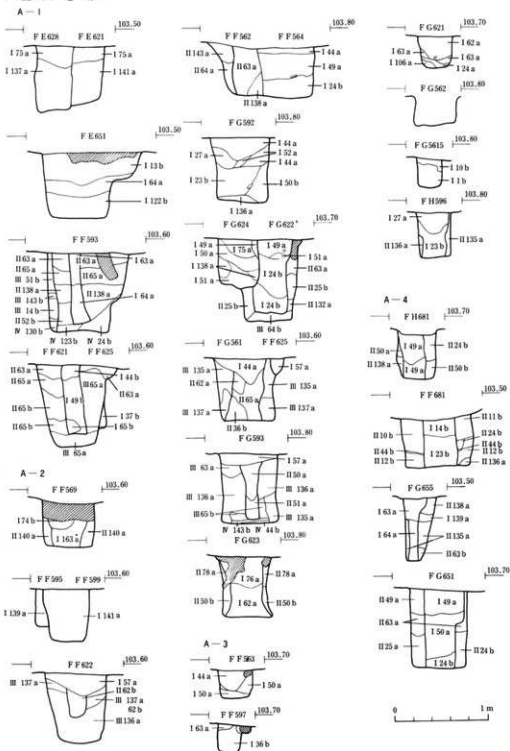
(VI) 堆積の形成

- 自然堆積: Natural accumulation —N
- 人為堆積: Artificial accumulation —A

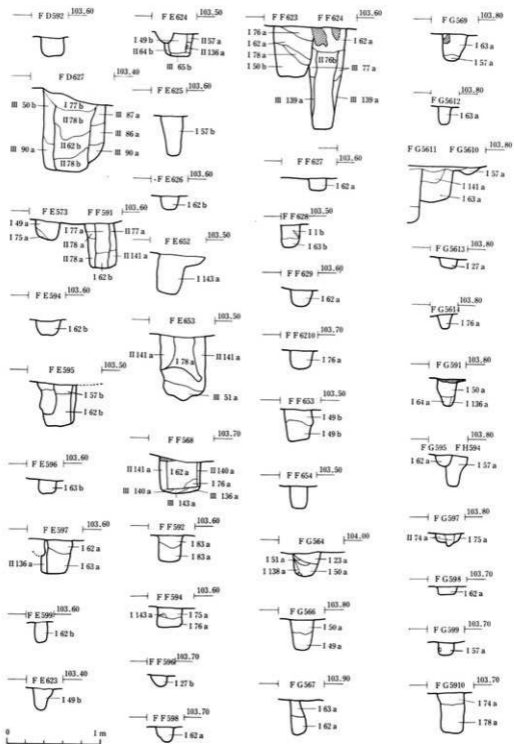
注 第57~101図の土層注記は、スペースの関係で層位・土色・土性の3つの基準のみを表示した。

** (層位) (土色) (土性)

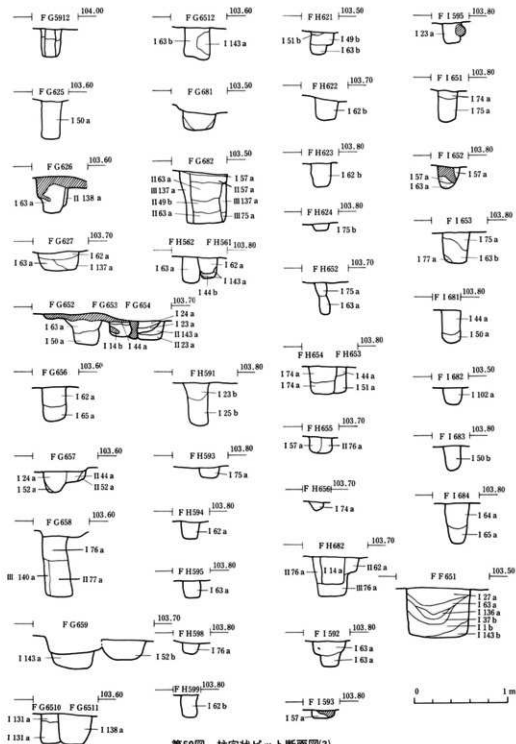
一 西田遺跡 —



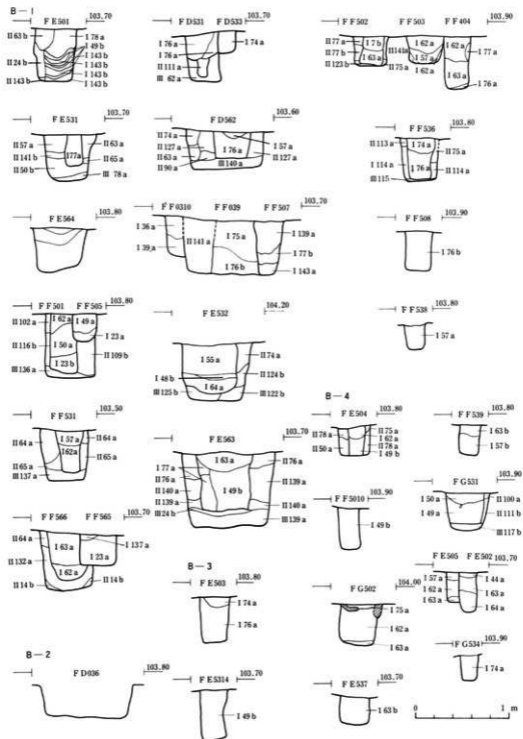
第57図 柱穴状ピット断面図(1)



第58図 柱穴状ビット断面図(2)

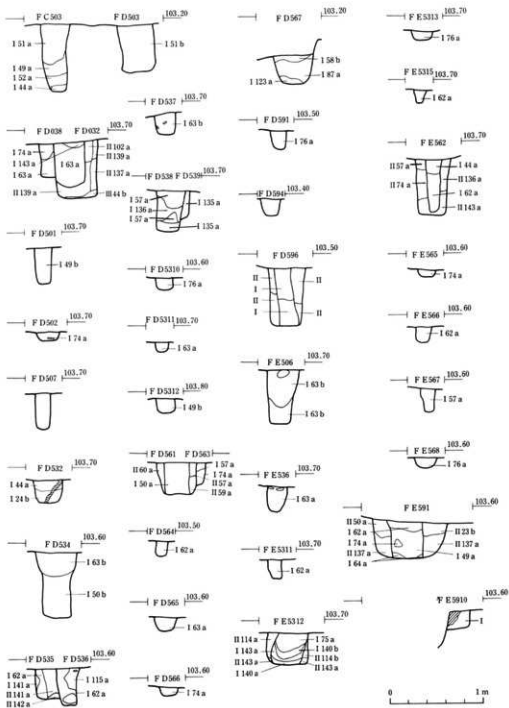


第59図 柱穴状ピット断面図(3)

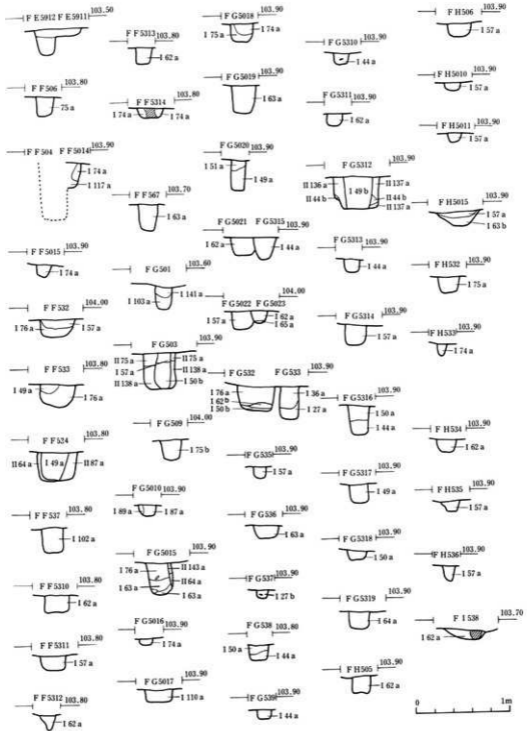


第60図 柱穴状ピット断面図(4)

— 西田遺跡 —



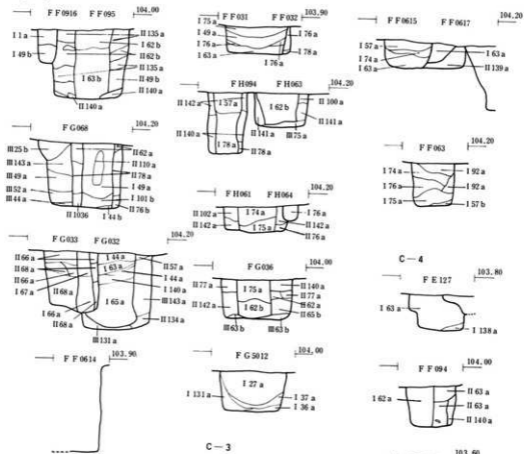
第61図 柱穴状ピット断面図(5)



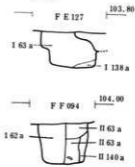
第62図 柱穴状ビット断面図(6)

— 西田遺跡 —

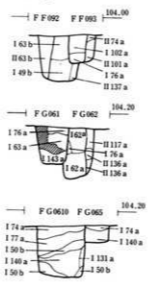
C-1



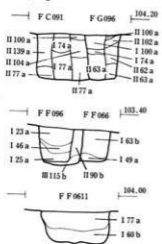
C-4



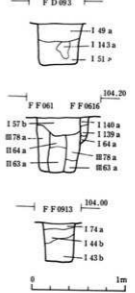
C-3



C-2

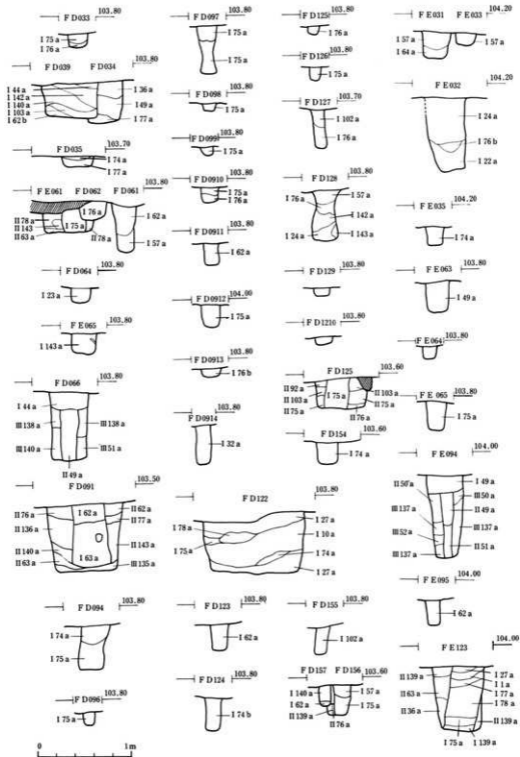


FD 093



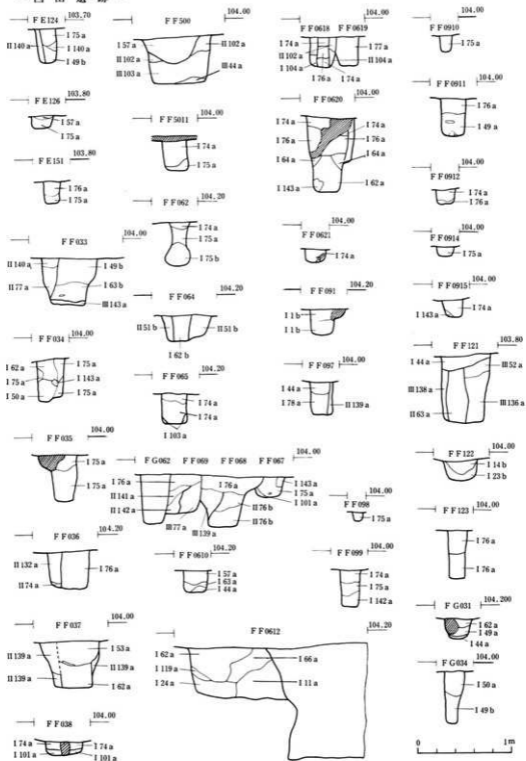
第63図 柱穴状ピット断面図(7)



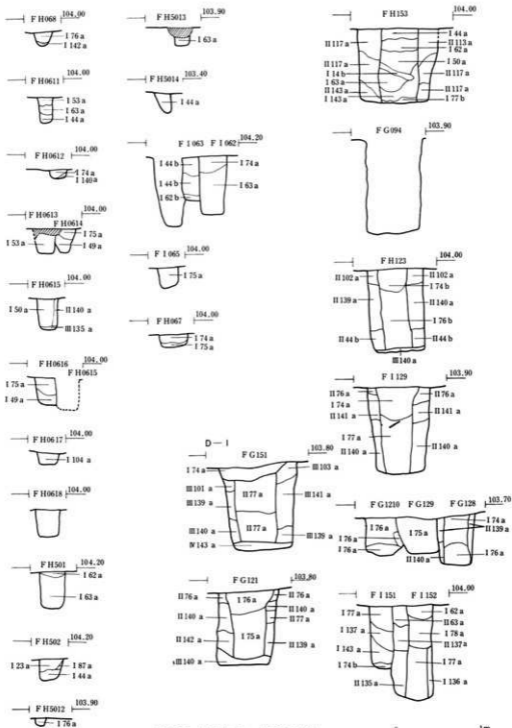


第64図 柱穴状ピット断面図(8)

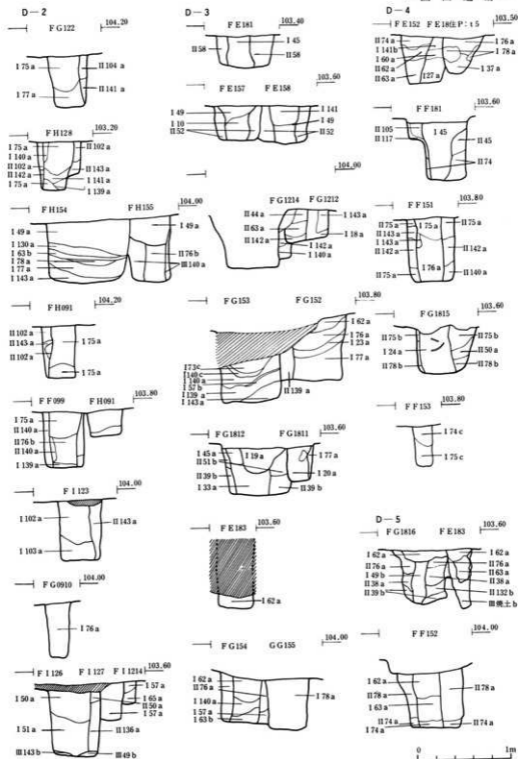
— 西田遺跡 —



第65図 柱穴状ピット断面図(9)

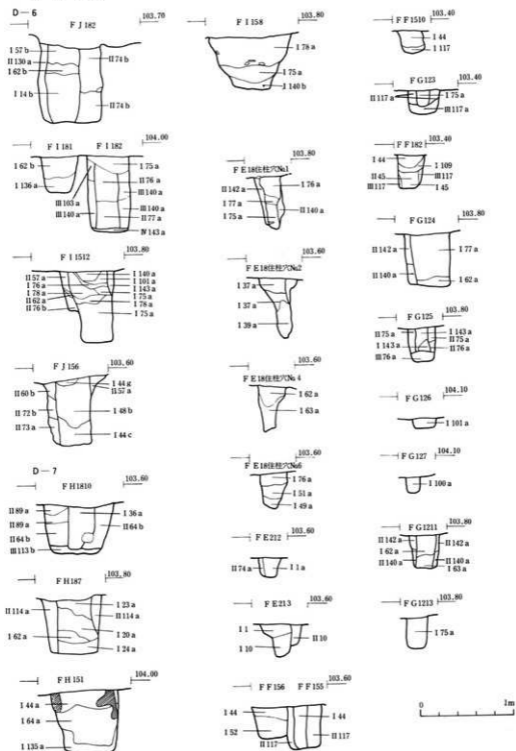


第67図 柱穴状ビット断面図(II)

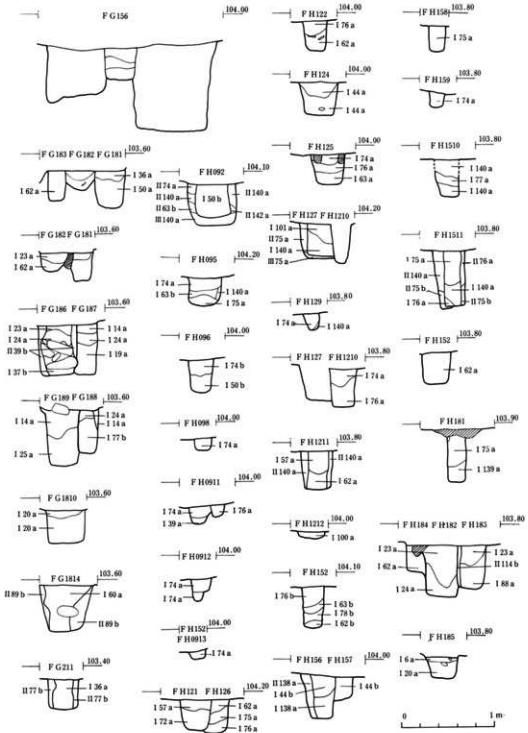


第68図 柱穴状ビット断面図

— 西田遺跡 —

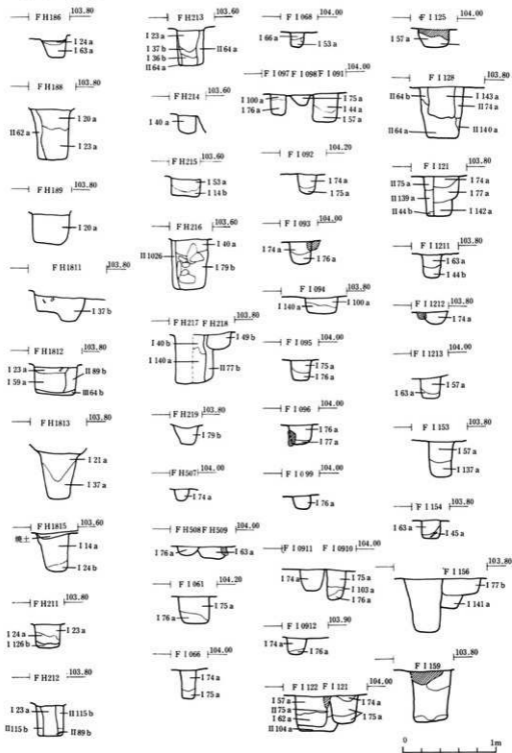


第69図 柱穴状ピット断面図(1)

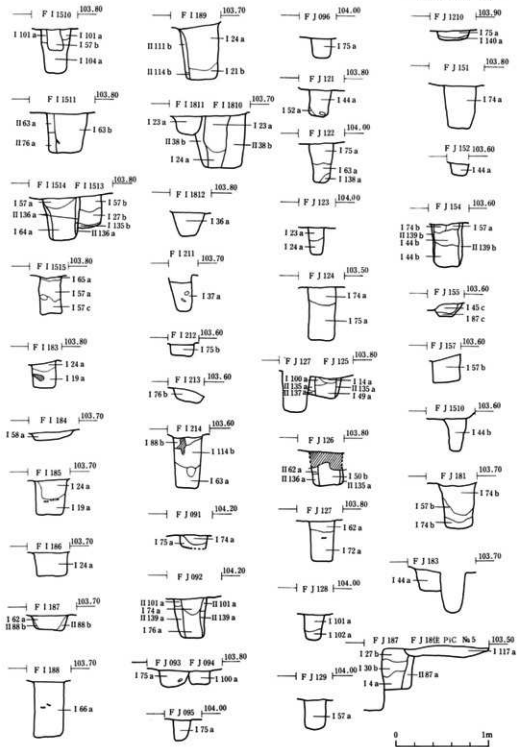


第70図 柱穴状ビット断面図(14)

— 西田遺跡 —

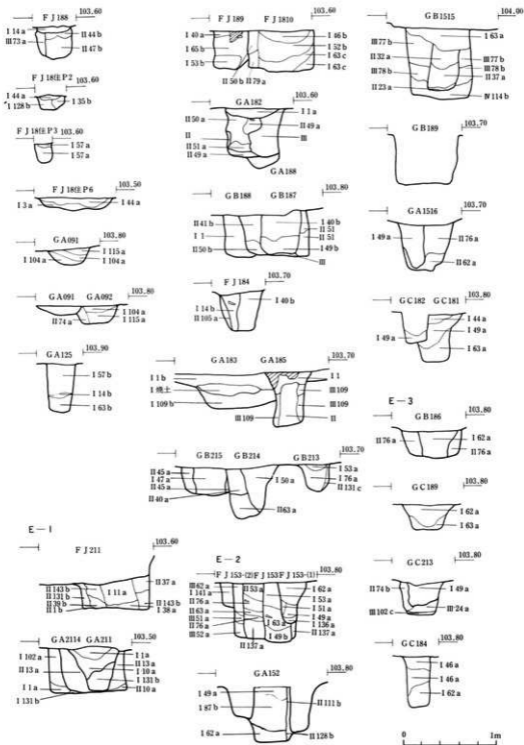


第71図 柱穴状ピット断面図(15)

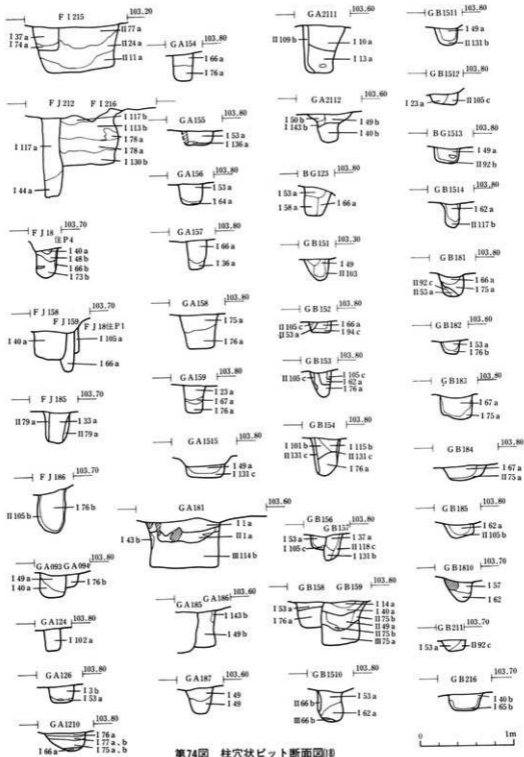


第72図 柱穴状ビット断面図(10)

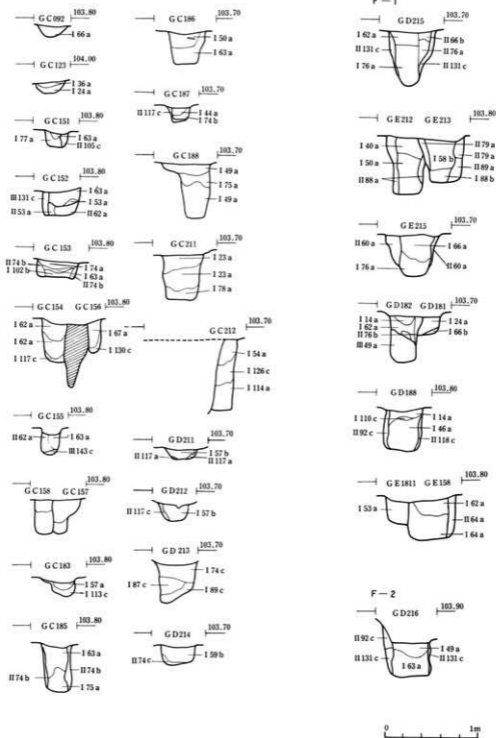
— 西田遺跡 —



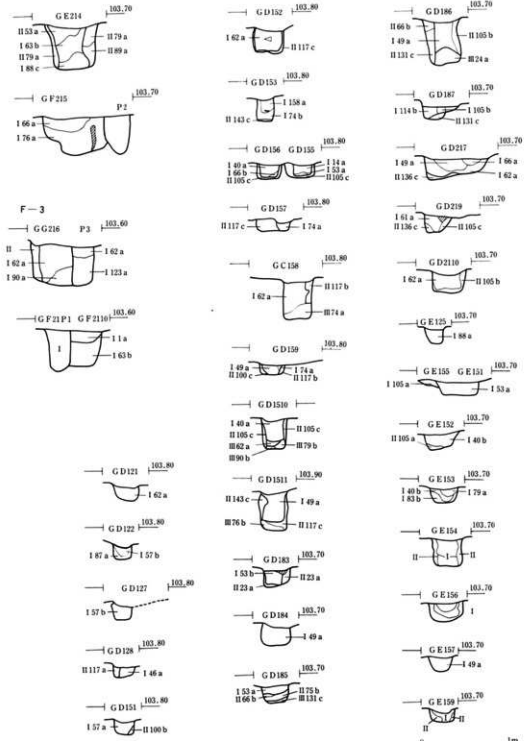
第73図 柱穴状ピット断面図(7)



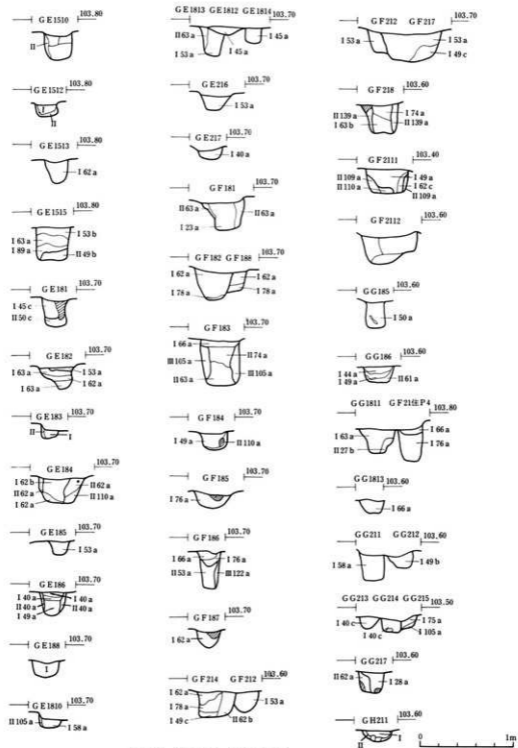
第74図 柱穴状ビット断面図⑩



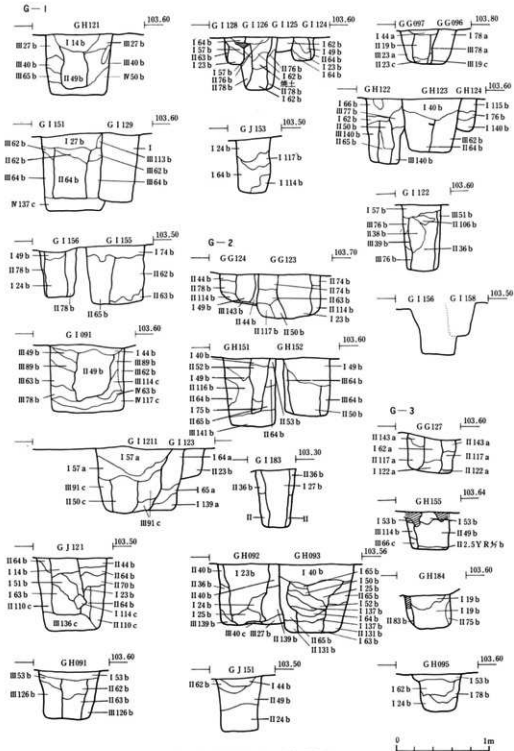
第75図 柱穴状ビット断面図(9)



第76図 柱穴状ビット断面図(20)

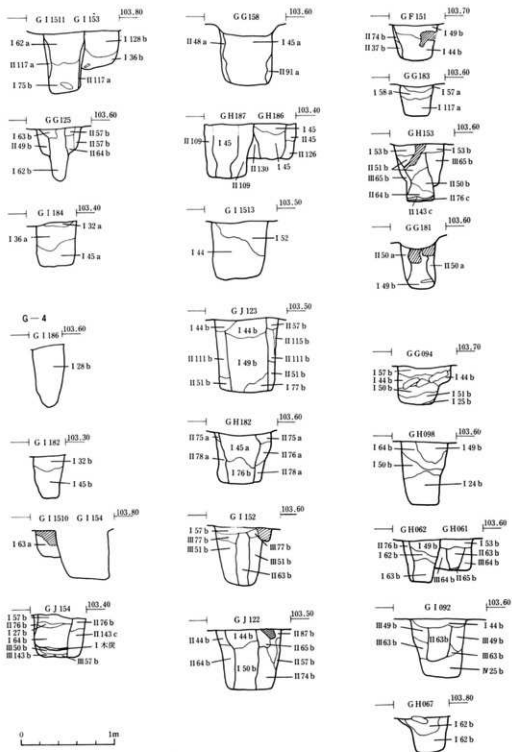


第77図 柱穴状ビット断面図(7)

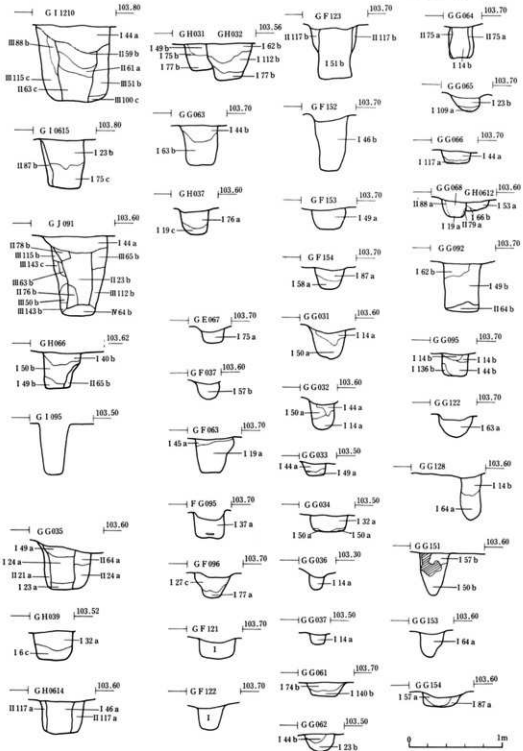


第78図 柱穴状ビット断面図(2)

— 西田遺跡 —

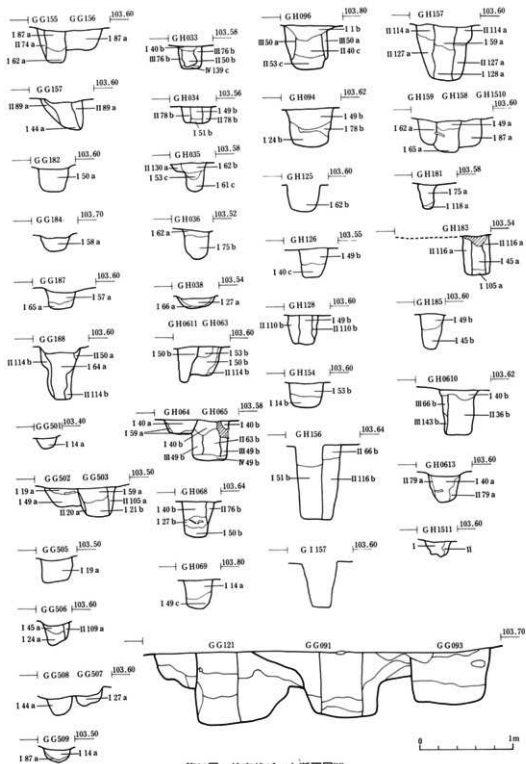


第79図 柱穴状ピット断面図(2)

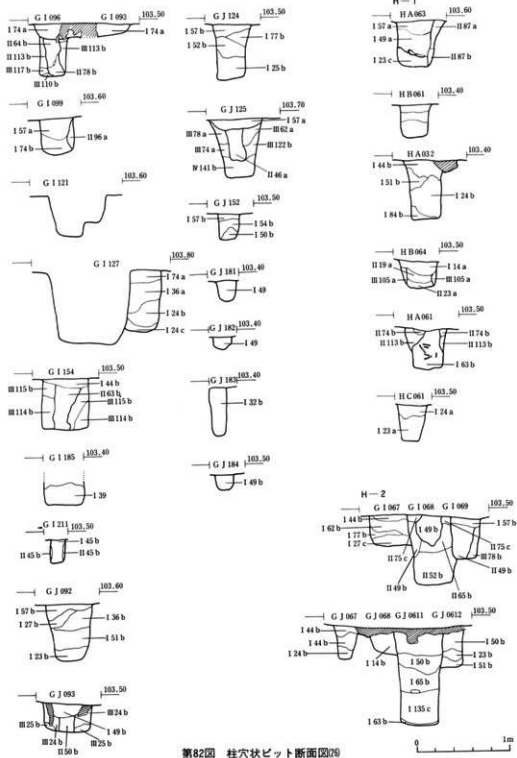


第80図 柱穴状ビット断面図(24)

— 西田遺跡 —

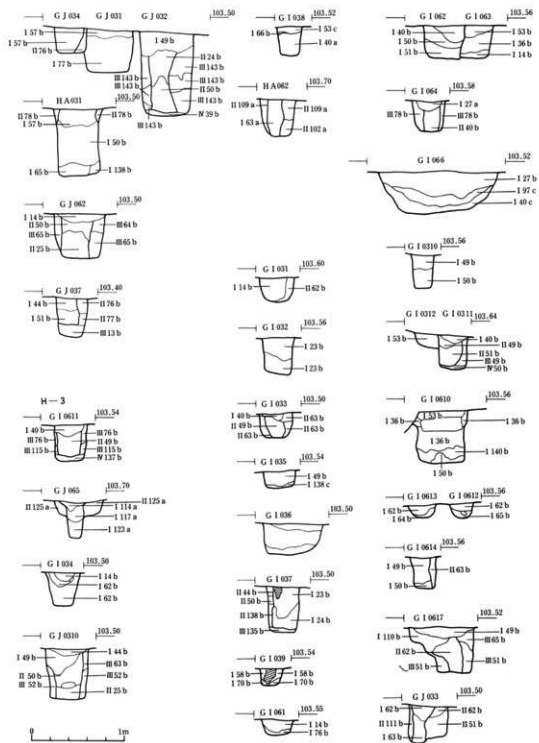


第81図 柱穴状ピット断面図(2)

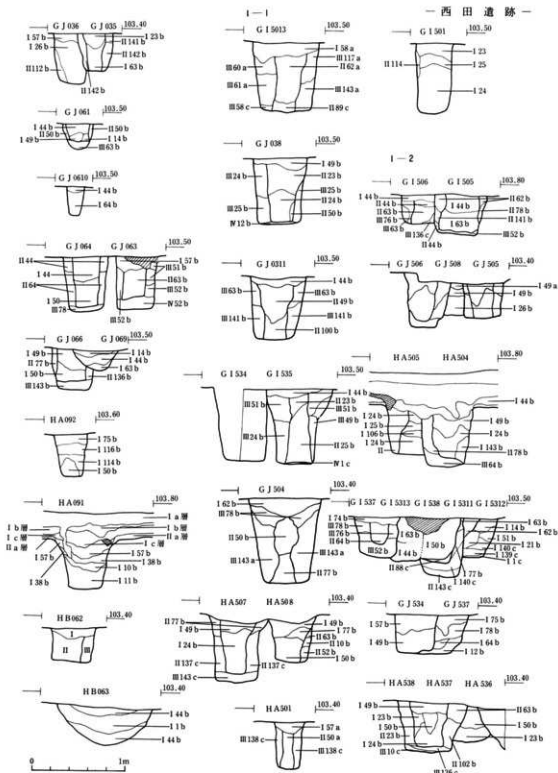


第82図 柱穴状ピット断面図(26)

— 西田遺跡 —

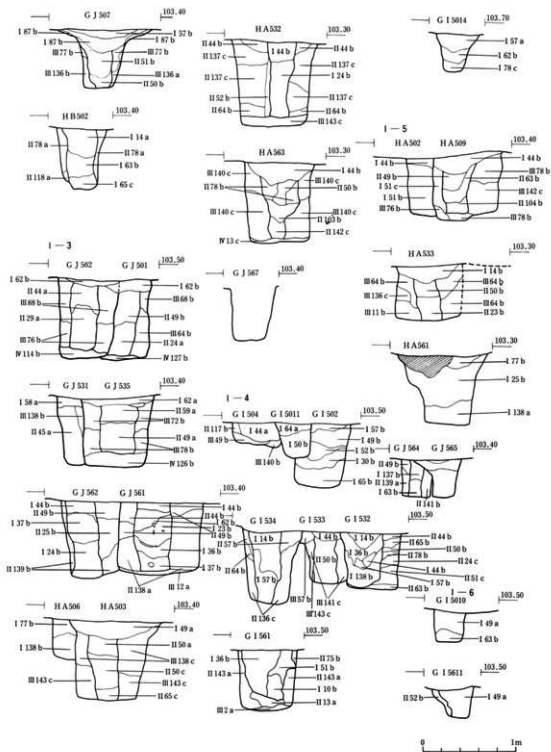


第83図 柱穴状ビット断面図(27)

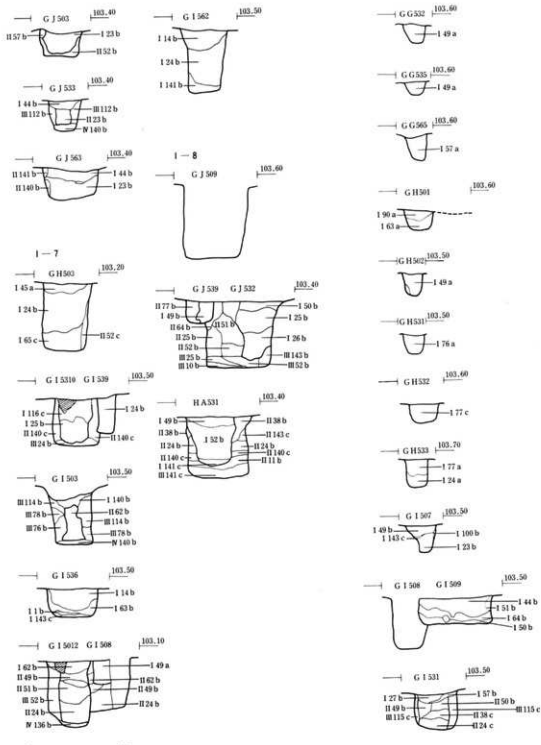


第84図 柱穴状ビット断面図⑦

— 西田遺跡 —

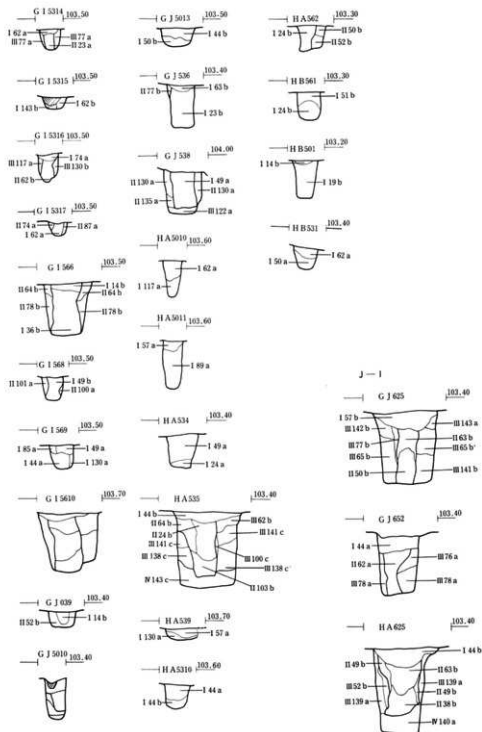


第85図 柱穴状ビット断面図(2)



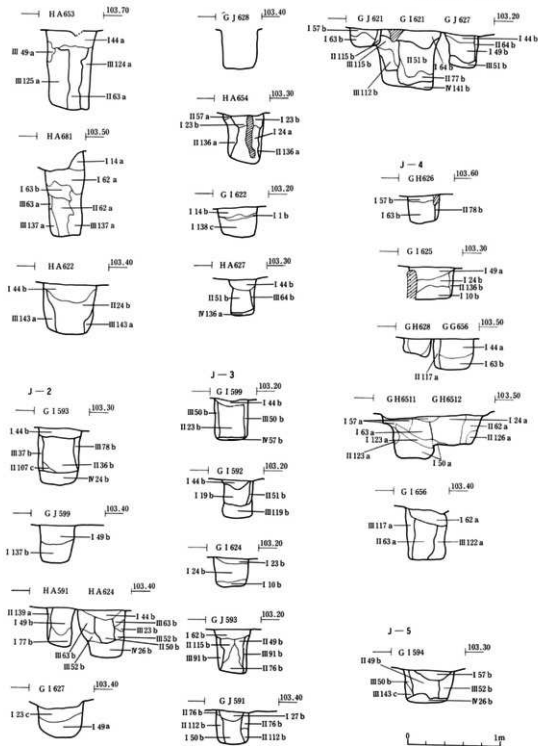
第86図 柱穴状ビット断面図(30)

— 西田遺跡 —



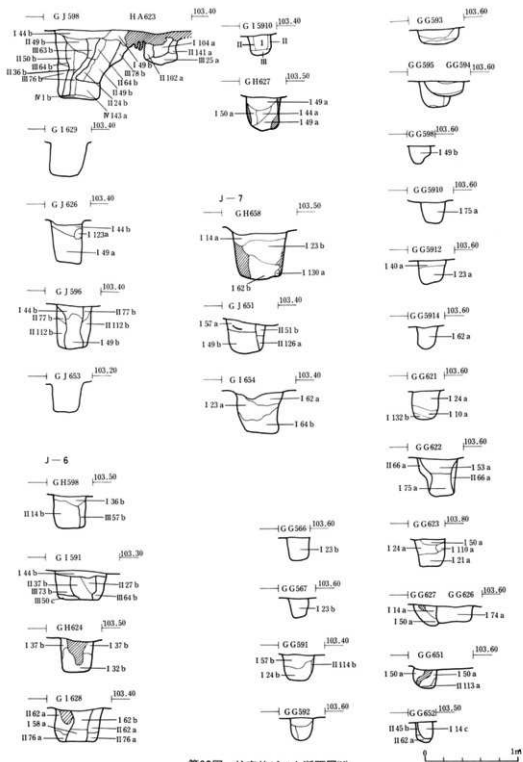
第87図 柱穴状ピット断面図(3)

— 西田遺跡 —

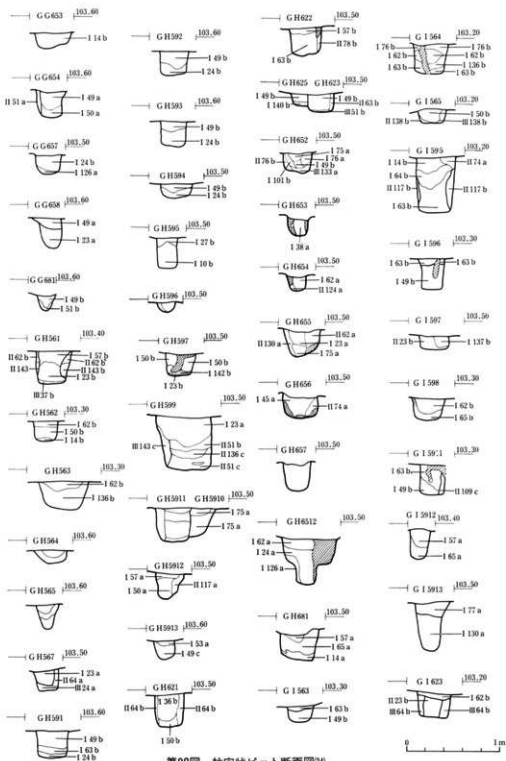


第88図 柱穴状ピット断面図(32)

一 西田遺跡 —

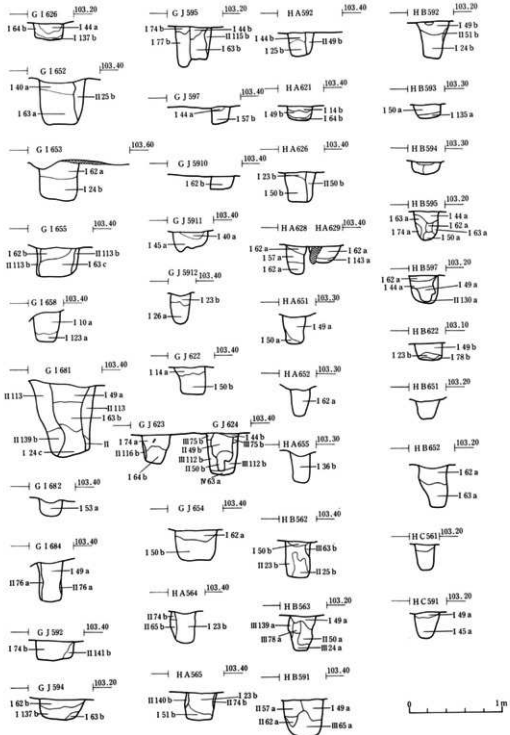


第89図 柱穴状ピット断面図(33)



第90図 柱穴状ビット断面図34

— 西田遺跡 —



第91図 柱穴状ビット断面図(35)

第6表 環状柱穴列の柱穴規模・重複関係一覧表

註 重複関係は次の表示で現わす。

新<旧、旧>新 >、<の記号のないものは重複関係が不明瞭なものである。

A 群

ビット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係	ビット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係
A 群					
FB 623	25×24×22		FF 597	36×22×20	
651	23×20×8		598	20×18×16	
652	27×25×30		599		<FF 595
653	24×26×25		621	80×70×88	<FF 625
654	40×35×		622	70×64×76	
FC 621	70×52×38		623	40×40×56	<FF 624・FF 626
622	30×28×28		624	44×42×110	>FF 623・FF 626
651	30×28×18		625	70×70×66	>FF 625
652	30×28×8	FC 655	626		FF 623・FF 624
653	24×24×6		627	24×22×14	FF 628・629
654	26×26×12		628	26×20×24	FF 627・629
FD 592	28×26×20		629	28×24×18	FF 627・628
621		FD 62住居跡	6210	28×26×20	
622			6211		FF 593
651		FD 652(F)	651	74×72×44	FE 653
FE 591	100×76×40	<FE 5910	653	39×32×34	
593	32×28×18	FE 598	654	20×18×24	
594			681	80×74×58	
595	46×40×44		FG 561	78×68×66	>FG 563・<FG 5611
596	20×16×16	<FE 592(F)	562		
597		FE 599	563		FG 56
598		FE 593	564		
599	16×14×22	FF 597	565	28×24×10	<FG 566・FG 5613
621		FE 622・>FE 628	566	28×26×32	>FG 564
622		FE 621・FE 628	567	10×8×36	
623	24×22×24		568		
624			569	28×24×30	
625	28×20×42	FE 593(F)	5610	-×73×62	
626	24×18×4		5611	58×58×38	>FG 561
627			5612	16×16×20	
628		FE 621・622・593(F)	5613	20×20×10	FG 565
651	78×76×70	FE 652・653	5614	16×16×16	
652	32×14×42	FE 651・653	5615	36×28×24	
653	66×48×68	FE 651・652・FF 651	591	30×20×28	
FF 562		>FF 564	592	68×64×68	
563	38×38×30		593	58×20×76	FG 5911
564	(120)×86×54	<FF 562	594	18×18×12	>FG 595
568	78×54×39	FF 569	595	24×22×32	<FG 594
569	78×52×46	FF 568	596		FG 597
591	46×34×48	FE 598	597	28×28×14	FG 596
592	32×30×30		598	24×20×8	
593	110×92×82	FF 6211	599	18×16×24	FG 5912
594	30×26×22		5910	32×28×42	
595	80×60×56	>FF 599	5911		FG 593
596	18×18×12		5912		

— 西田道跡 —

ビット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係	ビット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係
FG 5913	20×20×12		FA 592	30×30×15	
621	40×40×34		FB 502	27×25×40	
622	68×68×88	>FG624	503	85×78×45	
623	76×62×66	FG627	504	33×27×55	
624	44×22×42	<FG622	505	70×18×	
625	26×24×40		621	24×24×17	
626	36×30×40		622	18×15×8	
627	44×38×20	FG623	FC 505		
651	72×68×84		506	25×20×	
652		FG653・658・659	531	42×42×52	
653	60×48×18	FG652・654	562	42×38×66	FB56土墳墓
654	36×32×20	FG653	FD 501	20×20×38	FC502
655	44×36×66		502	42×24×10	FC502
656	34×26×36	FG657	503		FC502
657		FG656・6510・6511	504		
658	34×34×66	FG652・659	505		
659	48×34×16	FG652・658	506		
6510	36×22×32	FG657・6511	507	20×16×38	
6511	48×34×32	FG657・6511	531	60×39×54	<FD533
6512	28×14×26	重複ビットか	532	46×36×25	
681	44×36×18		533	44×28×24	>FD531
682	54×52×54		534	52×46×72	
FH 561	16×14×22	<FH562	535	46×24×32	>FD536
562	16×14×28	>FH561	536	26×16×40	<FD535
563		FH566土墳墓	537	22×22×24	
564			538	30×26×46	<FD539
565			539	22×18×32	>FD538
591	34×30×44		5310	20×19×14	
592			5311	16×14×10	
593	22×20×12		5312	25×20×16	
594	20×18×18		561	58×40×34	<FD563
595	20×20×20		562	98×84×40	
596	42×38×48		FD 563	24×24×24	>FD561
598	20×20×12		564	20×14×16	
599	18×18×24		565	26×24×15	
622	32×26×22		566	20×20×9	
623	26×22×24		591		
624	24×24×10		594		FD593(F)
652	30×30×34		595		FD593(F)
653	40×22×30	>FH654	596		FD593(F)
654	40×22×30	<FH653	FE 501	78×48×76	
655	40×26×18		502	18×18×50	<FE505
656	20×18×10		503	42×36×48	
681	40×36×48		504	36×34×32	
682	50×42×42		505	34×32×38	>FE502
B 群			506	36×26×58	
FA 591	17×16×14		507		
			508		

ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係	ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係
FE 531	50×48×49		FF 566	50×-×33	< FF 565
532		FE5310	567	22×22×28	FE 563
536	27×21×27		036	45±×41	
537	42×40×21		039	100±×60	< FF0310 FF0311 FF037
5310		FE 532	0310	95±×42	FF 036・FF 039
5311	20×20×20		0311	54±×67	FF 039
5312	48×40×34		FG 501	40×50×44	
5313	22×20×10		502	52×34×38	
5314	32×32×54		503		
5315	14×12×14		506		
562	42×36×60		509	23×23×22	
563	116×100×82		5010	20×20×12	
564		FE 561	5015	32×28×34	
565	22×21×8		5016	16×14×7	
566	18×14×16		5017	36×32×12	
567	16×14×24		5018	24×22×19	
568			5019	33×26×30	
5910		> FE 591	5020	18×18×32	
5911		FD 593・FE 5912	5021		FG 5315
5912		FE 5911	5022		FG 5023
FF 501	60×58×68	> FF 506	531	48×46×40	
502	42×40×32		532	46×40×26	
503	40×32×30		533	26×18×35	
504	35×28×61	FF 5012・5013	534	18×18×14	
506	18×10×22	< FF 501	535	16×14×7	
507	38±×60	FF 039	536	28×21×14	
508	34×28×42		537	12×10×8	
509	82×73×71		538	23×22×16	
5010	24×24×44		539	17×17×10	
5011	34×30×38		5310	18×18×12	
5012	(12×-×24)	FF 504・5012・5013	5311	18×18×13	
5013	21×13×45	FF 504・5012	5312	51×44×34	
5014	31×21×60	FF 504・5012	5313	20×14×14	
5015	16×16×13		5314	22×18×22	
531	51×50×51		5315	23×20×24	< FG 5021
532	36×34×16		5316	23×20×24	
533	37×30×24	FF 538	5317	20×20×20	
534	47×39×30	FF 535・537	FG 5318	20×18×10	
535	19×18×29	FF 534	5319	24×22×18	
536	40×35×46		5320		
537	46×38×26	FF 531	FH 504	30×23×14	FH 506
538	22×20×20	FF 533	505	20×20×16	
539	24×20×19		506	28×26×14	FH 504
5310	30×24×18		5010		
5311	33×30×15		5011	22×14×11	
5312	16×12×16		5015	50×40×16	
5313	12×17×17		531		
5314	30×28×19		532	20×16×16	
565	58×54×62	< FF 566	533	14×12×12	

一 西田遺跡一

ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係	ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係
FH 534	22×16×14	FH503 土壌墓	FE 031	35×31×29	
535	20×20×12		032	43±76	<FE062
536	14×14×16		033	25×21×13	
537			034	27±11	<FE062
			035	20×18×21	
C 群			036	35±34	
FD 033	23×20×14		061	70±34	>FD062
034	43±43	>FD039	063	27×25×33	
035	32±12	FD039	064	16×15×15	
039	66±38	FD034・035	065	23×22×31	
061	32×26×53		066		
062	36±21	<FE061	094	41×37×89	
063	19×16×7		095	19×16×27	
064	23×21×15		122	100±65	FD127 FD128 FE124
065	27±22		123	63×57×69	
066	44×42×74		124	24±37	FE122
091	82×74×72		126	24×19×13	
092	77×73×26		127	60±38	
093	45±44	FD0912	151	20×18×24	
094	39±48		FF 031	68±19	<FF032
095	20×14×32		032	25±19	>FF031
096	15×12×14		033	68±50	FF035
097	23×21×52		034	31×26×43	
098	15×15×8		035	34±50	FF033
099	15×14×9		037	63×47×50	
0910	23×19×17		038	43×39×14	
0911	18±24		0312	57±21	<FF062・FF034・FF0614
0912	21±25	FD093	061	54±59	<FF0616
0913	21×19×9		062	32×25×46	
0914	22×18×41		063	45±46	FF036
122	110×40×65		064	58×54×28	
123	24×19×28		065	30×26×33	
124	21×18×35		066	45±34	>FF096
125	16×12×8		067	33±22	>FF068
126	14×12×15		068	44±55	>FF069 <FF067
127	14±41		069	47±42	<FF098>FG062>FG061
128	32±54		0610	28×25×23	
129	17×16×9		0611	83±25	<FE062・FF0614
1210	19×17×8		0612	55±71	<FE062・FF0613・FF0615
1211			0613	30±41	<FF062・FF0612
152	67×56×34		0614	50±90	FE062・FF0611・FF0312
153	25×25×30		0615	80±30	<FF0617
154	25±24		0616	46±28	>FF061
155	16±30		0617	35±26	>FF0615
156	31±32	>FD157	0618	32±32	<FF0619
157	16±22	<FD156	0619	28±30	>FF0618
182			0620	52×45×80	
183			0621	23×23×14	
184			0622	33×29×24	

ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重 複 関 係	ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重 複 関 係
FF 0623	21 ± 25	FF096	FG 0610	55 ± 55	<FG065
091	30 ± 27		0611	25 × 20 × 10	
092	46 ± 49	>FF093	0612	23 × 19 × 35	
093	30 ± 30	<FF092	0614	30 ± 17	
094	64 × 51 × 43		0615	19 × 17 × 23	
095	79 ± 74	FF0916 FF096	0616	54 ± 77	<FG0618
096	50 ± 40	FF0623 FF066	0617	28 × 25 × 20	
097	27 × 25 × 35		0618	23 ± 19	>FG0616
098	13 × 12 × 10		091	84 ± 49	FG096
099	25 × 22 × 40		092	33 × 27 × 28	
0910	20 × 13 × 18		093	47 × 42 × 50	
0911	30 × 28 × 40		094	65 × 55 × 103	
0912	21 × 19 × 16		095	43 × 38 × 30	
0913	35 × 34 × 41	FF0914	096	42 ± 49	<FG091
0914	19 × 18 × 10	FF0913	097	25 × 20 × 7	
0915	20 ± 18		098	21 ± 10	
0916	22 ± 36	<FF095	099	25 ± 27	
121	58 × 50 × 73		0911	17 × 16 × 18	
122	43 × 37 × 21		0912	22 ± 21	>FG0913
123	23 × 22 × 52		0913	21 ± 11	<FG0912
FG 031	29 ± 21		0914	21 × 19 × 16	
032	81 ± 83	>FG033	FH 031	36 × 28 × 26	
033	63 ± 66	<FG032	032	26 × 23 × 22	
034	23 × 21 × 56		033	15 ± 19	
035	25 ± ×	FG036	034	32 × 26 × 57	
036	75 ± 43	FG035	035	35 × 30 × 38	
037	39 × 36 × 24		036	39 × 25 × 46	
038	22 × 17 × 9		037	19 × 14 × 10	FH038
039	32 × 27 × 13		038	17 × 12 × 18	FH037
0310	20 × 15 × 21		039	21 × 16 × 31	
0311	29 ± 15		0310		
501			0311		
504	38 ± 20		501	35 × 28 × 40	
505	21 ± 18	<FG507 FG508	502	31 × 25 × 23	
507	32 ± 13		507		
508	27 ± ×	>FG505	508		
5011	21 ± 30	>FG5012	509		
5012	69 ± 44	<FG5011	5012	30 × 22 × 9	
5013	34 ± 15	<FG5014	5013	31 ± 20	
5014	23 ± 12	>FG5013	5014	23 × 17 × 22	
061	37 ± 41	<FF069>FG062	061	68 ± 27	>FH064
062	37 ± 54	<FF069>FG061	062	22 × 21 × 13	
063	33 × 28 × 31		063	62 ± 37	FH0619
064	34 × 29 × 33		064	18 ± 16	<FH061
065	18 ± 19	>FG0610	066	26 × 23 × 26	
066	37 ± 32	<FG068	067	28 × 22 × 17	
067	46 ± 45	FG069	068	23 × 21 × 14	
068	87 ± 70	FG066 FG067	069	20 × 18 × 40	
069	52 ± 48	FG067	0611	19 × 17 × 28	

— 西田遺跡 —

ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係	ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係
FH 0612	18 ± 9	FH0614	FF 182	29 × 25 × 36	
0613	22 ± 28	< FH0614	183	17 × 12 × 43	
0614	26 ± 26	FH0612 FH0613	184	52 × 46 × 52	
0615	23 ± 34	< FH0616	FG 094	66 × 55 × 106	
0616	27 ± 29	> FH0615	0910	28 ± 59	
0617	25 × 22 × 13		121	65 ± 81	FG1213 FG124
0618	26 × 22 × 29		122	47 × 40 × 55	
0619	27 ± 32	FH063	123	37 × 33 × 25	
092	52 ± 46	FH093	124	47 ± 57	FG1213
093	55 ± 56	FH092 FH094	125	33 × 30 × 37	
094	37 ± 66	FH093	126	30 × 26 × 11	
FI 031			127	16 × 14 × 17	
035			128	40 ± 51	< FG129
036			129	37 ± 40	> FG128 < FG1210
062	33 ± 63	< FI 063	1210	46 ± 42	> FG129
063	35 ± 46	> FI 062 < FI 064	1211	37 × 30 × 35	
064	46 ± 70	> FI 063	1212	50 ± 33	FG1214
065	23 × 21 × 22		1213	25 ± 35	FG121・124
067	34 × 31 × 14		1214	40 ± 54	< FG1212
D 群			151	80 ± 97	> FG156
FE18住 pit 1	40 × 30 × 57		152	88 ± 66	> FG153
pit 2	29 ± 65	< FG158	153	68 ± 98	< FG152
pit 3	58 ± 58	< FG1816	154	45 ± 56	< FG156 < FG155
pit 4	33 × 30 × 47		155	53 ± 62	< FG154
pit 5	35 × 30 × 45		156	28 ± 34	< FG151 FG154
pit 6	30 × 27 × 48	< FE152	158	28 ± 10	FE18住 pit 2
pit 7	17 × 15 × 24		159	27 × 26 × 36	
FE 152	97 × 43 × 52	> FE18住 pit 5	181	36 ± 45	< FG182 FG185
181	70 × 50 × 30		182	38 ± 20	> FG183 FG186 FG181
182	90 ± 65		183	26 ± 35	< FG182
183	35 × 30 × 14		184	14 ± 24	FG185
212	27 × 24 × 21		185	27 ± 34	FG184 FG182
213	43 × 19 × 35		186	41 ± 57	< FG187
FF 151	59 × 50 × 69		187	31 ± 58	> FG186
152	66 ± 62	< FG1214	188	37 ± 49	< FG189 FG1814
153	23 × 21 × 43		189	42 ± 53	> FG188
154	30 × 28 × 76		1810	52 × 42 × 36	
155	37 × 33 × 45	< FF156	1811	35 ± 40	< FG1812
156	50 ± 35	> FF155	1812	77 ± 54	> FG1811
157	60 ± 37	< FF158	1814	65 ± 50	FG188 FH1810
158	58 ± 41	> FF157	1815	72 × 67 × 43	
159	16 × 15 × 33		1816	68 ± 57	> FE18住 pit 3
1510	32 × 28 × 25		211	36 × 35 × 30	
1511	20 × 17 × 36		FH 091	43 × 38 × 56	
1512	20 × 18 × 12		092	52 ± 46	FH093
1513	23 × 19 × 65		095	39 × 37 × 30	
1514	34 × 27 × 16		096	30 × 26 × 36	
181	67 × 60 × 62		097	23 × 20 × 17	
			098	23 × 18 × 14	

ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係	ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係
FH 099	44×37×61		FH 216	40×38×54	
0910	40×35×28		217	35±55	>FH218
0911	40±19		218	24±17	<FH217
0912	21×19×24		219	28×20×21	
0913	18×12×10		507	20×17×14	
121	42±32	<FH126	508	18±9	<FH509
122	25±32	FH1212	509	32±13	>FH508
123	72×61×90		F I 061	38×33×30	
124	42×34×36		066	17×14×31	
125	35±32		068		
126	45±36	>FH121	091	33±32	
127	46±38	>FH1210	092	19±21	F I 0913
128	47±52		093	29±24	
129	17±18		094	38±×	F I 124
1210	35±41	<FH127	095	24×21×22	
1211	35×34×41		096	27×25×20	
1212	31±7	FH122	097	20×17×22	F I 098
151	70±67		098	21×19×11	F I 091-097
152	32×34×45		099	20×17×15	
153	85±80	FH157・1512	0910	23±32	F I 124
154	80±66	<FH155・152	0911	26±24	F I 124
155	49±70	>FH154	0912	20±18	F I 124
156	30±47	<FH157	121	37±30	<F I 122
157	32±25	>FH156	122	55±38	>F I 121
158	22×18×28		123	52×43×65	
159	20×17×18		124	140±43	F1004 F1010 F1011 F1012
1510	35±39		125	40×32×22	
1511	40×35×62		126	54±76	<F I 127
1512	31×28×34		127	27±41	>F I 126<F I 1214
181	26×20×57		128	40±55	
182	41±58	>FH183<FH184	129	84×67×93	
183	37±50	<FH182	1210	40×30×42	
184	32±31	<FH182	1211	23×18×25	
185	48×39×27		1212	32×24×13	
186	40×30×24		1213	25×22×23	
187	66×56×64		1214	22±24	>F I 127
188	42×35×55		151	39±68	>F I 152
189	42×40×36		152	48±102	<F I 151
1810	38±54	FG1814	153	27±38	
1811	70×48×32		154	22×19×20	
1812	58×46×32		155	28×24×19	
1813	27±57	FH1814	156	40±33	>F I 157
1814	30±×	FH1813	157	46±68	<F I 156
1815	41×32×43		158	55±55	F I 159
211	30×25×26		159	35±42	F I 158
212	32×28×35		1510	35×32×47	
213	35×28×40		1511	44×41×43	
214	22×21×19		1512	59×55×77	
215	38×30×21		1513	31±33	>F I 1514

— 西田遺跡 —

ビット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係	ビット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係
FI 1514	32 ± 45	<FI 1513	FJ 183	33 ± 23	>FJ 181
1515	32 × 24 × 41		187	46 ± 45	>FJ 182 FJ 18pit 5
181	46 × 39 × 38		188	42 × 39 × 35	
182	51 × 45 × 82		FJ 18住pit 2	31 × 24 × 17	
183	27 × 25 × 30		pit 3	16 ± 21	FJ 182 FJ 187
184	43 × 41 × 9		pit 5	53 ± 11	<FJ 187
185	40 × 35 × 38		pit 6	82 ± 14	FJ 155
186	37 × 32 × 26		GA 091	50 ± 16	<GA 092
187	40 × 36 × 16		092	34 ± 20	>GA 091
188	40 × 35 × 54		125	40 × 30 × 52	
189	43 × 38 × 35		E 群		
1810	55 ± 60	>FI 1811	FI 21住pit 3		
1811	40 ± 22	<FI 1810	FI 215	101 × 77 × 50	
1812	41 × 34 × 27		216	86 ± 60	>FJ 212
211	24 × 22 × 38		FJ 18住pit 4	26 × 23 × 38	
212	29 × 27 × 15		FJ 153	73 ± 64	>FJ 153-(1) <FJ 153-(2)
213	30 ± 14		153-(1)	27 ± 44	<FJ 153
214	32 × 30 × 59		(2)	22 ± 26	>FJ 153
216		FJ 212	158	39 ± 48	<FJ 159 <FJ 18住pit 1
21住pit 1			159	31 ± 52	>FJ 158 <FJ 18住pit 1
2			FJ 18住pit 1	16 × 10 × 32	>FJ 158 <FJ 159
FJ 068			184	49 × 43 × 43	
091	33 ± 15		185	31 × 21 × 34	
092	48 × 35 × 43		186	34 × 29 × 46	
093	25 ± 18	>FJ 094	189	47 ± 41	>FJ 1810
094	20 ± 14	<FJ 093	1810	94 ± 44	<FJ 189
095	20 × 18 × 22		211	80 × 72 × 50	
096	21 × 20 × 20		212	20 ± 87	<FI 216
098			GA 093	29 ± 26	<GA 094
099			094	24 ± 15	>GA 093
121	24 ± 28		124	22 ± 23	
122	31 × 27 × 41		126	31 × 28 × 17	
123	22 × 17 × 29		1210	52 × 33 × 15	
124	37 × 32 × 57		154	28 × 22 × 29	
125	40 ± 22	>FJ 127	155	40 ± 15	
126	35 ± 37		156	29 × 26 × 23	
127	28 ± 43	<FJ 125	157	25 × 21 × 31	
128	27 × 22 × 28		158	45 × 40 × 36	
129	27 × 24 × 32		159	27 × 23 × 29	
1210	37 × 30 × 10		1515	58 × 52 × 22	
151	35 × 27 × 46		1516	60 × 40 × 55	
152	20 × 15 × 13		181	85 ± 50	<GA 183
154	39 × 24 × 48		182	82 × 66 × 64	
155	24 ± 13	FJ 18住pit 6	183	104 ± 32	>GA 184・GA 181・GA 186・ GA 186・GA 2113
156	66 ± 71		184	39 ± 23	<GA 183
157	30 ± 28	FJ 156	185	32 ± 45	<GA 183・GA 186・GA 2113
1510	25 × 19 × 40		186	38 ± 40	>GA 185
181	37 ± 47	<FJ 183	187	30 × 27 × 28	
182	70 ± 85	<FJ 187 FJ 18住pit 3			

ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係	ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係	
GA 211	36×31×48	<GA2110 <GA2114	GC 184	38×34×54		
2110	74±×43		185	36×34×50		
2111	48×44×51		186	47×41×35		
2112	56×44×31		187	37×31×17		
2113	35±×16		188	58×35×60		
2114	32±×49		189	63×58×28		
GB 123	31×29×30	<GA183>GA185 <GA2110>GA211	211	46±×49		>GC214
151	27×25×23		212	45±×76		>GC214
152	32×31×12	>GB157 <GB156 >GB159 <GB158	213	50×52×46		<GC211 GC212
153	27×23×29		214	57±		
154	35×27×40		GD 211	43×34×13		
155	40×30×10		212	33×31×21		
156	20±×15		213	48×42×46		
157	26±×30		214	41×34×22		
158	31±×27		F 群			
159	45±×49		GC 123	27±×12		GC124
1510	45×36×33		GD 121	30±×17		GD127
1511	26×25×20		122	29×22×19		GD121
1512	36×30×15	127	30±×21			
1513	30×29×18	128	25×22×16	GD156 GD155 GD159 GD158		
1514	23×20×26	151	27×24×16			
181	30×29×26	152	35×34×28			
182	24×23×15	153	22×21×27			
183	38×36×27	155	37×33×15			
184	55×35×14	156	31×26×17			
185	39×39×17	157	45×34×13			
186	70×58×25	158	35×32×45			
187	79±×50	159	30×26×14			
188	40±×47	1510	29×27×33			
189	66±×58	1511	31×27×43	<GD182 >GD181		
1810	33±×28	181	41±×54			
211	27×25×12	182	38±×25			
212		183	34×25×20			
213	41×35×24	184	36×34×24			
214	56±×56	185	35×30×20			
215	50±×37	186	38×34×48			
216	36×34×18	187	49×34×20			
GC 092	34×31×12	188	40±×49			
151	32×29×17	215	66×58×61			
152	44×40×30	216	69×53×39			
153	43×38×18	217	77×65×25			
154	42±×45	219	40×29×21			
155	35×25×29	2110	39×34×26			
156	27±×36	GE 121	33±×40	GE122		
157	27±×36	122	95±×23	GE121 GE124		
158	27±×36	124	20±×48	GE122		
181	26±×52	125	26×22×18	<GE155		
182	46±×34	151	33±×15			
183	33×27×20					

— 西田遺跡 —

ビット名	長径×短径 ×深さ (cm)	重複関係	ビット名	長径×短径 ×深さ (cm)	重複関係
GE 152	35 ± 18		GF 2110	53 ± 38	>GF 21住柱穴 1
153	33 × 27 × 18		GF 21住柱穴 1	28 ± 44	<GF 2110
154	31 × 28 × 19		GF 21住柱穴 4	28 × 24 × 36	
155	30 ± 7	>GE 151	2111	48 × 42 × 26	
156	37 × 36 × 22		2112	35 ±	GF 2113
157	26 × 24 × 17		2113	55 ±	GF 219 GF 2112
158	50 ± 45	<GE 1811	GG 185	20 × 19 × 32	
159	28 × 27 × 15		186	37 × 32 × 17	
1510	35 × 32 × 30		1811	39 × 26 × 27	
1512	26 × 24 × 15		1813	29 × 26 × 18	
1513	27 × 24 × 25		211	32 × 23 × 32	
1514	32 × 28 × 20		212	27 × 23 × 16	
1515	35 ± 35		213	28 × 21 × 14	
181	31 × 26 × 31		214	26 ± 14	<GG 215
182	50 × 37 × 28		215	29 ± 13	>GG 214
183	18 ± 15		216	66 ± 46	>柱穴 3
184	85 × 45 × 28		柱穴 3	× 44	GG 216
185	25 ± 14		217	31 × 27 × 22	
186	31 × 26 × 26		GH 211	31 × 24 × 12	
187	46 × 30 × 36	GE 189			
188	32 × 27 × 17		G 群		
1810	29 × 25 × 15		GE 065		
1811	52 ± 28	GE 158	066		
1812	28 ± 14	<GE 1813	067	27 × 25 × 16	
1813	24 ± 32	>GE 1812	093		
1814	20 × 17	GE 1812	094		
1815	25 ± 4		095		
212	36 ± 52	>GE 213	GF 037	25 × 24 × 20	
213	48 ± 67	<GE 212	063	43 × 37 × 37	
214	57 × 46 × 50		095	35 × 32 × 29	
215	73 × 60 × 45		096	39 × 37 × 26	
216	36 × 33 × 19		121	46 × 35 × 22	
217	28 × 23 × 15		122	33 × 31 × 25	
GF 181	52 × 44 × 35		123	50 × 42 × 57	
182	41 ± 32	<GF 188	125	48 × 30 × 19	
183	46 × 26 × 50		151	52 × 45 × 28	
184	35 × 30 × 14		152	38 × 35 × 60	
185	39 × 37 × 17		153	35 ± 22	
186	25 × 21 × 41		154	32 × 33 × 21	
187	27 × 24 × 20		GG 031	43 × 38 × 35	
188	31 ± 25	>GF 182	032	32 × 27 × 32	
211	20 ±	GF 212	033	26 × 24 × 13	
212	36 ± 31	>GF 214・GF 211・GF 217	034	40 × 33 × 17	
214	38 ±	<GF 212	035	50 ± 51	
215	48 ± 45	<GF 21住柱穴 2 GG 214	036	19 × 17 × 17	
GF 21住柱穴 2	26 ± 41	<GF 215	037	20 × 16 × 12	
217	37 ± 31	GF 212	061	46 × 42 × 15	
218	47 × 36 × 37		062	30 ± 19	GG 064
219	30 ±	GF 2113	063	44 × 40 × 43	

ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係	ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係
GG 064	31 ± × 33	GG062	GH 038	44 × 40 × 10	
065	36 × 30 × 20		039	50 × 44 × 32	
066	31 × 26 × 13		061	62 ± × 34	>GH062
067			062	45 ± × 29	<GH061
068	32 ± × 18	<GH0612	063	45 ± × 21	>GH0611
091		>GG093	064	30 ± × 15	<GH065
092	45 × 43 × 52		065	40 ± × 42	<GH064
093		<GG091 <GG121	066	42 ± × 37	
094	58 × 48 × 40		067	56 × 40 × 28	
095	29 × 28 × 23		068	40 × 35 × 37	
096	40 ± × 37	>GH097	069	36 × 29 × 31	
097	44 ± × 36	<GH096	091	67 × 59 × 51	
098			092	86 ± × 65	>GH093
121		>GG091 >GG093	093	57 ± × 71	<GH092
122	47 × 20 × 18		094	47 ± × 41	GH098
123	60 ± × 47	<GG124	095	60 × 50 × 40	
124	60 ± × 32	>GG123	096	45 × 38 × 47	
125	65 × 27 × 55		098	51 ± × 68	GH094
126			121	68 × 76 × 65	
127	56 ± × 26	GG128	122	58 ± × 69	>GH123
128	29 ± × 45	GG127	123	60 ± × 58	<GH122 <GH124
151	35 ± × 46		124	28 ± × 35	>GH124
153	27 × 23 × 25		125	36 ± × 28	
154	45 × 40 × 15		126	34 × 28 × 31	
155	42 ± × 35	<GG156	128	34 × 29 × 31	
156	43 ± × 21	>GG155	151	65 × 61 × 74	
157	31 ± × 32		152	51 × 49 × 53	
158	73 × 61 × 64		153	62 × 56 × 62	
181	44 × 37 × 54		154	38 × 34 × 26	
182	34 × 31 × 23		155	50 × 43 × 41	
183	37 × 33 × 19		156	55 × 48 × 80	
184	29 × 25 × 15		157	60 × 31 × 57	
187	35 × 31 × 18		158	61 ± × 34	>GH159 GH1510
188	44 × 40 × 56		159	20 ± × 26	<GH158 GH1510
501	25 × 22 × 10		181	26 × 20 × 26	
502	45 ± × 20	>GG503	182	63 ± × 51	GH183
503	33 ± × 31	<GG502	183	34 ± × 42	GH182
505	33 × 30 × 24		184	58 × 50 × 36	
506	30 × 27 × 21		185	28 × 23 × 38	
507	30 × 26 × 10		186	56 ± × 38	>GH187
508	30 × 25 × 19		187	70 ± × 43	<GH186
509	33 × 30 × 13		0610	45 × 40 × 48	
GH 031	28 ± × 29	GH034 >GH032	0611	23 ± × 37	<GH063
032	55 ± × 39	<GH031・GH034	0612	27 ± × 10	>GG068
033	29 × 24 × 24		0613	37 × 32 × 28	
034	36 ± × 17	GH031 GH032	0614	50 × 42 × 35	
035	38 × 30 × 30		1510	40 ± × 29	>GH158
036	26 × 25 × 31		1511	30 × 26 × 15	
037	35 × 31 × 30		211	29 × 24 × 11	

— 西田遺跡 —

ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係	ピット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係			
GH	561	GH566	GJ	151	GH564			
	562			152				
	563			153				
	564			154				
	565			181				
	566			182				
	GI			091		<GI 096	183	H 群
				092			184	
				093			031	
				095			032	
096		033						
099		034						
121		035						
122		036						
123		037						
124		038						
125	>GI 125	039	GI 067 GI 0616					
126	>GI 121	061						
127	>GI 125	062						
128	<GI 124・>GI 126	063						
129	>GI 128・<GI 125	064						
151	>GI 151	065						
152	<GI 126	066						
153	<GI 151	067						
154	>GI 129・<GI 127	068						
155	>GI 1511	0310						
156	<GI 1510	0311	<GI 0312					
157	GI 158	0312						
158	GI 156	0610						
182	GI 186・GI 184・GI 186	0611						
183	GI 185・GI 183	0612						
184	GI 183・GI 184	0613						
185	GI 183	0614						
186		0615						
211		0616						
0615		0617						
1210		094	>GI 066 GI 069					
1211	<GI 123	097						
1510	>GI 154	099						
1511	<GI 153	031						
1513		032						
GJ	091			033				
	092			034				
	093			035				
	121			036				
	122			037				
	123		061					
	124		062					
	125		063					
			064					
			065					
		066	GI 062 GI 067 GI 068 GI 0613 GI 036 GI 066					
		094						
		097						
		031						
		032						
		033						
		034						
		035						
		036						
		037						
		061	<GI 0312					
		062						
		063						
		064						
		065						
		066						
		067						
		068						
		069						
		070						
		071	>GI 0311					
		072						
		073						
		074						
		075						
		076						
		077						
		078						
		079						
		080						
		081	>GI 066 GI 069					
		082						
		083						
		084						
		085						
		086						
		087						
		088						
		089						
		090						
		091	GI 062 GI 067 GI 068 GI 0613 GI 036 GI 066					
		092						
		093						
		094						
		095						
		096						
		097						
		098						
		099						
		100						
		101	>GI 097					
		102						
		103						
		104						
		105						
		106						
		107						
		108						
		109						
		110						
		111	<GI 094					
		112						
		113						
		114						
		115						
		116						
		117						
		118						
		119						
		120						
		121	>GJ 034					
		122						
		123						
		124						
		125						
		126						
		127						
		128						
		129						
		130						
		131	<GJ 031					
		132						
		133						
		134						
		135						
		136						
		137						
		138						
		139						
		140						
		141	<GJ 036					
		142						
		143						
		144						
		145						
		146						
		147						
		148						
		149						
		150						
		151	>GJ 035					
		152						
		153						
		154						
		155						
		156						
		157						
		158						
		159						
		160						

ビット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係	ビット名	長径×短径 ×深さ(cm)	重複関係
GJ 064	49 ± 59		GI 532	55 ± 62	<GI 533
065	55 × 40 × 37		533	52 ± 55	>GI 532 >GI 534
066	40 ± 43	>GJ 069	534	58 ± 77	<GI 533 >GI 535
067	26 × 24 × 37		535	65 ± 81	<GI 534
068	41 ± 29	>GJ 0611	536	53 ± 30	GI 5316 GI 5312 GI 538
069	54 ± 20	<GJ 066 GJ 0610	537	47 ± 43	<GI 5313
0310	53 × 45 × 54		538	23 ± 65	GI 5313 GI 5311 GI 5312
0610	20 ± 31	GJ 069	539	25 ± 38	GI 536
0611	61 ± 105	<GJ 068 <GJ 0612	5310	50 ± 49	<GI 5310
0612	24 ± 45	>GJ 0611	5311	54 ± 64	>GI 539
0613	45 ± 45	<GI 068 GI 0616	5312	59 ± 41	GI 5313 GI 538 <GI 5312
HA 031	58 × 54 × 72		5313	44 ± 47	>GI 5311 GI 538 GI 536
032	46 ± 65		5314	25 ± 22	>GI 537 GI 538 GI 5311
061	48 × 39 × 42		5315	28 × 21 × 12	
062	40 × 32 × 40		5316	23 ± 27	GI 536
063	43 × 50 × 50		5317	20 × 24 × 13	
091	73 × 61 × 82		561	63 × 69 × 66	
092	47 × 37 × 46		562	57 × 48 × 66	
HB 061	33 ± 27	HB 062	566	52 × 49 × 55	
062	51 ± 36	HB 061	568	23 × 21 × 25	
063	101 ± 42	HB 064	569	28 × 21 × 25	
064	40 ± 29	HB 063	5610	68 × 62 × 66	
HC 061	33 × 32 × 38		5611	56 × 44 × 35	
I 群			GJ 038	58 × 55 × 71	
GG 532	24 × 22 × 21		039	29 × 31 × 16	
535	23 × 22 × 14		0311	62 × 57 × 66	
565	25 ± 30		501	77 ± 86	>GJ 502 GJ 509
GH 501	33 × 32 × 21		502	65 ± 85	<GJ 509 GJ 501
502	23 × 20 × 24		503	49 × 45 × 25	
503	50 ± 72	GI 501	504	65 ± 91	GJ 5010
531	23 × 20 × 21		505	47 ± 46	<GJ 508
532	34 × 25 × 21		506	50 ± 59	<GJ 508
533	25 × 22 × 30		507	105 × 90 × 62	
GI 501	49 ± 75	GH 503	508	66 ± 37	
502	80 ± 69	GI 503 >GI 5011	509	70 ± 79	GJ 5011 GJ 501 GJ 501
503	47 ± 52	GI 502	5010	22 ± 44	GJ 504
504	52 ± 24	>GI 5011	5011	45 ± 62	GJ 509
505	62 ± 44	<GI 506	5013	40 × 35 × 20	
506	33 ± 31	>GI 505 GI 5014	531	68 ± 76	GJ 535 GJ 538
507	34 × 32 × 29		532	78 ± 71	GJ 535 GJ 539
508	46 ± 54	>GI 5012 GI 5010 >GI 509	533	37 × 30 × 32	
509	80 ± 28	GI 5010 <GI 508 GI 5012	534	55 ± 42	<GJ 537
5010	33 ± 32		535	85 ± 77	<GJ 531 GJ 532
5011	30 ± 35	<GI 502 <GI 504	536	43 × 31 × 44	
5012	472 × 71	<GI 508 >GI 509	537	53 ± 42	>GJ 534
5013	72 × 64 × 75		538	47 ± 45	GJ 531
5014	45 ± 41	GI 506	539	31 ± 23	<GJ 532
531	45 ± 37	5310	561	90 ± 78	<GJ 562
			562	82 ± 83	>GJ 561